

250 ADVENTURE

ART. NO. 3214575ja



このたびは KTM のモーターサイクルをお買い上げ頂き、ありがとうございます。最新のスポーツモーターサイクルを手に入れたお客様に、これを十分満喫頂くため、適切なメンテナンスと手入れを行う事をお願いしています。

安全で楽しい走行をお楽しみ下さい。

お持ちのモーターサイクルのシリアルナンバーを以下に記して下さい。

車両識別番号 (📖 頁 12)	正規ディーラー店スタンプ
エンジンナンバー (📖 頁 12)	
キーナンバー (📖 頁 12)	

本オーナーズマニュアルは、印刷時点現在、当該モデルシリーズの最新仕様に基づいて作成されています。しかし、車両の更なる改良により、製品と若干の差異が生じる可能性があります。

ここに記載された内容について、当社は何ら義務を負わないものと致します。KTM Sportmotorcycle GmbH は、記載された技術内容、価格、色、形、部品、サービス内容、構造、装備などにつき予告および理由の開示なく変更、代替品なく抹消、地域の状況に合わせ変更、並びに特定モデルの生産を予告なく停止する権利を有するものとし、商品入手の可否、写真・イラスト並びに記載内容との差異、印刷ミス並びに誤記に対し、KTM は一切の責任を負いかねます。写真に使用されているモデルには、一部量産製品にはない特殊装備が施されています。

© 2024 KTM Sportmotorcycle GmbH, Mattighofen オーストリア

無断複写・転載を禁じます。

一部または全部並びにその種類を問わず、複製・複写には必ず著作者の書面による許可を要します。



ISO 9001(12 100 6061)

国際品質管理規格 ISO 9001 に基づき、KTM では、到達しうる最高の製品品質を実現するための品質保証プロセスを導入しています。

発行: TÜV SÜD Management Service GmbH

REG.NO. 12 100 6061

KTM Sportmotorcycle GmbH

Stallhofnerstraße 3

5230 Mattighofen, オーストリア

以下のモデルがこの書類の内容に該当します。:

250 ADVENTURE EU (F5203V7, F5203V8)

250 ADVENTURE B.D. EU (F5203V7L, F5203V8L)

250 ADVENTURE B.D. 2 EU (F5203V1, F5203V2)

250 ADVENTURE JP (F5286V5, F5286V6)

250 ADVENTURE AR (F5242V5, F5242V6)

250 ADVENTURE CO (F5241V5, F5241V6)

250 ADVENTURE PH (F5282V5, F5282V6)



3214575ja

2024 年 04 月

1	表示方法	5	6.10	フィルターキャップを開ける	16
1.1	本書の表示マークについて	5	6.11	フィルターキャップを閉める	17
1.2	使用文字種について	5	6.12	シートロック	18
2	安全の手引き	6	6.13	車載工具	18
2.1	使用環境	6	6.14	サイドグリップ	18
2.2	誤使用	6	6.15	同乗者用フットレスト	18
2.3	安全の手引き	6	6.16	シフトレバー	19
2.4	危険度と表示マーク	6	6.17	ブレーキペダル	19
2.5	改造に関する警告	7	6.18	サイドスタンド	19
2.6	使用時の安全性	7	7	コンビネーションインスツルメント	20
2.7	保護服	7	7.1	コンビネーションインスツルメント	20
2.8	作業上の決まり	8	7.2	起動とテスト	20
2.9	環境	8	7.3	警告	20
2.10	オーナーズマニュアル	8	7.4	インジケーターランプ	22
3	重要な注意事項	9	7.5	シフトランプ	23
3.1	メーカー保証、法定保証	9	7.6	シフト表示	23
3.2	油脂類、ケミカル類	9	7.7	ディスプレイ	24
3.3	スペアパーツ、アクセサリ	9	7.8	燃料レベル表示	25
3.4	サービス	9	7.9	クーラント温度の表示	25
3.5	写真	9	7.10	機能ボタン	26
3.6	カスタマーサービス	9	7.11	ODO 表示	26
4	各部の名称	10	7.12	ABS 表示	26
4.1	各部の名称 左前方 (代表写真)	10	7.13	Info 表示	26
4.2	各部の名称 右後方 (代表写真)	11	7.14	TRIP 1 表示	27
5	シリアルナンバー	12	7.14.1	Time Trip 1	27
5.1	車両識別番号	12	7.14.2	Average Speed Trip1	27
5.2	タイプラベル	12	7.14.3	Avg Fuel Cons 1	28
5.3	エンジンナンバー	12	7.14.4	Fuel Range	28
5.4	キーナンバー	12	7.15	TRIP 2 表示	28
6	操作各部	13	7.15.1	Time Trip 2	29
6.1	クラッチレバー	13	7.15.2	Average Speed Trip2	29
6.2	ブレーキレバー	13	7.15.3	Avg Fuel Cons 2	29
6.3	スロットルグリップ	13	7.15.4	Fuel Range	30
6.4	左ハンドルバーのスイッチ	13	7.16	ABS モードを調節する	30
6.4.1	コンビネーションスイッチ	13	7.17	単位を設定する	31
6.4.2	パッシングライトスイッチ	14	7.18	時刻を設定する	31
6.4.3	ライトスイッチ	14	7.19	シフトランプを設定する	32
6.4.4	ターンシグナルスイッチ	14	8	エルゴノミクス	34
6.4.5	ホーンスイッチ	14	8.1	ハンドルバーの位置を調節する	34
6.5	右ハンドルバーのスイッチ	15	8.2	ウインドシールドを調節する	35
6.5.1	エマージェンシーOFFスイッチ	15	8.3	ブレーキペダルのステップを調節する	36
6.5.2	スタートキー	15	8.4	ブレーキペダルの基本位置を調整する	36
6.6	イグニッション/ハンドルロック	15	8.5	シフトレバーを調節する	37
6.7	ハンドル操作をロックする	15	9	運転操作の前に	39
6.8	ハンドル操作のロックを解除する	16	9.1	初めて運転操作を行う際の注意	39
6.9	電装系アクセサリ用コンセント	16	9.2	慣らし運転をする	40
			9.3	車両に荷物を積む	40

10	運転上の注意事項	41	14.4	前輪ブレーキのブレーキフルードを補給する	65
10.1	運転操作の前に必ず行う点検・メンテナンス作業	41	14.5	前輪ブレーキのブレーキパッドとパッドピンを点検する	66
10.2	エンジン始動	41	14.6	ブレーキペダルの遊びを点検する	67
10.3	発進	42	14.7	ブレーキペダルの遊びを調節する	67
10.4	シフト操作と走行	43	14.8	後輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検する	68
10.5	ブレーキをかける。	45	14.9	後輪ブレーキのブレーキフルードを補給する	69
10.6	停止と駐車	46	14.10	後輪ブレーキのブレーキパッドとパッドピンを点検する	70
10.7	輸送	47	15	車輪、タイヤ	71
10.8	燃料を給油する	47	15.1	前輪を取り外す	71
11	サービスプラン	49	15.2	前輪を取り付ける	71
11.1	補足情報	49	15.3	後輪を取り外す	72
11.2	必須作業	49	15.4	後輪を取り付ける	73
11.3	推奨作業	50	15.5	後輪のハブダンパーを点検する	75
12	シャーシを調整する	51	15.6	タイヤの状態を点検する	75
12.1	ショックアブソーバーのスプリングプリロードを調節する	51	15.7	タイヤ空気圧を点検する	76
13	サービス作業シャーシ	52	16	電装系	78
13.1	車両をリアスタンドで持ち上げる	52	16.1	12V バッテリーを取り外す	78
13.2	リアスタンドから車両を降ろす	52	16.2	12V バッテリーを取り付ける	79
13.3	フロントスタンドで車両を持ち上げる	52	16.3	12V バッテリーを充電する	79
13.4	フロントスタンドから車両を降ろす	53	16.4	メインヒューズを交換する	81
13.5	フォークレグのダストシールを清掃する	53	16.5	ABS のヒューズを交換する	82
13.6	リアシートを取り外す	54	16.6	各電装系部品のヒューズを交換する	83
13.7	リアシートを取り付ける	55	16.7	ヘッドライトバルブを交換する	85
13.8	フロントシートを取り外す	55	16.8	ヘッドライトの設定を点検する	89
13.9	フロントシートを取り付ける	55	16.9	ヘッドライトの照明距離を調節する	90
13.10	チェーンの汚れを点検する	56	16.10	診断プラグ	90
13.11	チェーンを清掃する	56	16.11	ACC1 および ACC2 前方	90
13.12	チェーンの遊びを点検する	57	16.12	ACC1 と ACC2 後方	91
13.13	チェーンの遊びを調節する	57	17	冷却システム	92
13.14	チェーン、リアスプロケット、フロントスプロケットを点検する	58	17.1	冷却システム	92
13.15	エンジンガードを取り外す	60	17.2	不凍液とクーラントのレベルを点検する	92
13.16	エンジンガードを取り付ける	60	17.3	クーラントのレベルを点検する	94
13.17	エンジンガード固定ブラケットを取り外す	61	17.4	クーラントを排出する	95
13.18	エンジンガード固定ブラケットを取り付ける	61	17.5	冷却システムにクーラントを注入してエア抜きをする	96
13.19	フロントフェンダーを取り外す	62	17.6	クーラントを交換する	97
13.20	フロントフェンダーを取り付ける	62	18	エンジンを調整する	99
14	ブレーキシステム	63	18.1	アクセルワイヤーの遊びを点検する	99
14.1	アンチロック・ブレーキシステム (ABS)	63	18.2	アクセルワイヤーの遊びを調節する	99
14.2	ブレーキディスクを点検する	64			
14.3	前輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検する	64			

18.3	クラッチレバーの遊びを点検する	99
18.4	クラッチレバーの遊びを調節する	100
19	エンジンで行うサービス作業	101
19.1	エンジンオイルのレベルを点検する	101
19.2	エンジンオイルとオイルフィルターを交換し、オイルスクリーンを清掃する	101
19.3	エンジンオイルを補給する	103
20	清掃、手入れ	105
20.1	洗車をする	105
20.2	冬季運転における点検・メンテナンス作業	106
21	保管	107
21.1	保管	107
21.2	保管後、運転操作の前に	108
22	トラブルシューティング	109
23	仕様一覧	111
23.1	エンジン	111
23.2	締付けトルク、エンジン	112
23.3	容量	114
23.3.1	エンジンオイル	114
23.3.2	クーラント	114
23.3.3	燃料	114
23.4	シャーシ	114
23.5	電装系	115
23.6	タイヤ	116
23.7	フロントフォーク	116
23.7.1	EU/JP/AR/CO	116
23.7.2	PH	116
23.8	ショックアブソーバー	116
23.8.1	EU/JP/AR/CO	116
23.8.2	PH	117
23.9	締付けトルク、シャーシ	117
24	油脂類	119
25	ケミカル類	121
26	規格	122
27	用語索引	123
28	表示マーク索引	124
28.1	赤のマーク	124
28.2	黄色とオレンジ色のマーク	124
28.3	緑と青のマーク	124
	索引	125

1.1 本書の表示マークについて

以下、使用されている表示マークについて説明します。



予想される正常な反応を示します。例: 特定の作業ステップや機能実行の結果。



想定外の異常な反応を示します。例: 特定の作業ステップや機能実行の結果。



専門知識や技術知識を必要とする作業を示しています。ご自身の安全のため、これら作業はKTM正規ディーラーで実施するようにして下さい。特別な訓練を受けた専門技術者が必要な専用ツールを使って、お客様の車両を最適な状態にメンテナンス致します。



参照頁を示します (詳細については記載の頁を参照して下さい)。



補足情報や役に立つ情報を示します。



確認ステップの結果を示します。



必要に応じた再加工を含む作業の終わりについて示します。

1.2 使用文字種について

以下、使用されている文字種について説明します。

固有名詞

固有名詞を示します。

名前®

登録商標を示します。

マーク™

トレードマークを示します。

下線を引いた用語

車両の技術的詳細を参照または用語解説にある専門用語を示します。

2 安全の手引き

2.1 使用環境

この車両は、通常の道路走行や柔らかな地面（未舗装道路）で想定される使用環境に耐えられるような設計・構造となっています。この車両は、サーキットでの走行は想定されていません。



参考

承認を受けたモデルのみ、公共道路での走行が許可されています。

2.2 誤使用

車両は使用目的に従った方法でのみ使用してください。

使用目的に従わない場合、人、車両、そして環境への危険の原因となります。

使用目的に従った使用、また定義されている使用環境の範囲外で車両を使用した場合、それは誤使用とみなされます。

油脂類およびケミカル類がそれぞれの使用に適した仕様条件を満たしていない場合も誤使用とみなされます。

2.3 安全の手引き

記載された製品の安全な環境のために安全の手引きに留意して下さい。そのためにも本説明書および同梱されたその他すべての説明書をよくお読み下さい。この安全の手引きは文章が見やすく記載され、重要箇所はリンクが添付されています。



参考

記載された製品のよく見える箇所に注意・警告表示が貼付されています。注意または警告表示をはがさないで下さい。これら表示がないと危険が認識できず、お客様ご自身並びに周囲の方々が怪我をされる恐れがあります。

2.4 危険度と表示マーク



危険

適切に対応しないと直接および確実に死亡や後遺症を残す重傷につながる危険を示します。



警告

適切に対応しないと死亡や後遺症を残す重傷につながる恐れのある危険を示します。



注意

適切に対応しないと場合によっては軽傷につながる恐れのある危険を示します。

情報

適切に対応しないと車両または部品に重大な損傷をもたらす危険を示します。



情報

適切に対応しないと環境汚染につながる危険を示します。

2.5 改造に関する警告

ノイズダンパー部品の改造を行うことは禁じられています。以下の処置および該当する状態の製造は法的に禁じられています:

- 1 防音のために取り付けられている装備や部品のいずれかを、新車がエンドユーザーに販売または引き渡される前に取り外したり、機能しないように変更したりする事。あるいは車両の使用期間中にメンテナンス、修理、交換以外の目的で取り外したり、機能しないように変更したりする事。
- 2 そのように設置したり部品を取り外す、もしくは機能しないようにした車両の使用。

違法改造の例:

- 1 メインサイレンサー、バッフルプレート、マニホールド、その他排気システムの部品の取り外しもしくは穿孔。
- 2 インテークシステム部品の取り外しまたは穿孔。
- 3 非合法的なメンテナンス状態での使用。
- 4 車両の可動部品、あるいは排気装置またはインテークシステムの部品を製造者が承認していない部品と交換する事。

2.6 使用時の安全性



危険

事故の危険性 運転能力および判断力が十分でない運転者は、自身および他の方への危険となります。

- アルコール、薬物、薬品などにより運転能力が低下している場合、車両の運転をしないでください。
- 肉体的、精神的に運転能力が低下している場合も、車両の運転をしないでください。



危険

中毒の危険性 排気ガスは毒性があり、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンを稼働する際は十分に換気が行えるように常に確認してください。
- 閉め切った室内でエンジンを始動したり、稼働状態にする場合は、適切な排気ガス抽出装置を使用してください。



警告

火傷の危険性 一部の部品は運転中に熱くなります。

- 車両部品が冷めるまで排気装置、ラジエーター、エンジン、ダンパー、ブレーキシステムなどの部品には触らないでください。
- 車両部品を十分に冷ましてから作業を実行してください。

車両が完璧に整備された状態である事を必ず確認し、法規定に則った安全で環境に優しい運転を心がけて下さい。

公道では適切な運転許可証が必要となります。

安全性を損なうような不具合がある場合は、すぐに KTM 正規ディーラーで処置を受けて下さい。

車両に貼付されている注意・警告表示に従って下さい。

2.7 保護服



警告

怪我の危険性 不足および欠陥のある保護服の着用は安全面での危険性を高めます。

- 走行時は必ずヘルメット、ブーツ、手袋、プロテクターが取り付けられたズボンやジャケットなどの保護服を着用してください。
- 損傷等がなく、かつ法規制に従った保護服を常に着用して下さい。

KTM ではお客様の安全性のためにも運転の際には適切な保護服を必ず着用するようお勧めしています。

2.8 作業上の決まり

特に断りのない限り、作業ごとにイグニッションをオフにするか (イグニッションスイッチまたはトランスポンダキーが装備されているモデル)、エンジンを停止する (イグニッションスイッチまたはリモートキーが装備されていないモデル) 必要があります。

作業の中には専用ツールを必要とするものがあります。これらの特殊工具が車両の納品範囲に含まれていない場合は、記載されている品番で注文することができます。例：ペアリングプーラー (15112017000)

特に断りのない限り、すべての作業および記載内容には通常の条件が適用されます。

外気温	20 °C
外気圧	1,013 mbar
相対湿度	60 ± 5 %

組み立ての際再利用できない部品 (緩み止めスクリューとナット、拡張ネジ、ガスケット、Oリング、割りピン、リテーナープレートなど) は新しい部品と交換します。

スクリュー接合にはゆるみ止め剤 (Loctite®など) が必要になることがあります。使用の際にはメーカーの特別な注意事項を参照して下さい。

新しい部品にゆるみ止め剤 (Precote®など) がすでに塗布されている場合、追加的にゆるみ止め剤を重ねて塗布する必要はありません。

分解後も再度使用する部品は清掃し、磨耗や損傷がないかを点検します。磨耗・損傷した部品は交換します。

作業する場所が清潔であることを確認し、必要であれば解体前に部品を洗浄します。汚れが付着してしまうと磨耗が早まり、損傷につながります。

修理およびサービス終了後は、車両が安全に使用できる状態である事を確認して下さい。

2.9 環境

責任感をもってモーターサイクルと接する事で問題や対立の発生を避ける事ができます。モーターサイクルの明るい未来のためにも、法律で定められた範囲でモーターサイクルを使用し、環境意識を持ち、他人の権利を尊重する事を常に心がけて下さい。

古い燃料、その他燃料およびケミカル類、古くなった部品の廃棄は各国の法律および規則を遵守して下さい。

モーターサイクルは古い車両の廃棄に関する EU 指令の対象ではないので、法的な規定はありません。KTM 正規ディーラーにお気軽にお尋ね下さい。

2.10 オーナーズマニュアル

初めてツーリングに出る前に、このオーナーズマニュアルを全頁注意して読んで下さい。車両の操作や取り扱い、メンテナンスのために有用なヒントや情報が盛り込まれています。車両を自分に合った最適な状態に調整し、ご自身を怪我から守る対処法を知るにはこれ以外の方法はありません。

ヒント

必要な時にいつでも確認できるよう、オーナーズマニュアルは端末などに保存しておいて下さい。

車両について、ここに記載されていない情報をお求めの場合やご不明な点がございましたら、KTM 正規ディーラーまでお問い合わせ下さい。

オーナーズマニュアルはモーターサイクルの重要な部品の一部です。転売する際、オーナーズマニュアルは新しい所有者が新たにダウンロードしなければなりません。

オーナーズマニュアルは、QR コードまたは納車証明書に記載されているリンクから何度もダウンロードすることができます。

オーナーズマニュアルは KTM 正規ディーラーで、または KTM ホームページからダウンロードすることができます。印刷されたオーナーズマニュアルは、KTM 正規ディーラーから注文することもできます。

KTM インターナショナルサイト: KTM.COM

3.1 メーカー保証、法定保証

サービスプランに規定された作業は必ず KTM 正規ディーラーで行い、電子カスタマーサービスブックに証明を受けて下さい。これをしないと一切の保証請求が無効となります。また、車両の変更・改造に起因する直接・間接の損害はメーカー保証の対象外です。

3.2 油脂類、ケミカル類



情報

環境汚染 燃料の不適切な取り扱いは、環境汚染の原因となります。

- 燃料を地下水、土壌、下水道に流してはいけません。

オーナーズマニュアルおよび仕様に応じた油脂類とケミカル類を使用して下さい。

3.3 スペアパーツ、アクセサリー

ご自身の安全のため、KTM により承認または推奨されたスペアパーツ並びにアクセサリーのみを使用し、またこれら部品の取り付けは KTM の正規ディーラーで行って下さい。それ以外の製品およびその使用に起因する損害について、KTM は一切その責任を負いかねます。

関連する説明文で () 内に記載されているスペアパーツやアクセサリーもあります。KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。

お手持ちの製品でご使用になれる最新の KTM PowerParts については、KTM のホームページをご覧ください。

KTM インターナショナルサイト: KTM.COM

3.4 サービス

故障を避け、早期摩耗を防ぐには、オーナーズマニュアルの記載に従ってエンジンとシャーシのサービス、手入れ、調整作業を行う事が重要です。シャーシの調整を間違ると、シャーシ部品の損傷や破損を引き起こす恐れがあります。

強い雨、誇り、砂、厳しい暑さの中、あるいは重い荷物を積むなど、過酷な条件で車両を使用すると、駆動装置、エアフィルター、プレーキシシステム、サスペンションなどで部品の磨耗を大幅に早める原因となります。その結果、発車前にその都度の点検、または次回サービス実施時期に達する前に部品の交換が必要になることがあります。

規定の慣らし運転時間とサービス時期を必ず守って下さい。これは、車両の寿命を長くするために非常に重要な事です。

走行距離と時間間隔は最初のインターバルで決定します。

3.5 写真

注意事項に記載された写真には一部特別装備が施されています。

より分かりやすく表示および説明するために一部部品を取り外したり、記載していない場合があります。これらの記述に関する取り外しは必ずしも必要ではありません。記載内容に留意して下さい。

3.6 カスタマーサービス

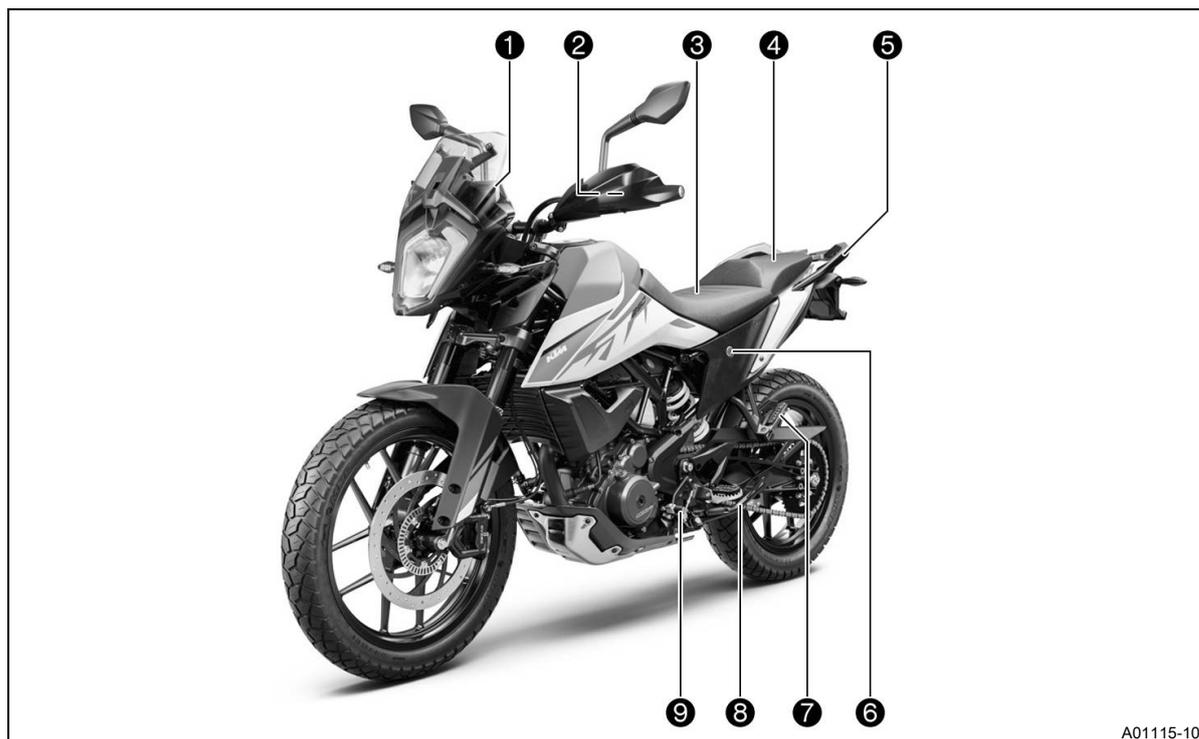
お手持ちの製品や KTM に関するご質問については、KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。

KTM 正規ディーラーの一覧は KTM のホームページに掲載されています。

KTM インターナショナルサイト: KTM.COM

4 各部の名称

4.1 各部の名称 左前方 (代表写真)



A01115-10

- ① コンビネーションインスツルメント
- ② クラッチレバー (📖 頁 13)
- ③ フロントシート
- ④ リアシート
- ⑤ サイドグリップ (📖 頁 18)
- ⑥ シートロック (📖 頁 18)
- ⑦ 同乗者用フットレスト (📖 頁 18)
- ⑧ サイドスタンド (📖 頁 19)
- ⑨ シフトレバー (📖 頁 19)

4.2 各部の名称 右後方 (代表写真)

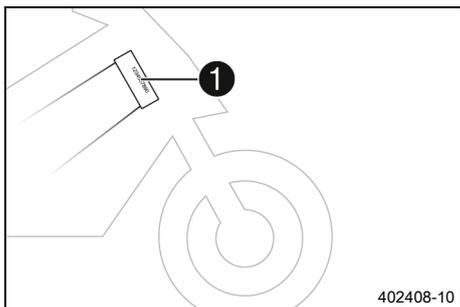


A01116-10

- ① 車載工具 (📖 頁 18)
- ② ライトスイッチ (📖 頁 14)
- ② ターンシグナルスイッチ (📖 頁 14)
- ② ホーンスイッチ (📖 頁 14)
- ③ イグニッション / ハンドルロック (📖 頁 15)
- ④ エマージェンシーOFFスイッチ (📖 頁 15)
- ④ スタートキー (📖 頁 15)
- ⑤ スロットルグリップ (📖 頁 13)
- ⑥ ブレーキレバー (📖 頁 13)
- ⑦ 車両識別番号 (📖 頁 12)
- ⑦ タイプラベル (📖 頁 12)
- ⑧ ブレーキペダル (📖 頁 19)

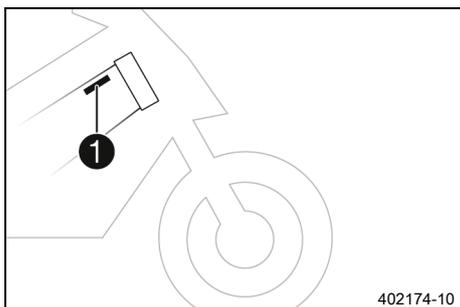
5 シリアルナンバー

5.1 車両識別番号



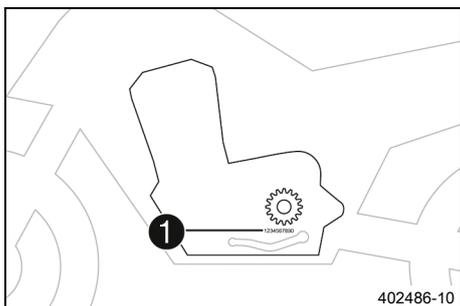
シャリヨウシキベツバンゴウ①はステアリングヘッドの右に刻印されています。

5.2 タイプラベル



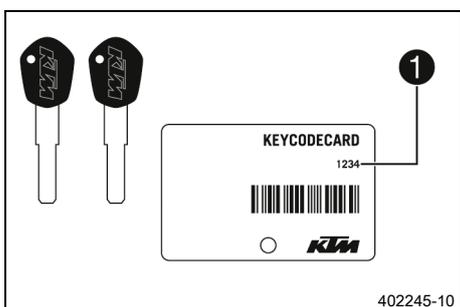
タイプラベル①はステアリングヘッド右後方のフレームに貼付されています。

5.3 エンジンナンバー



エンジンナンバー①はエンジンの左側、フロントスプロケットの下に刻印されています。

5.4 キーナンバー

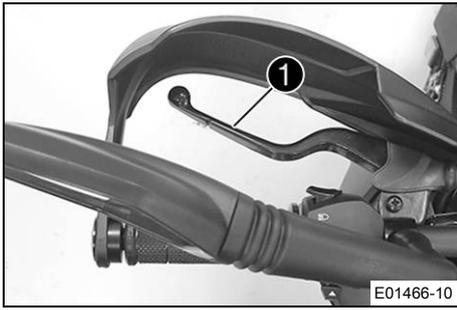


キーナンバー①はKEYCODECARDに記載されています。

i 参考

スペアキーを注文するには、キーナンバーが必要です。KEYCODECARDは安全な場所に保管して下さい。イグニッションキーが一つでもあれば、予備のキーを注文することができます。イグニッションキーが一つもない場合は、ロック機構全体を交換しなければなりません。

6.1 クラッチレバー



クラッチレバー①は左のハンドルバーに設置されています。

6.2 ブレーキレバー



ブレーキレバー①は右のハンドルバーに設置されています。
ブレーキレバーで前輪ブレーキを作動します。

6.3 スロットルグリップ



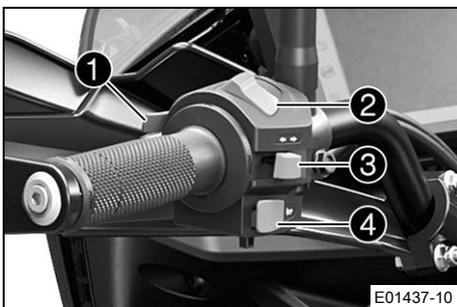
スロットルグリップ①は右のハンドルバーに設置されています。

6.4 左ハンドルバーのスイッチ

6.4.1 コンビネーションスイッチ

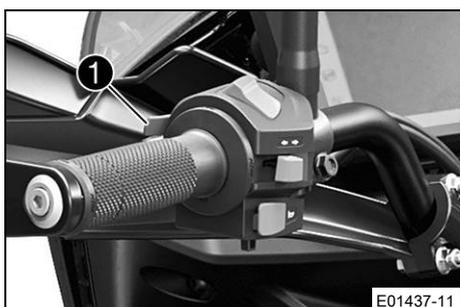
コンビネーションスイッチは左のハンドルバーに設置されています。

左のコンビネーションスイッチ各部の名称



- ① パッシングライトスイッチ (📖 頁 14)
- ② ライトスイッチ (📖 頁 14)
- ③ ターンシグナルスイッチ (📖 頁 14)
- ④ ホーンスイッチ (📖 頁 14)

6.4.2 パッシングライトスイッチ

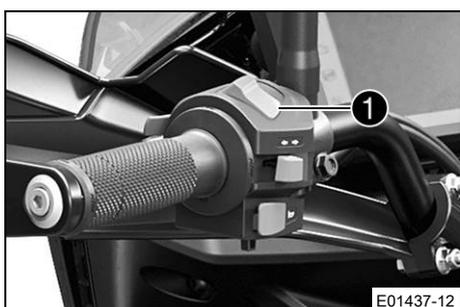


パッシングライトスイッチ①は左のハンドルバーに設置されています。

確認すべき状態

- ・ パッシングライトスイッチが基本位置にある
- ・ パッシングライトスイッチが押されている- この位置でパッシングライト (ハイビーム) が作動します。

6.4.3 ライトスイッチ

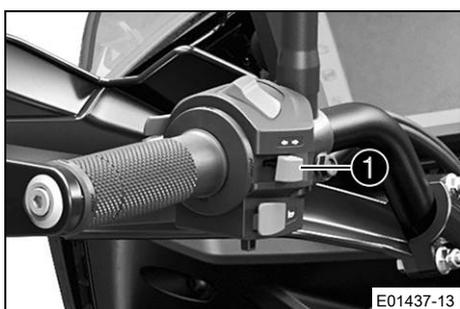


ライトスイッチ①は左のハンドルバーに設置されています。

確認すべき状態

	ヘッドライト (ロービーム) 点灯-ライトスイッチの下側が押されています。この位置でヘッドライト (ロービーム) とテールライトが点灯しています。
	ヘッドライト (ハイビーム) 点灯-ライトスイッチの上を押します。この位置でヘッドライト (ハイビーム) とテールライトが点灯しています。

6.4.4 ターンシグナルスイッチ



ターンシグナルスイッチ①は左のハンドルバーに設置されています。

確認すべき状態

	ターンシグナルを停止- ターンシグナルスイッチをスイッチボックスに向かって押します。
	左のターンシグナルが作動- ターンシグナルスイッチを左に押します。ターンシグナルが作動し、スイッチは中央位置に戻ります。
	右のターンシグナルが作動- ターンシグナルスイッチを右に押します。ターンシグナルが作動し、スイッチは中央位置に戻ります。

6.4.5 ホーンスイッチ



ホーンスイッチ①は左のハンドルバーに設置されています。

確認すべき状態

- ・ ホーンスイッチが基本位置にある
- ・ ホーンスイッチが押されている- この位置でホーンが鳴ります。

6.5 右ハンドルバーのスイッチ

6.5.1 エマージェンシーOFFスイッチ



エマージェンシーOFFスイッチ①は右のハンドルバーに設置されています。

確認すべき状態

	エマージェンシーOFFスイッチがオフ-この位置ではイグニッション回路が接続されておらず、エンジン作動中はこれを停止し、エンジンをかける事ができません。
	エマージェンシーOFFスイッチがオン-運転する際はこの位置に設定します。イグニッション回路が接続されています。

6.5.2 スタートキー



スタートキー②は右のハンドルバーに設置されています。

確認すべき状態

- スタートキー②が基本位置にある
- スタートキー②が押されている-この位置でセルフスターターモーターを作動します。

6.6 イグニッション/ハンドルロック



イグニッション/ハンドルロックはアッパートリプルクランプの手前に設置されています。

確認すべき状態

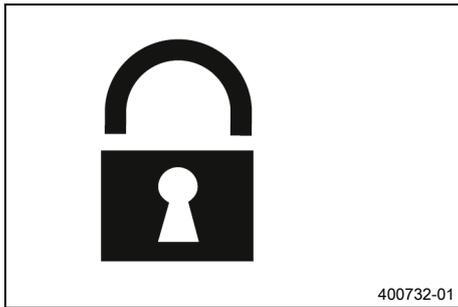
	イグニッションがオフ OFF-この位置ではイグニッション回路が接続されておらず、エンジン作動中はこれを停止し、停止中の場合はエンジンをかける事ができません。イグニッションキーを抜く事ができます。
	イグニッションがオン ON-この位置ではイグニッション回路が接続されており、エンジンをかける事ができます。
	ハンドルのロック-この位置ではイグニッション回路が接続されておらず、ハンドルはロックされています。イグニッションキーを抜く事ができます。

6.7 ハンドル操作をロックする

情報

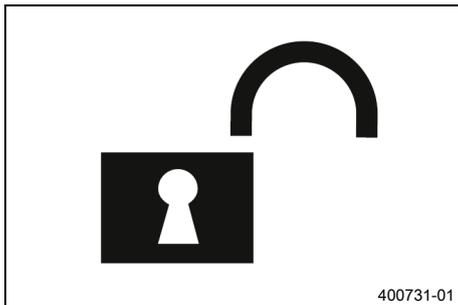
損傷の危険性 駐車中の車両が動き出たり倒れる恐れがあります。

- 車両は安定した平らな地面の上に立てます。



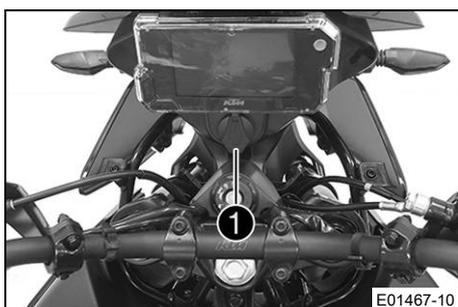
- 車両を停めます。
- ハンドルバーを左に回し切ります。
- イグニッション/ハンドルロックにイグニッションキーを差し込み、中に押し込んでから左に回します。イグニッションキーを抜きます。
- ✓ これで、もうハンドルバーを動かすことはできません。

6.8 ハンドル操作のロックを解除する



- イグニッション/ハンドルロックにイグニッションキーを差し込み、中に押し込んでから右に回します。イグニッションキーを抜きます。
- ✓ これでまたハンドルバーを動かす事ができます。

6.9 電装系アクセサリ用コンセント



電装系アクセサリ用のコンセント①はアッパートリプルランプの手前に設置されています。イグニッション電源プラス極に接続されており、ヒューズで保護されています。

電装系アクセサリ用コンセント	
電圧	12 V
最大消費電流	10 A

6.10 フィラーキャップを開ける



危険

火事の危険 燃料は可燃性です。

フューエルタンク内の燃料は熱により膨張し、溢れ出てしまうことがあります。

- 炎や火のついたタバコの近くで車両に給油しないでください。
- 給油の際にはエンジンを停止してください。
- 特に車両部品に燃料がこぼれることがないように注意してください。
- こぼれた燃料はすぐに拭き取ってください。
- 給油の際には燃料給油に関する注意事項を参照してください。



警告

中毒の危険性 燃料は健康に害を及ぼすものです。

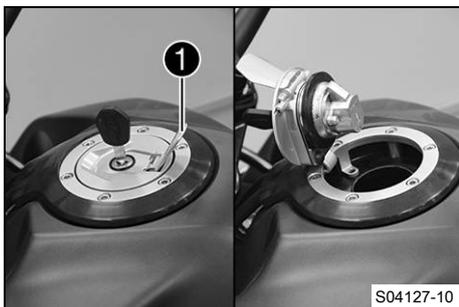
- 燃料が皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- 燃料を飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 気化した燃料を吸い込まないでください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- 燃料が目にはいつてしまった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- 燃料が衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。
- 燃料は適切なキャニスターに入れ、子供の手の届かない場所に保管して下さい。



情報

環境汚染 燃料の不適切な取り扱いは、環境汚染の原因となります。

- 燃料を地下水、土壌、下水道に流してはいけません。



- フィラーキャップのカバー①を上を開き、イグニッションキーを鍵穴に差し込みます。

注意

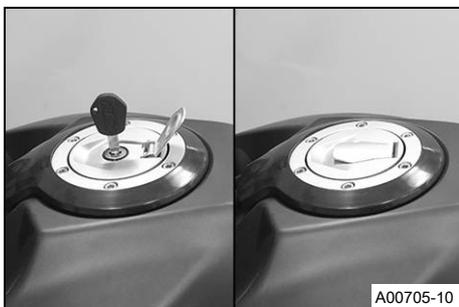
損傷の危険性 イグニッションキーに過負荷が掛かると折れてしまうことがあります。

イグニッションキーが破損した場合は交換して下さい。

- イグニッションキーの負荷を取り除くためにフィラーキャップを押してください。
- イグニッションキーを時計回りに 90 度回します。
- フィラーキャップを上を開きます。



6.11 フィラーキャップを閉める



警告

火事の危険 燃料は発火性が高く、健康に害を及ぼします。

- フィラーキャップを閉めた後には正しくロックされているか点検してください。
- 燃料が衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。

- フィラーキャップを閉めます。
- イグニッションキーを時計回りに 90 度回します。
- フィラーキャップを下に押し、タンクキャップロックがかかるまで時計と反対回りにイグニッションキーを回します。
- イグニッションキーを抜き、カバーを閉じます。



6.12 シートロック



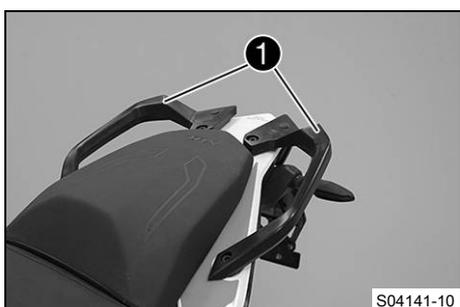
シートロック①はシートの左横に設置されています。
イグニッションキーでシートロックを解除できます。

6.13 車載工具



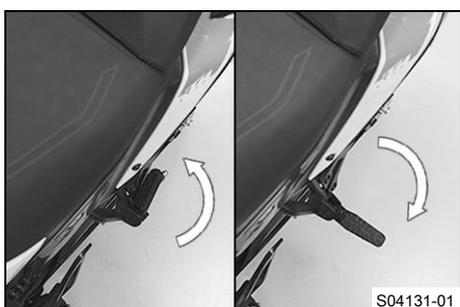
リアシートの下に車載工具①が収納されています。

6.14 サイドグリップ



サイドグリップ①は車両を移動する際に使用します。
同乗者を乗せている場合、同乗者はサイドグリップをつかんで身体を支える事ができます。

6.15 同乗者用フットレスト

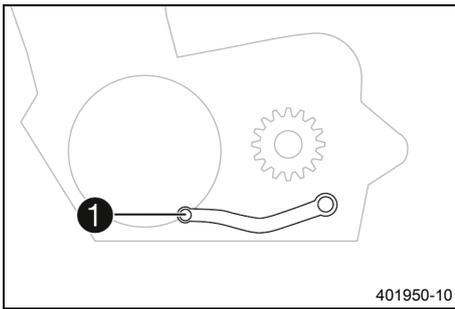


同乗者用フットレストは開閉式になっています。

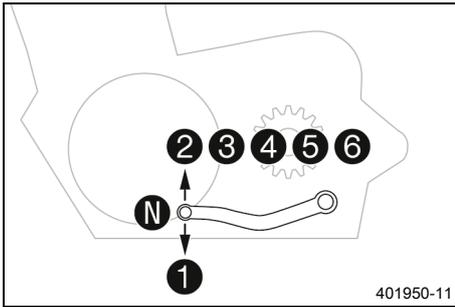
確認すべき状態

- 同乗者用フットレストが収納された状態- 同乗者がいない場合。
- 同乗者用フットレストが展開された状態- 同乗者がいる場合。

6.16 シフトレバー

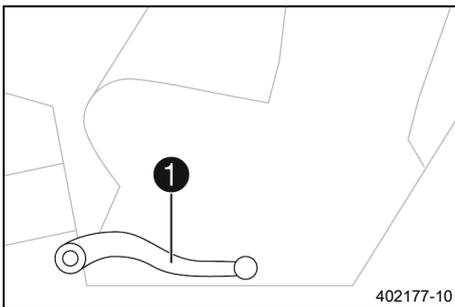


シフトレバー①はエンジンの左側に設置されています。



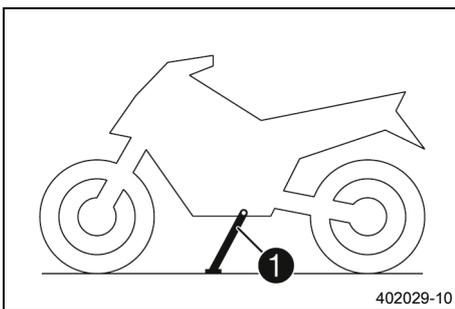
各ギアのポジションは図の通りです。
ニュートラル/アイドルは 1 速と 2 速の間にあります。

6.17 ブレーキペダル



ブレーキペダル①は右のフットレストの前方に設置されています。
ブレーキペダルで後輪ブレーキを作動します。

6.18 サイドスタンド



サイドスタンド①は車両の左側に設置されています。
サイドスタンドは車両を立てるのに使用します。

i 参考

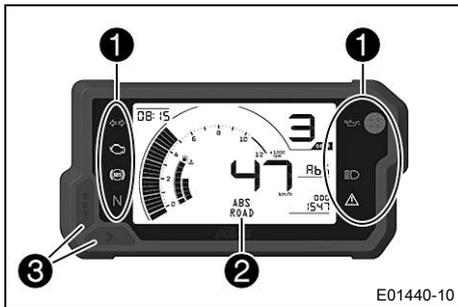
走行中はサイドスタンドを上 に収納して下さい。
サイドスタンドは安全スタートシステムと連結しています。運転上の注意事項の説明に従って下さい。

確認すべき状態

- サイドスタンドが開かれている- サイドスタンドで車両を立てることができます。安全スタートシステムが作動していません。
- サイドスタンドが収納されている- 走行中は必ずこの位置にして下さい。安全スタートシステムは作動していません。

7 コンビネーションインストルメント

7.1 コンビネーションインストルメント



コンビネーションインストルメントはハンドルバーの前方に設置されています。

- ① インジケーターステップ (📖 頁 22)
- ② ディスプレイ (📖 頁 24)
- ③ 機能ボタン (📖 頁 26)

7.2 起動とテスト



起動

イグニッションをオンにすると、コンビネーションインストルメントが起動します。

i 参考

ディスプレイの明るさは、コンビネーションインストルメントに装備された車両周辺の明るさを感知するセンサーにより調整されます。

テスト

イグニッションをオンにするとターンシグナルインジケーターステップ以外の全てのインジケーターステップが点灯します。

タコメーターのセグメント、温度、そして燃料表示が順番に点灯し、再び消えます。

シフト表示が0から6までカウントし、また0に戻ります。

速度表示が0から299までカウントし、また0に戻ります。

ディスプレイ上にある、それ以外の表示セグメントが短く点灯します。

ディスプレイに**READY TO >> RACE**の文字列が表示されます。

i 参考

ABS 警告ランプは速度約 6 km/h (約 4 mph) に達するまで点灯しています。

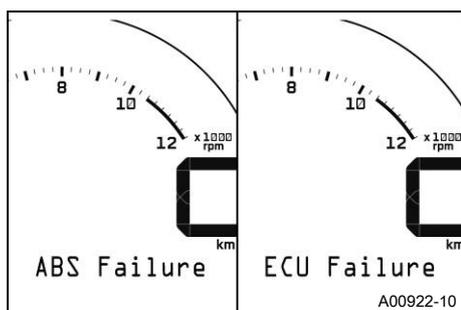
次のサービスまでの距離が 0 km の場合、ディスプレイに警告**Service Reset**が表示されます。

7.3 警告

i 参考

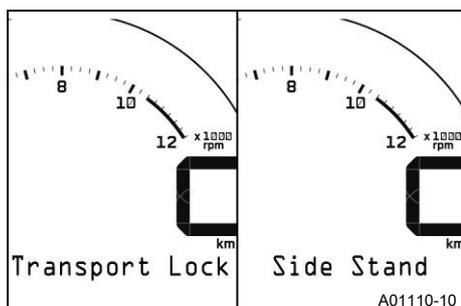
現行の警告はそれが解除されるまで**Info**に表示されます。不具合が発生すると、それぞれの警告ランプが点灯します。

安全性に関する警告事項が複数発生すると、警告全般を示すランプ  も点滅します。



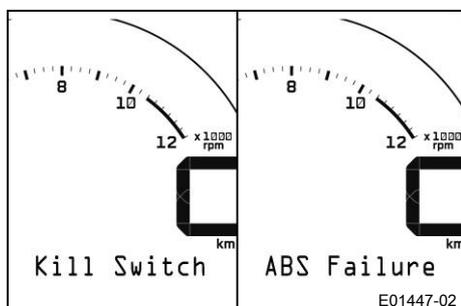
CAN-Bus にエラーが発生した場合、異なる警告がディスプレイに表示されることがあります：

ABS Failure、ECU Failureが発生することがあります。



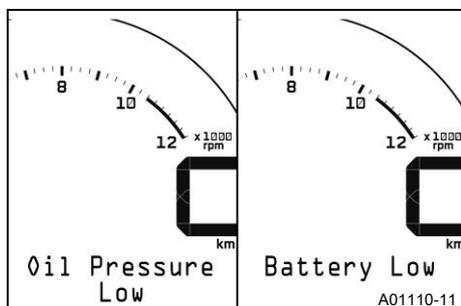
輸送モードがオンの場合、Transport Lockがディスプレイに表示されます。

サイドスタンドが出ていると、ディスプレイにSide Standが表示されます。



エマージェンシーOFFスイッチがオンになるとKill Switchがディスプレイに表示されます。

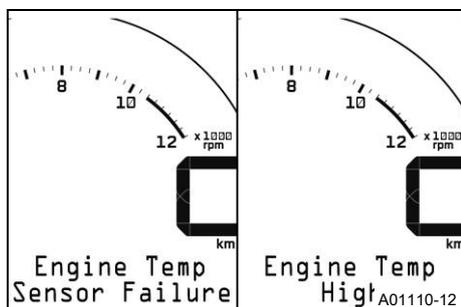
ABS がオフになると、ABS Failureがディスプレイに表示されます。



油圧が低過ぎると、ディスプレイにOil Pressure Lowが表示されます。

バッテリー電圧が規定値を下回ると、ディスプレイにBattery Lowが表示されます。

バッテリー電圧	10.50 V
---------	---------

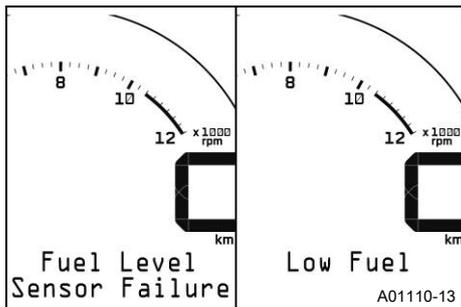


クーラント温度センサーに不具合があると、ディスプレイにEngine Temp Sensor Failureが表示されます。

クーラントの温度が規定値を上回ると、ディスプレイにEngine Temp Highが表示されます。

クーラントの温度	110 °C
----------	--------

7 コンビネーションインストルメント



燃料レベルセンサーに不具合があると、ディスプレイに**Fuel Level Sensor Failure**が表示されます。
燃料レベルがリザーブマークに達すると、ディスプレイに**Low Fuel**が表示されます。

7.4 インジケータランプ



E01444-01

インジケータランプは車両の作動状態に関する補足情報を示します。
イグニッションをオンにするとターンシグナルインジケータランプ以外の全てのインジケータランプが点灯します。
安全性に関する警告事項が発生すると、警告全般を示すランプ  も点灯します。

参考

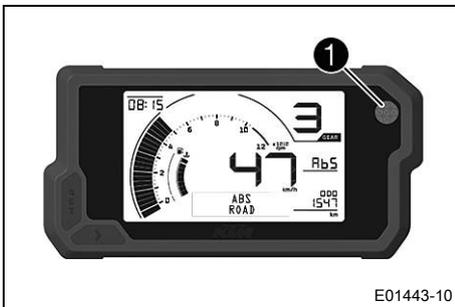
エンジンが稼動していないと、不具合インジケータランプは常に点灯しています。エンジンが稼動している状態で、不具合インジケータランプが点灯した場合、交通規制に従った方法で速やかに停車し、KTM 正規ディーラーに連絡して下さい。
ABS 警告ランプは速度約 6 km/h (約 4 mph) に達するまで点灯しています。

確認すべき状態

	ターンシグナルインジケータランプがターンシグナルのリズムで緑に点滅-ターンシグナルが作動しています。
	不具合インジケータランプが黄色に点灯-OBDが車両の電気系統で不具合を検出しました。

	シフトランプが赤く点灯 / 点滅- 設定されたシフト回転数 Flashes に達するとシフトランプが赤く点滅します。設定されたシフト回転数 Lights Up に達するとシフトランプが赤く点灯します。
	ニュートラルインジケータランプが緑に点灯- ギアがニュートラルに入っています。
	ハイビームインジケータランプが青く点灯- ハイビームが点灯しています。
	一般警告ランプが黄色に点灯- 使用上の安全性に関する注意 / 警告事項が検出されました。これはディスプレイにも表示されます。
	一般警告ランプが黄色に点滅- 使用上の安全性に関する注意 / 警告表示が複数検出されました。これはディスプレイにも表示されます。
	ABS 警告ランプが黄色に点灯- <u>ABS</u> の状態メッセージまたはエラーメッセージ。
	オイル圧力警告ランプが赤く点灯- 油圧が低過ぎます。交通規制に従った方法で速やかに停車し、エンジンを止めます。

7.5 シフトランプ



シフトランプ **①** はコンビネーションインストルメントの右上にあります。

慣らし走行中は、**Flashes**と**Lights Up**の値を調整できません (最大 1000 キロメートル / 621 マイル)。 **Flashes**ではシフトランプが赤く点滅し、**Lights Up**ではシフトランプが赤く点灯します。

i 参考

6 速ではエンジンが作動温度に達しており、初回サービス後はシフトランプはオフになっています。

クーラントの温度	≤ 35 °C
ODO	< 1,000 km
シフトランプが点滅	7,000 rpm
クーラントの温度	> 35 °C
ODO	> 1,000 km
Flashes シフトランプ	点滅
Lights Up シフトランプ	点灯

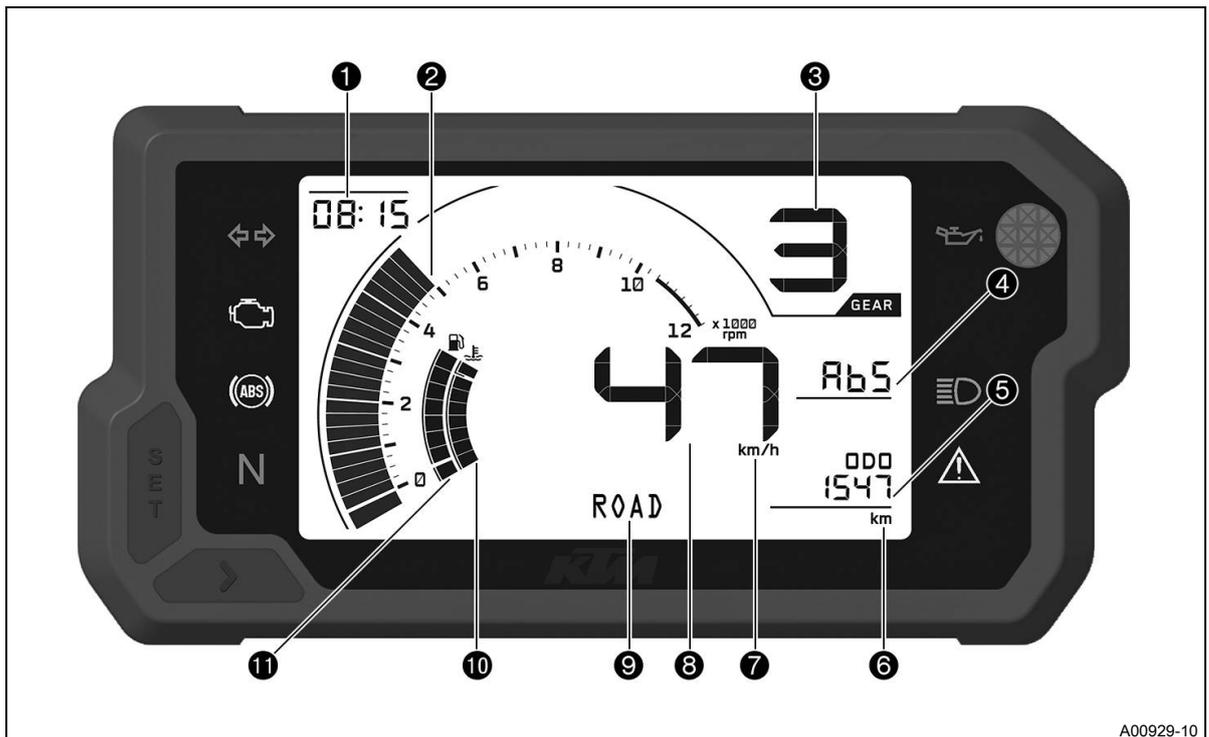
7.6 シフト表示



現行のギアはディスプレイ上の **①** に表示されます。

7 コンビネーションインスツルメント

7.7 ディスプレイ



A00929-10

時計は①に表示されます。

タコメーター②は分単位のエンジン回転数を示します。

ギア表示③は現在選択されているギアを示します。

ディスプレイ④には現行の表示モードが表示されます。

ODO表示⑤は走行距離の合計をキロメートルまたはマイルで表示します。

⑥: ODO表示の単位。

⑦: 速度表示の単位

速度⑧には時速がキロメートル (km/h)またはマイル (mph)で表示されます。

ディスプレイ⑨には、選択した表示モードに関する追加情報が表示されます。

クーラントの温度は⑩に表示されます。

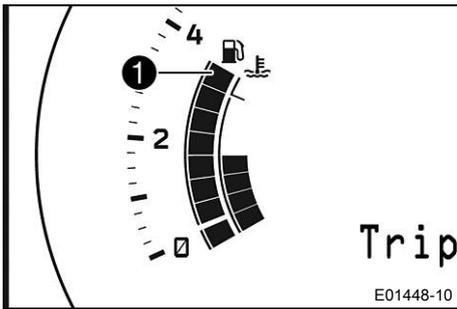
燃料レベルは⑪に表示されます。

i 参考

12V バッテリーの接続を外した後やヒューズを交換した後は時計を設定して下さい。

ディスプレイの明るさは、コンビネーションインスツルメントに装備された車両周辺の明るさを感知するセンサーにより調整されます。

7.8 燃料レベル表示

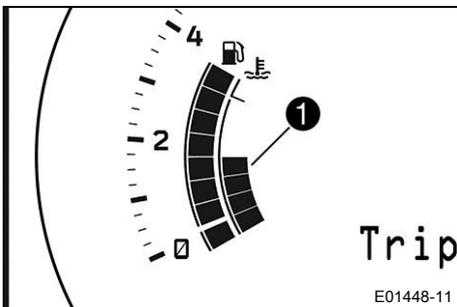


フューエルタンク容量はディスプレイ上の①に表示されます。燃料レベルの表示はゲージで表示されます。点灯しているゲージが多いほど、フューエルタンクの燃料量が多い事を示します。

参考

燃料レベルがゼロに近くなると最後の燃料ゲージが点滅し、警告**Low Fuel**がディスプレイに表示されます。走行中に常時、表示が変動することを避けるために、燃料レベルはほんの少し遅く表示されるようになっています。サイドスタンドが展開された状態または非常停止スイッチが入っている状態では燃料レベル表示は更新されません。コンビネーションインストルメントが燃料レベルセンサーから信号を受信しないと警告**Fuel Level Sensor Failure**が表示されます。

7.9 クーラント温度の表示



クーラント温度はディスプレイ上の①に表示されます。クーラント温度の表示はゲージで表示されます。点灯しているゲージが多いほど、クーラントの温度が高い事を示します。

情報

エンジン損傷 過熱でエンジンが損傷します。

- クーラント温度の警告表示が点灯したら、すぐに他の交通の妨げにならないように停車して下さい。
- エンジンと冷却システムの温度が下がるまでお待ち下さい。
- 冷却システムの温度が下がった時に、クーラントのレベルを調節ならびに調整して下さい。

参考

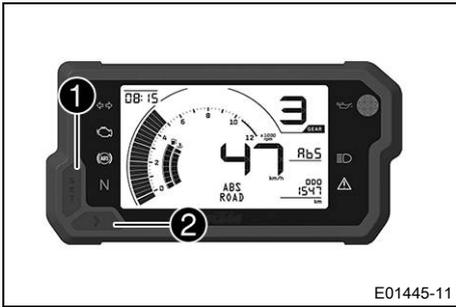
全てのゲージが点灯すると、ディスプレイに警告も表示されます**High Coolant Temperature**。冷却システムが過熱すると、エンジンの最高回転数が制限されます。

確認すべき状態

- エンジンが冷えている場合-ゲージが3つまで点灯しています。
- エンジンが作動温度に達している-4つから6つのゲージが点灯します。
- エンジンが熱くなっている-7つから8つのゲージが点灯します。
- エンジンが非常に熱くなっている-8つのゲージ全てが点滅します。

7 コンビネーションインストルメント

7.10 機能ボタン



SETキー①でモードを変更します。
選択できるモードにはABS Modus、Info、走行距離1 (TRIP 1)、
走行距離2 (TRIP 2)があります。
SCROLLキー②でモード上のメニューを変更します。

7.11 ODO 表示

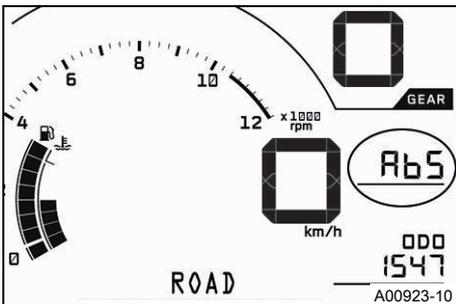


走行した総距離ODOはディスプレイ上の①に表示されます。

i 参考

この値は 12V バッテリーが車両から外されても、またヒューズが飛んでもそのままです。

7.12 ABS 表示



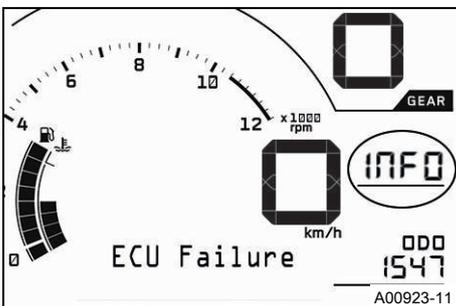
条件

- 車両が停止している。
 - SETキーを何度か短く押して、ディスプレイにABSを表示させます。
- ABSは選択された ABS モードを表示します。

i 参考

SETキーを軽く押すとディスプレイ上の次の表示モードに移動します。

7.13 Info 表示

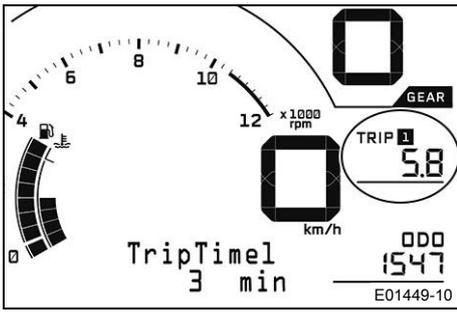


- SETキーを何度か短く押して、ディスプレイにInfoを表示させます。
- Infoはメッセージや警告を表示します。

i 参考

Infoはメッセージまたは警告がある場合にのみ表示されません。
警告表示はそれが解除されるまでInfoに表示されます。
全ての警告は順次自動的にInfoに表示されます。
SCROLLキーを軽く押すとディスプレイ上の次の警告に移動します。
SETキーを軽く押すとディスプレイ上の次の表示モードに移動します。

7.14 TRIP 1 表示



SETキーを何度か短く押して、ディスプレイに TRIP 1を表示させます。

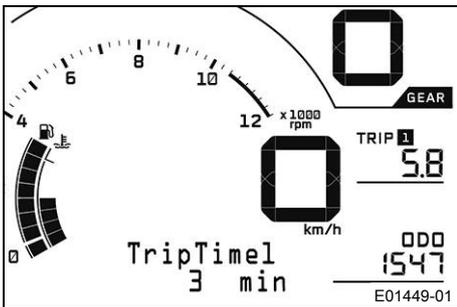
i 参考

TRIP 1モードでは最後のリセットからの走行距離が表示されます(例、給油間の走行距離)。TRIP 1は常に作動しており、999.9までカウントします。

SCROLLキーを軽く押すとディスプレイ上の次のメニューに移動します。

SETキーを軽く押すとディスプレイ上の次の表示モードに移動します。

7.14.1 Time Trip 1

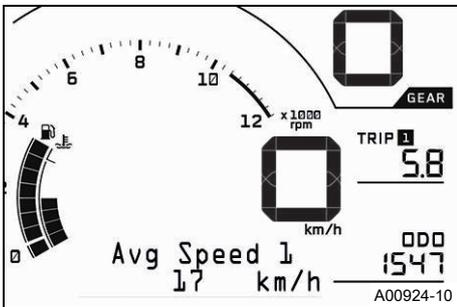


- SETキーを何度か短く押して、ディスプレイにTRIP 1を表示させます。
- SCROLLキーを何度か短く押して表示したいメニューを選択します。

このメニューではTRIP 1に基づいた走行時間1が表示されます。

SCROLLキーを短く押します。	ディスプレイの次のメニュー
SETキーを5秒間押し続けます。	TRIP 1の表示をリセットします
SETキーを短く押します。	ディスプレイが次のモードに切り替わります

7.14.2 Average Speed Trip1



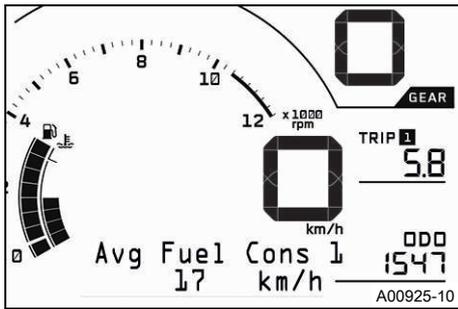
- SETキーを何度か短く押して、ディスプレイにTRIP 1を表示させます。
- SCROLLキーを何度か短く押して表示したいメニューを選択します。

このメニューではTRIP 1に基づいた平均速度1が表示されます。

SCROLLキーを短く押します。	ディスプレイの次のメニュー
SETキーを5秒間押し続けます。	TRIP 1の表示をリセットします
SETキーを短く押します。	ディスプレイが次のモードに切り替わります

7 コンビネーションインストルメント

7.14.3 Avg Fuel Cons 1

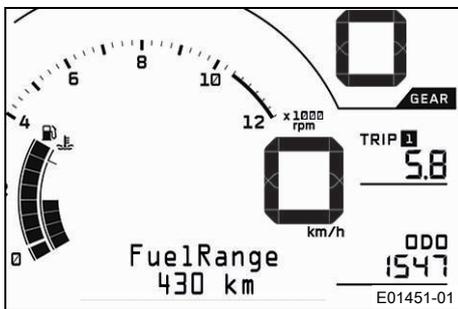


- SETキーを何度か短く押して、ディスプレイにTRIP 1を表示させます。
- SCROLLキーを何度か短く押して表示したいメニューを選択します。

このメニューではTRIP 1に基づいた平均燃費1が表示されます。

SCROLLキーを短く押しします。	ディスプレイの次のメニュー
SETキーを5秒間押し続けます。	TRIP 1の表示をリセットします
SETキーを短く押しします。	ディスプレイが次のモードに切り替わります

7.14.4 Fuel Range



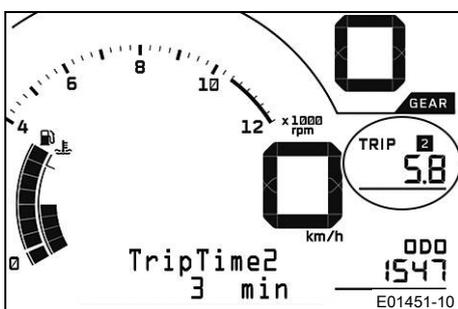
- SETキーを何度か短く押して、ディスプレイにTRIP 1を表示させます。
- SCROLLキーを何度か短く押して表示したいメニューを選択します。

Fuel Range表示は、TRIP 1、TRIP 2でも同じです。
このメニューでは航続距離が表示されます。

i 参考
航続距離は平均燃費とフューエルタンク内の燃料量に関係しています。
イグニッションをオンにすると、走行可能な距離が表示されます。
最小表示距離は 10 キロメートル (10 マイル) です。

SCROLLキーを短く押しします。	ディスプレイの次のメニュー
SETキーを短く押しします。	ディスプレイが次のモードに切り替わります

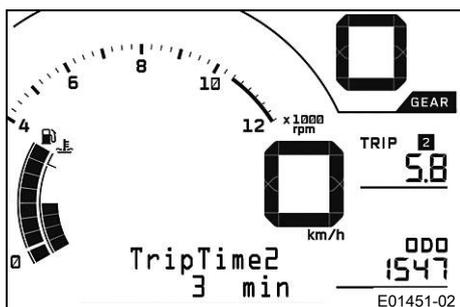
7.15 TRIP 2 表示



SETキーを何度か短く押して、ディスプレイに TRIP 2を表示させます。

i 参考
TRIP 2モードでは最後のリセットからの走行距離が表示されます (例、給油間の走行距離)。TRIP 2 は常に作動しており、999.9までカウントします。
SCROLLキーを軽く押すと次のメニューに移動します。
SETキーを軽く押すとディスプレイ上の次の表示モードに移動します。

7.15.1 Time Trip 2

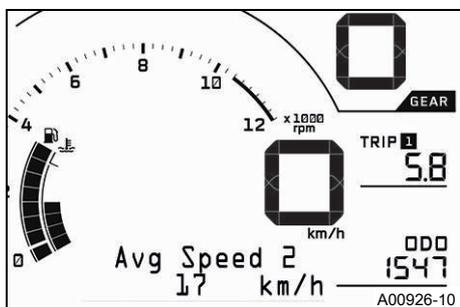


- SETキーを何度か短く押して、ディスプレイにTRIP 2を表示させます。
- SCROLLキーを何度か短く押して表示したいメニューを選択します。

このメニューではTRIP 2に基づいた走行時間2が表示されます。

SCROLLキーを短く押します。	ディスプレイの次のメニュー
SETキーを5秒間押し続けます。	TRIP 2の表示をリセットします
SETキーを短く押します。	ディスプレイが次のモードに切り替わります

7.15.2 Average Speed Trip2

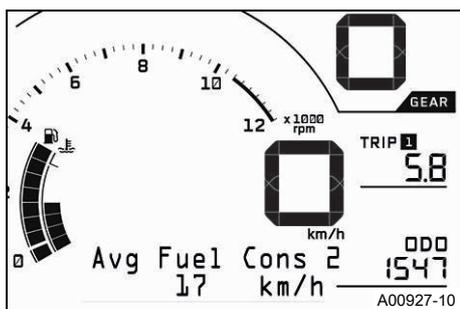


- SETキーを何度か短く押して、ディスプレイにTRIP 2を表示させます。
- SCROLLキーを何度か短く押して表示したいメニューを選択します。

このメニューではTRIP 2に基づいた平均速度2が表示されます。

SCROLLキーを短く押します。	ディスプレイの次のメニュー
SETキーを5秒間押し続けます。	TRIP 2の表示をリセットします
SETキーを短く押します。	ディスプレイが次のモードに切り替わります

7.15.3 Avg Fuel Cons 2



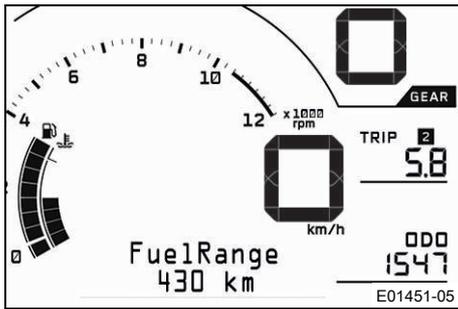
- SETキーを何度か短く押して、ディスプレイにTRIP 2を表示させます。
- SCROLLキーを何度か短く押して表示したいメニューを選択します。

このメニューではTRIP 2に基づいた平均燃費2が表示されます。

SCROLLキーを短く押します。	ディスプレイの次のメニュー
SETキーを5秒間押し続けます。	TRIP 2の表示をリセットします
SETキーを短く押します。	ディスプレイが次のモードに切り替わります

7 コンビネーションインストルメント

7.15.4 Fuel Range



- SETキーを何度か短く押して、ディスプレイにTRIP 2を表示させます。
- SCROLLキーを何度か短く押して表示したいメニューを選択します。

Fuel Range表示は、TRIP 1、TRIP 2でも同じです。
このメニューでは航続距離が表示されます。

i 参考

航続距離は平均燃費とフューエルタンク内の燃料量に関係しています。

航続距離はイグニッションをオンにし、数百メートル走行した後で表示されます。

最小表示距離は0キロメートル(0マイル)です。

SCROLLキーを短く押します。	ディスプレイの次のメニュー
SETキーを短く押します。	ディスプレイが次のモードに切り替わります

7.16 ABS モードを調節する

条件

車両が停止している。

- SETキーを何度か短く押して、ディスプレイにABSを表示させます。

ABS モードを切り替える

- SETボタンを長押しします。
 - ✓ メッセージKeep Pressedがディスプレイに表示されます。
- メッセージRelease Buttonがディスプレイに表示されたらSETキーを離します。
 - ✓ 現行のABSモードがディスプレイに表示されます。

i 参考

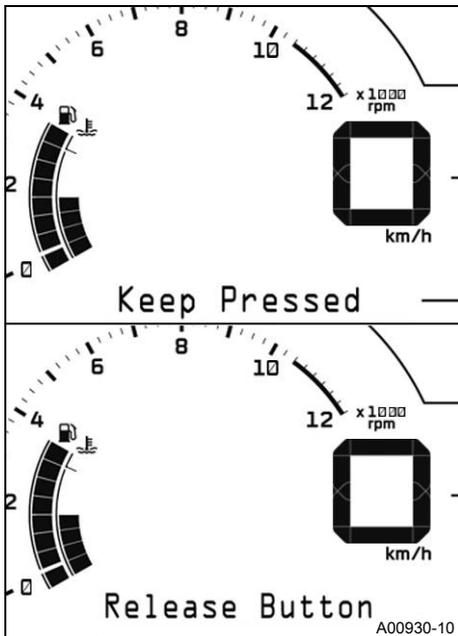
選択中にはスロットルは開かないで下さい。

ABSの切り替えが成功しなかった場合、以前に設定されたABSモードがオンのままになります。

点滅するABSモードは、表示されているABSモードが、故障のため実際のABSモードと一致しないことを示します。

ABSモードROADを選択すると、ABSは前輪と後輪を両方制御します。

ABSモードOFFROADを選択すると、ABSは前輪のみを制御します。後輪はABSに制御されず、ブレーキをかけた際にロックする恐れがあります。

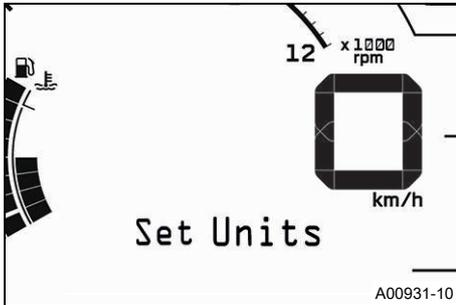


7.17 単位を設定する

参考

国に応じた設定を選択して下さい。

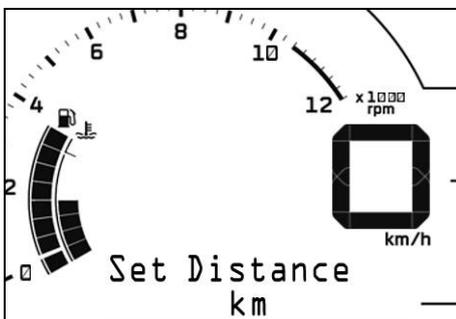
単位を変更してもODOの値は保持され、選択単位に合わせて換算されます。



条件

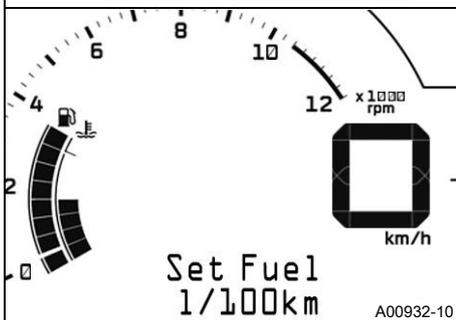
車両が停止している。

- SCROLLキーを3秒間押し続けます。
- ✓ メニューが表示されます。
- SCROLLキーを何度か短く押して、ディスプレイにSet Unitsメニューを表示させます。
- SETキーを短く押すとSet Unitsメニューに入ります。
- ✓ Set Distanceが表示されます。



単位を設定する

- SCROLLキーを短く押すと、KilometersおよびMilesが切り替わります。
- SETキーを短く押すと、選択した単位を決定できます。
- ✓ Set Fuelが表示されます。
- SCROLLキーを短く押すと、l/100km、km/l、l/100miles、miles/l、miles/USga、miles/UKga、USga/100miおよびUKga/100miが切り替わります。
- SETキーを短く押すと、選択した表示形式を決定できます。
- ✓ Set Unitsメニューが表示されます。



参考

長さの単位はkmまたはmileで設定します。

燃費はl/100km、km/l、l/100miles、miles/l、miles/USga、miles/UKga、USga/100miまたはUKga/100miで調整できます。

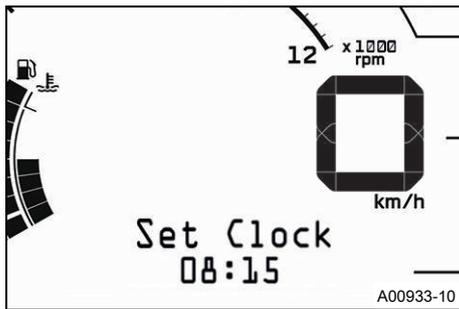
- SCROLLキーを何度か短く押して、ディスプレイにExitMenuを表示させます。
- SETキーを短く押すと、メニューを離れます。
- ✓ 最後に選択した表示がディスプレイされます。

7.18 時刻を設定する

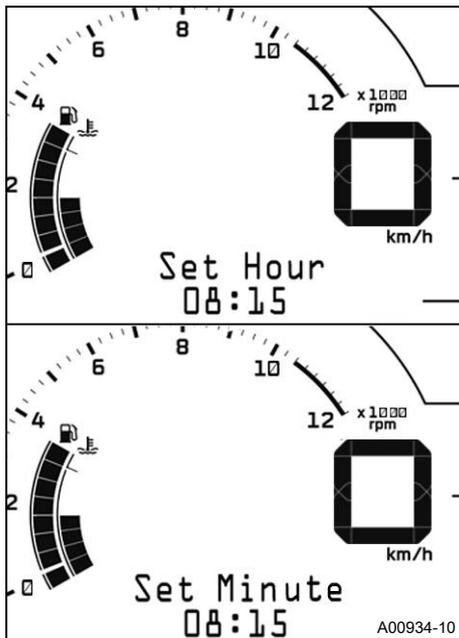
条件

車両が停止している。

7 コンビネーションインストルメント



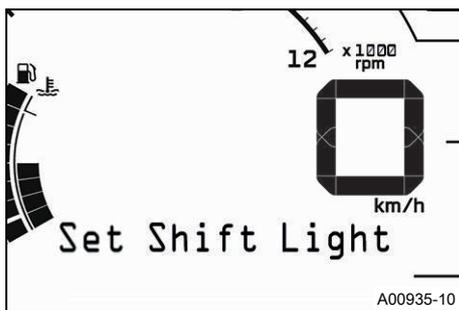
- SCROLLキーを3秒間押し続けます。
✓ メニューが表示されます。
- SCROLLキーを何度か短く押して、ディスプレイにSet Clockメニューを表示させます。
- SETキーを短く押すとSet Clockメニューに入ります。
✓ Set Hourが表示されます。



時刻を設定する

- 目的の時間の値が表示されるまでSCROLLキーを何度か短く押します。
- SETキーを短く押します。
✓ Set Minuteが表示されます。
- 目的の分の値が表示されるまでSCROLLキーを何度か短く押します。
- SETキーを短く押します。
✓ Set Clockメニューが表示されます。
- SCROLLキーを何度か短く押して、ディスプレイにExitMenuを表示させます。
- SETキーを短く押すと、メニューを離れます。
✓ 最後に選択した表示がディスプレイされます。

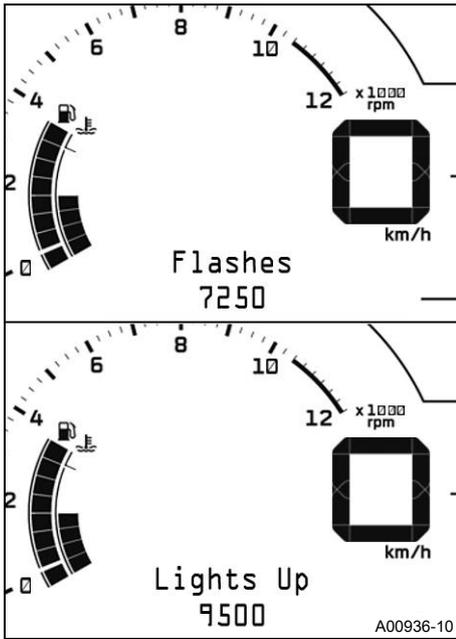
7.19 シフトランプを設定する



条件

車両が停止している。

- SCROLLキーを3秒間押し続けます。
✓ メニューが表示されます。
- SCROLLキーを何度か短く押して、ディスプレイにSet Shift Lightメニューを表示させます。
- SETキーを短く押すとSet Shift Lightメニューに入ります。
✓ Flashesが表示されます。



Flashes と Lights Up を設定する

- Flashesのご希望の回転値が表示されるまでSCROLLキーを何度か短く押します。



参考

回転数は 250 単位で設定できます。

Flashesはシフトランプが作動・点滅を始める回転数を示します。

- SETキーを短く押します。
✓ Lights Upが表示されます。
- Lights Upのご希望の回転値が表示されるまでSCROLLキーを何度か短く押します。



参考

回転数は 250 単位で設定できます。

Lights Up は、シフトランプが赤く点灯したままになり始める回転数を示します。

- SETキーを短く押します。
✓ Set Shift Lightメニューが表示されます。
- SCROLLキーを何度か短く押して、ディスプレイにExitMenuを表示させます。
- SETキーを短く押すと、メニューを離れます。
✓ 最後に選択した表示がディスプレイされます。



8.1 ハンドルバーの位置を調節する

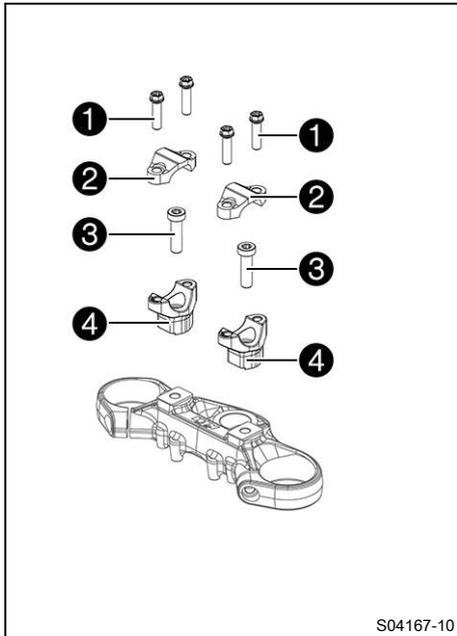


警告

事故の危険性 修正されたハンドルバーは安全面での危険を提示するものです。

ハンドルバーが曲げられたり、伸ばされたりすると素材が老化します。その結果ハンドルバーが折れてしまうこともあります。

- ハンドルバーが破損または曲がってしまった場合、ハンドルバーを交換してください。



- スクリュー①を外します。
- ハンドルバーのクランプ②を取り外します。ハンドルバーを外し、脇に置き固定します。



参考

部品を損傷させないように、カバーをかけて保護します。ケーブル、ホース、ワイヤー類は折り曲げないで下さい。

- スクリュー③を外します。ハンドルアダプター④を取り外します。
- ハンドルアダプター④の向きを好みに応じて変更します。



参考

ハンドルアダプターは片側が長く、高くなっています。ハンドルアダプターの位置は左右で同じように調節して下さい。

- スクリュー③を取り付け、しっかりと締めます。

規定

ハンドルアダプター用スクリュー	M10	40 Nm
-----------------	-----	-------

- ハンドルバーの位置を調整します。



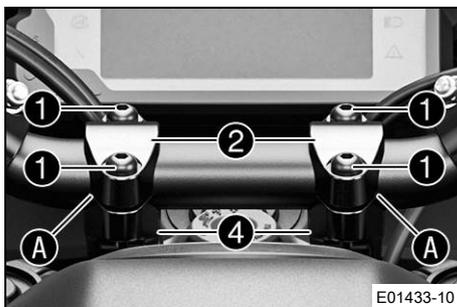
参考

ケーブル、ホース、ワイヤー類が正しく取り回されているが注意して下さい。

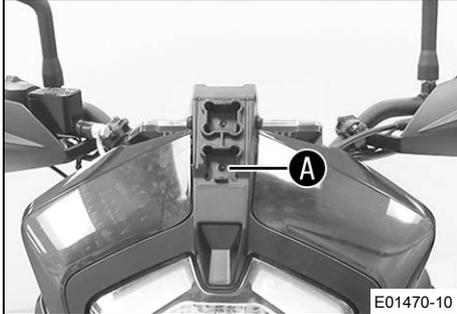
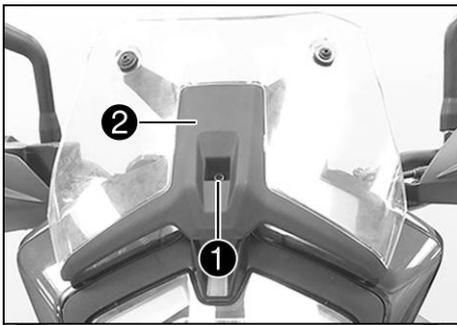
- ハンドルバーのクランプ②の位置を調整します。
- スクリュー①を取り付け、締めないままにしておきます。
- ✓ ハンドルバーのマーキングAは、ハンドルアダプターとハンドルバークランプの中心にあります。
- ハンドルクランプをハンドルアダプター④の長く高くなっている側からブロックにスクリュー①で固定します。
- スクリュー①を均等にしっかりと締めます。

規定

ハンドルバークランプ用スクリュー	M8	20 Nm
------------------	----	-------



8.2 ウインドシールドを調節する



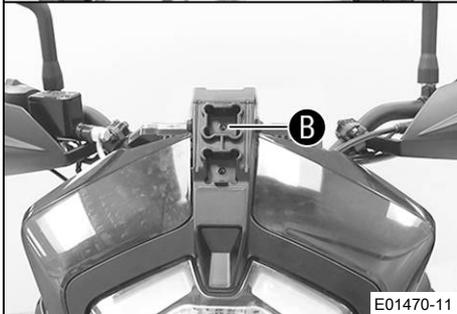
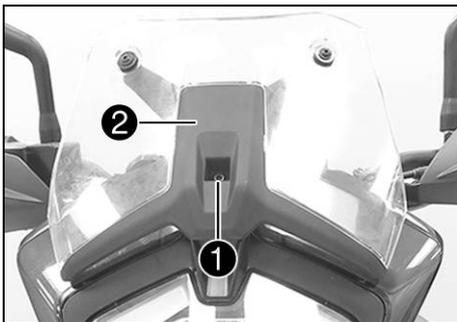
条件

低い位置

- スクリュー①を外し、ウインドシールド②を取り外します。
- ウインドシールドを②を下の窪みAの位置に調整します。
- スクリュー①を取り付け、しっかりと締めます。

規定

シャーシ用その他のスクリュー	M5	5 Nm
----------------	----	------



条件

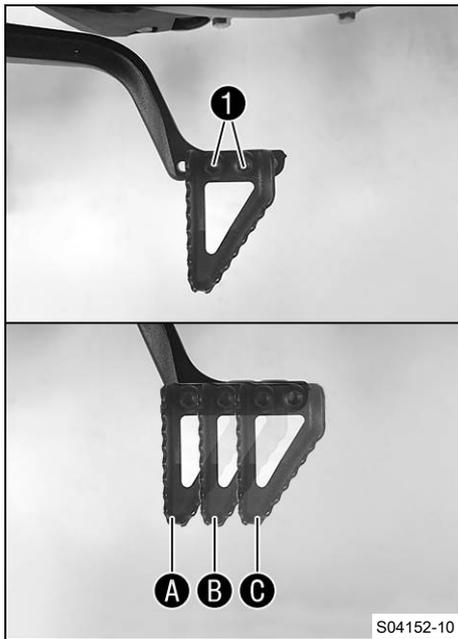
高い位置

- スクリュー①を外し、ウインドシールド②を取り外します。
- ウインドシールドを②を上 の窪みBの位置に調整します。
- スクリュー①を取り付け、しっかりと締めます。

規定

シャーシ用その他のスクリュー	M5	5 Nm
----------------	----	------

8.3 ブレーキペダルのステップを調節する



- ブレーキペダルのステップと一緒にスクリーュー①を外します。
- ブレーキペダルのステップを、好みに応じてA、BまたはCの位置にセットします。スクリーュー①を取り付け、しっかりと締めます。

規定

シャーシ用その他のスクリーュー	M5	5 Nm
-----------------	----	------

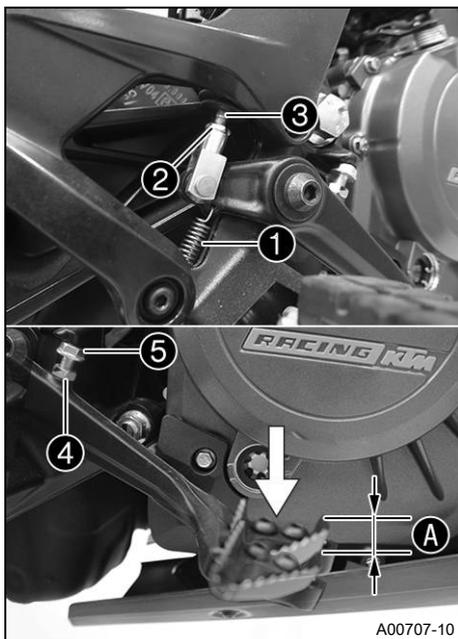
8.4 ブレーキペダルの基本位置を調整する



警告

事故の危険性 オーバーヒートしたり、不適切に設定されていると、ブレーキシステムが作動しません。ブレーキペダルに遊びがないと、ブレーキシステム内で後輪ブレーキに圧力がかかります。

- ブレーキペダルの遊びを規定値に従って設定してください。
- 設定作業が正しく行われていることを確認して下さい。(お近くの KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)



- スプリング①を外します。
- ナット②を緩めます。



ヒント

その際ブレーキペダルを下に押すと作業しやすくなります。

- ブレーキペダルの基本位置を設定するためにプッシュロッド③を回します。



参考

設定範囲には限界があります。ねじ部分が最低5回転分ねじ込まれている状態でなければなりません。プッシュロッドをボールジョイントに向かってねじ込むとブレーキペダルは下がります。プッシュロッドをボールジョイントから緩めるとブレーキペダルは上がります。

- ナット④を締め、スクリーュー⑤を回し、好みの遊びAが得られるように調節します。場合によっては、ブレーキペダルの基本位置を調整します。

規定

ブレーキペダルの遊び	3 ... 5 mm
------------	------------

- スクリュー⑤を動かないように押さえ、ナット④をしっかりと締めます。

規定

ブレーキペダル調節用ナット	M6	10 Nm
---------------	----	-------

- ナット②をしっかりと締めます。

規定

ブレーキペダル調節用ナット	M6	10 Nm
---------------	----	-------

i ヒント

その際ブレーキペダルを下に押すと作業しやすくなります。

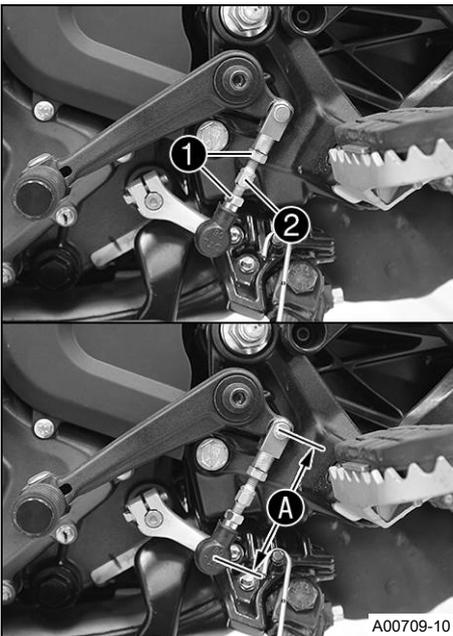
- スプリング①を取り付けます。



8.5 シフトレバーを調節する

i 参考

シフトレバーの調節範囲には限界があります。



- ナット①を緩めます。
- シフトロッド②を回転してシフトレバーを調節します。

規定

シフトロッドの調節範囲 A	83 ... 85 mm
両端が同じになるように調節します。	

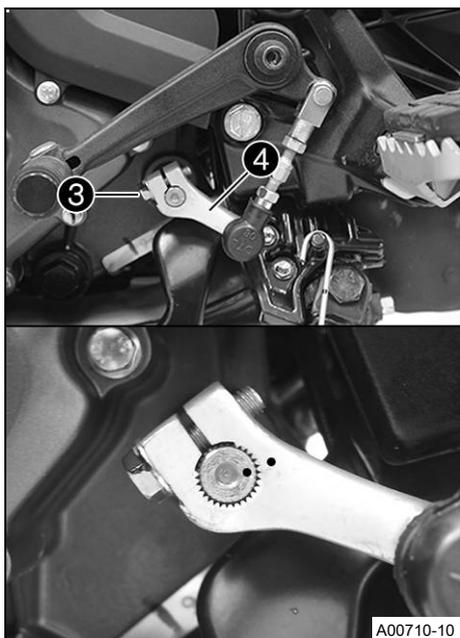
- ナット①をしっかりと締めます。

規定

シフトロッド用ナット	M6	6 Nm
------------	----	------

i 参考

ベアリングシート内で自由に動けるよう、ナットを締め付けた状態でシフトロッドのベアリングが中心から均等に調整されている事を確認して下さい。



- スクリュー③を緩めます。
- シフトレバー④のリンクージシステムを好みの位置でシフトシャフトに差し込み、歯をかみ合わせます。

i 参考
シフトシャフトとシフトリンクージシステムのマーキングの基本位置は、歯2つ分ずれています。

- スクリュー③をしっかり和締めます。

規定

シフトレバーリンクージ用スクリュー	M6	11 Nm	Loctite®243™
-------------------	----	-------	---------------------

- シフトレバーが機能するか、自由に動けるかを確認します。

9.1 初めて運転操作を行う際の注意



危険

事故の危険性 運転能力および判断力が十分でない運転者は、自身および他の方への危険となります。

- アルコール、薬物、薬品などにより運転能力が低下している場合、車両の運転をしないでください。
- 肉体的、精神的に運転能力が低下している場合も、車両の運転をしないでください。



警告

怪我の危険性 不足および欠陥のある保護服の着用は安全面での危険性を高めます。

- 走行時は必ずヘルメット、ブーツ、手袋、プロテクターが取り付けられたズボンやジャケットなどの保護服を着用してください。
- 損傷等がなく、かつ法規制に従った保護服を常に着用して下さい。



警告

転倒の危険性 前輪と後輪のトレッドが異なると走行性能に影響を及ぼします。

異なるトレッドのタイヤを使用すると車両のコントロールが大幅に難しくなります。

- 前輪と後輪に同様のトレッドのタイヤが装着されていることを確認してください。



警告

事故の危険性 承認または推奨されていないタイヤならびに車輪を装着した場合、走行性能が損なわれます。

- KTM により承認および推奨された適切な速度記号のタイヤならびに車輪のみを使用して下さい。



警告

事故の危険性 新しいタイヤのグリップ力はまだ十分なものではありません。

新しいタイヤの接地面はまだ十分に慣らされていません。

- 新しいタイヤの場合は慎重に慣らし走行を行い、傾きはゆっくりと増加させながら運転してください。

慣らし運転距離 200 km



参考

車両運転の際は、過度の騒音で周辺の人々の迷惑にならないよう心がけましょう。

- KTM 正規ディーラーで納車前検査がきちんと行われた事を確認して下さい。
- ✓ 車両が引き渡されると、納車証明書が手渡されます。
- 初走行の前にオーナーズマニュアルをしっかりと読んで下さい。
- 操作各部の扱いに慣れてください。
- 難しい走行に出る前に、まず適切な路面で走行性能に慣れるようにして下さい。一度、できるだけゆっくり走る練習で、車両の感覚をつかむようにして下さい。
- 走行中は両手でしっかりとハンドルバーを握り、フットレストに両足を載せて下さい。
- 慣らし運転をします。(📖 頁 40)

9.2 慣らし運転をする

- 慣らし運転の段階では、規定のエンジン回転数を超えないようにして下さい。

規定

エンジンの最高回転数	
走行開始から最初の: 1,000 km	7,500 rpm

参考

慣らし運転の段階では、シフトランプは規定の値に設定されており変更することはできません。

- フルスロットルでの運転は避けて下さい！

9.3 車両に荷物を積む



警告

事故の危険性 総重量および軸重は走行性能に影響を与えます。

総重量は運転準備が整い満タンに給油した状態の車両、保護服とヘルメットを着用したライダーおよび同乗者、ならびに積載される荷物の総重量です。

- 最大許容総重量と最大許容軸重を遵守して下さい。



警告

事故の危険性 ケース、タンクバッグまたはその他の荷物を不適切に固定すると走行性能に影響を与えます。

荷物を不適切に固定すると走行中にずれる可能性があります。

- メーカーの規定に従った方法ですべての荷物を固定してください。
- 車両に載せている荷物の固定状態を定期的に点検して下さい。



警告

事故の危険性 キャリアシステムの過負荷は破損の原因となります。

- ケースを取り付ける場合はメーカー規定の最大積載量を確認してください。



警告

事故の危険性 荷物のずれは視認性に影響を及ぼします。

テールライトが覆われてしまうと、暗がりでは特に後続の車両に認識されにくくなります。

- 車両に載せている荷物の固定状態を定期的に点検して下さい。



警告

事故の危険性 積載量が増加すると走行性能に影響を及ぼし制動距離が長くなります。

- 積載量に適した速度で走行して下さい。

- 荷物を載せる場合は、できるだけ車両中心付近にしっかり固定し、前輪と後輪にかかる重さを均等に配分してください。
- 許容最大総重量および許容最大軸重を守って下さい。

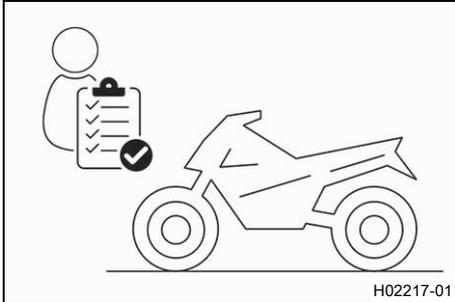
規定

最大許容総重量	375 kg
前方許容最大軸重	135 kg
最大許容軸重 (後輪)	275 kg

10.1 運転操作の前に必ず行う点検・メンテナンス作業

参考

走行前には必ず車両の状態を点検し、道路交通で安全に使用できる事を確認して下さい。
運転の際は車両が技術的に完璧な状態でなければなりません。



- エンジンオイルのレベルを点検します。(📖 頁 101)
- 前輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検します。(📖 頁 64)
- 後輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検します。(📖 頁 68)
- 前輪ブレーキのブレーキパッドとパッドピンを点検します。(📖 頁 66)
- 後輪ブレーキのブレーキパッドとパッドピンを点検します。(📖 頁 70)
- ブレーキシステムの機能を点検します。
- クーラントのレベルを点検します。(📖 頁 94)
- チェーンの汚れを点検します。(📖 頁 56)
- チェーンの遊びを点検します。(📖 頁 57)
- タイヤの状態を点検します。(📖 頁 75)
- タイヤ空気圧を点検します。(📖 頁 76)
- 操作各部が正しく調節されているか、スムーズに操作できるかを点検します。
- 電装系部品の機能を点検します。
- 荷物が正しく固定されているかを点検します。
- 車両に乗り、バックミラーの位置を確認します。
- 燃料の残量を確認します。

10.2 エンジン始動



危険

中毒の危険性 排気ガスは毒性があり、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンを稼働する際は十分に換気が行えるように常に確認してください。
- 閉め切った室内でエンジンを始動したり、稼働状態にする場合は、適切な排気ガス抽出装置を使用してください。



注意

事故の危険性 12Vバッテリーがあがった状態、または12Vバッテリー無しでは電子部品および安全関連装置を破損してしまいます。

12Vバッテリーがあがっていたり、故障している場合、特にエンジン始動時に車両の電気系統の不具合が発生する可能性があります。

- 12Vバッテリーがあがった状態、もしくは12Vバッテリー無しで車両を運転する事は絶対に避けて下さい。

情報

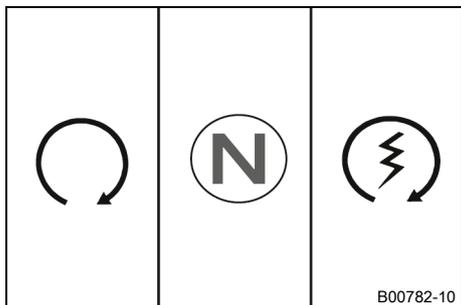
エンジン損傷 フィルターを通さずに吸い込んだ空気は、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。

- エアフィルターがないと埃や汚れがエンジンに侵入します。
- 車両はエアフィルターがある状態でのみ使用して下さい。

情報

エンジン損傷 冷えた状態でのエンジンを高回転させるのは、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。

- 常に低回転数でエンジンを暖機してください。



- ハンドル操作のロックを解除します。(📖 頁 16)
- 車両に乗ってサイドスタンドに重量をかけないようにし、サイドスタンドを足で押し上げて完全に閉じます。
- エマージェンシーOFFスイッチを押して○の位置に入れます。
- イグニッションキーをの位置○に回してイグニッションをオンにします。

規定

コントロールユニットの通信の不具合を避けるために、イグニッションのオフとオンを連続して行わないでください。

- ✓ イグニッションをオンにすると、約2秒間、燃料ポンプの作動音が聞こえます。同時にコンビネーションインスツルメントの機能チェックが実行されます。
- ギアをニュートラルに入れます。
- ✓ 緑のニュートラルインジケータランプNが点灯します。
- ✓ ABS警告ランプが点灯し、発進するとまた消えます。
- スタートキー③を短く押します。

参考

コンビネーションインスツルメントの機能チェックが終了するまで、スタートキーを押さないで下さい。始動の際、スロットルは開かないで下さい。始動できず再度試みる場合は、最低15秒は間隔をおいで下さい。始動に6回失敗したら、再度試みず、車両に他の不具合がないか確認してください。本モデルには安全スタートシステムが装備されています。ギアがニュートラルに入っているか、またはニュートラル以外のポジションでクラッチレバーが握られている場合にのみ、エンジンの始動が可能です。サイドスタンドが開いた状態でギアを入れ、クラッチレバーを離すとエンジンが停止します。

10.3 発進

- クラッチレバーを握り、ギアを1速に入れ、クラッチレバーをゆっくりと離しながら慎重にスロットルを開いていきます。

ヒント

発進の際にエンストしてしまった場合は、クラッチレバーを握ってスタートキー作動するのみです。ギアをニュートラルに入れる必要はありません。

10.4 シフト操作と走行



警告

事故の危険性 左右の負荷バランスが突然変わると、車両は制御不可能な状態に陥ることがあります。

- 突然負荷バランスを変更したり強くブレーキを作動することは避けてください。
- 道路状態の変化に合わせた速度で走行して下さい。



警告

事故の危険性 エンジンが高回転中にシフトダウンすると後輪がロックされ、エンジンが過回転します。

- エンジン回転数が高いままシフトダウンする事は避けて下さい。



警告

事故の危険性 イグニッションキーが誤った位置にある場合、不具合の原因となります。

- 走行中にイグニッションキーの位置を変えないで下さい。



警告

事故の危険性 走行中に車両での設定作業を行うと交通状況に集中することができません。

- 全ての設定作業は車両静止状態で行ってください。



警告

人体への危険 同乗者が誤った行動をとった場合、車両から落下する危険があります。

- 同乗者がリアシートに正しく乗り、足を同乗者用のフットレストに置いて、ライダーあるいはサイドグリップにしっかりつかまっていることを確認してください。
- 同乗者の最低年齢に関する国内の規則を守って下さい。



警告

事故の危険性 危険な走行は大きな危険の原因となります。

- 交通規則を守り、危険をできるだけ早く認識できるよう、安全かつ予見的な運転を心がけて下さい。



警告

事故の危険性 タイヤが冷えた状態である場合グリップ力が低下します。

- タイヤが作動温度に達するまで、最初の数キロメートルは常に慎重に速度を抑えて走行して下さい。



警告

事故の危険性 新しいタイヤのグリップ力はまだ十分なものではありません。

新しいタイヤの接地面はまだ十分に慣らされていません。

- 新しいタイヤの場合は慎重に慣らし走行を行い、傾きはゆっくりと増加させながら運転してください。
- 慣らし運転距離 200 km



警告

事故の危険性 ケース、タンクバッグまたはその他の荷物を不適切に固定すると走行性能に影響を与えます。

荷物を不適切に固定すると走行中にずれる可能性があります。

- メーカーの規定に従った方法ですべての荷物を固定してください。
- 車両に載せている荷物の固定状態を定期的に点検して下さい。



警告

事故の危険性 転倒した場合、車両には一瞥で確認できる以上に大きな破損がある場合があります。

- 転倒後は初運転操作の前に実施するものと同様の点検を行って下さい。

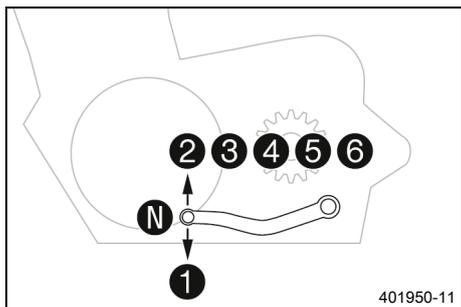
情報

エンジン損傷 過熱でエンジンが損傷します。

- クーラント温度の警告表示が点灯したら、すぐに他の交通の妨げにならないように停車して下さい。
- エンジンと冷却システムの温度が下がるまでお待ち下さい。
- 冷却システムの温度が下がった時に、クーラントのレベルを調節ならびに調整して下さい。

i 参考

作動時に異常なノイズが発生する場合は、交通規制に従った方法で速やかに停車し、エンジンを停止し、認可を受けている KTM 正規ディーラーに連絡して下さい。



- 状況 (勾配、走行状態など) に応じて、シフトアップします。
- スロットルを閉じ、同時にクラッチレバーを握り、次のギアに入れ、クラッチレバーを離してスロットルを開きます。

i 参考

各ギアのポジションは図の通りです。ニュートラルは 1 速と 2 速の間にあります。1 速は発進または登り坂で使用するギアです。

- スロットルグリップを全開にして最高速度に達したら、スロットルを $\frac{3}{4}$ まで戻します。ほとんど減速する事なく燃費を大幅に抑える事ができます。
- 常に車道や天候状態に合わせてスロットルを開くようにして下さい。特にカーブではシフトチェンジをせず、細心の注意を払ってスロットルを開くようにして下さい。
- シフトダウンするには、必要に応じてブレーキをかけながらスロットルを閉じます。
- クラッチレバーを握り、低いギアに入れ、クラッチレバーをゆっくりと離しながらスロットルを開くか、再度ギアチェンジします。
- しばらくアイドルリングや停止状態が続く場合は、エンジンを停止します。
- 例えば交差点でエンストしてしまった場合は、クラッチレバーを握り、スタートキーを作動するだけで大丈夫です。ギアをニュートラルに入れる必要はありません。
- 走行中にオイル圧力警告灯  が点灯し始めたら、すぐに停止し、エンジンを切って下さい。KTM 正規ディーラーに連絡して下さい。
- 走行中に不具合インジケータランプ  が点灯し始めたら、できるだけ早く KTM 正規ディーラーに連絡して下さい。
- 走行中に一般警告ランプ  が点灯し始めたら、使用上の安全性に関する注意 / 警告事項が検出されたことを意味します。

i 参考

発生した警告事項はそれが解除されるまでメニュー -Warning に表示され、保存されます。

10.5 ブレーキをかける。



警告

事故の危険性 水分や汚れはブレーキシステムに影響を及ぼします。

- ブレーキパッドとブレーキディスクを乾燥させ汚れを落とすために何度か慎重にブレーキをかけてください。



警告

事故の危険性 前輪または後輪ブレーキで圧点が安定していない場合、ブレーキ性能が低下します。

- ブレーキシステムを点検し、問題を解決するまでは車両を走行させないでください。(お近くのKTM正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)



警告

事故の危険性 ブレーキシステムは過熱状態では稼働しません。

ブレーキペダルに足をかけたままにすると、ブレーキパッドが常にこすられる状態になります。

- ブレーキを作動しないときはブレーキペダルに足をかけないで下さい。



警告

事故の危険性 総重量が高くなると制動距離が長くなります。

- 同乗者や荷物を乗せている場合は、制動距離が長くなる事にご注意下さい。



警告

事故の危険性 路上の撒き塩はブレーキシステムに影響を与えます。

- ブレーキパッドとブレーキディスクから撒き塩を落とすために何度か慎重にブレーキをかけてください。



警告

事故の危険性 ABSは特定の状況によって制動距離を伸ばすことがあります。

- 走行状態や路面状況に応じて適切にブレーキをかけてください。

- ブレーキをかけるにはスロットルを閉じ、前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に作動します。



参考

ABSにより、フルブレーキングではもちろん、砂地、雨で濡れた地面やスリップしやすい場所でグリップ力が低下している場合にも、車輪のロックを心配する事なく制動力をフルに活用できます。



警告

事故の危険性 後輪はエンジンブレーキでロックされることがあります。

- 緊急ブレーキやフルブレーキをかける場合、または地面が滑りやすい場所でブレーキをかける場合はクラッチを引いてください。



警告

事故の危険性 斜面や横方向に地面が傾斜している場合、可能な減速力を最大限に発揮することはできません。

- 可能な場合、カーブ開始前にブレーキングを終了してください。

- ブレーキをかけるプロセスは必ずカーブが始まる前までに終了させます。その際、速度に合わせてシフトダウンして下さい。

- 長い下り坂ではエンジンブレーキを利用して下さい。エンジンブレーキを利用するには、エンジンが過回転しないよう注意しながら1段か2段シフトダウンします。これによりブレーキをかける回数をはるかに減り、ブレーキシステムが過熱するのを防ぐ事ができます。

10.6 停止と駐車



警告

人体への危険 常識のない行動をとる人物は自身および他の方への危険となります。

- エンジン稼働中には決して車両から目を離さないでください。
- 権限のない人物が車両に近づかないよう注意してください。
- 車両を放置する場合はハンドルをロックし、イグニッションキーを抜いてください。



警告

火傷の危険性 一部の部品は運転中に熱くなります。

- 車両部品が冷めるまで排気装置、ラジエーター、エンジン、ダンパー、ブレーキシステムなどの部品には触らないでください。
- 車両部品を十分に冷ましてから作業を実行してください。

情報

部品の損傷 誤った方法で駐車を行った場合、車両が破損する恐れがあります。

車両が動いたり倒れたりした場合、大きな破損につながる恐れがあります。

車両を立てる部品はその車両重量のみを考慮して設計されています。

- 車両は安定した平らな地面の上に立っています。
- 車両がスタンド一本で駐車されている場合、車両に誰も乗っていないことを確かめて下さい。

情報

火事の危険 高温になった車両部品は火傷や爆発の危険となります。

- 可燃性がある、または爆発の危険がある物付近に車両を設置しないでください。
- 車両を十分に冷ましてから、車両にカバーをかけてください。

- 車両にブレーキをかけます。
- ギアをニュートラルに入れます。
- イグニッションキーをの位置  に回してイグニッションをオフにします。

参考

エンジンをエマージェンシーOFFスイッチで停止し、イグニッションがまだ作動している状態では、電装系部品の大部分にまだ電気が供給されており、これにより12Vバッテリーが消費されます。エンジンは必ずイグニッションで停止し、エマージェンシーOFFスイッチは非常の場合にのみ使用するようして下さい。

- 車両を安定した地面の上に駐車します。
- 足でサイドスタンドを前に押して完全に開き、車両の重量をかけます。
- ハンドル操作をロックします。( 頁 15)

10.7 輸送

情報

部品の損傷 誤った方法で駐車を行った場合、車両が破損する恐れがあります。

車両が動いたり倒れたりした場合、大きな破損につながる恐れがあります。

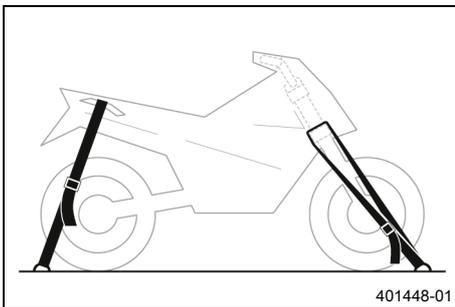
車両を立てる部品はその車両重量のみを考慮して設計されています。

- 車両は安定した平らな地面の上に立てます。
- 車両がスタンド一本で駐車されている場合、車両に誰も乗っていないことを確かめて下さい。

情報

火事の危険 高温になった車両部品は火傷や爆発の危険となります。

- 可燃性がある、または爆発の危険がある物付近に車両を設置しないでください。
- 車両を十分に冷ましてから、車両にカバーをかけてください。



- エンジンを停止し、イグニッションキーを抜きます。
- ラッシングベルトが適切な固定器具で、車両が倒れたり動いたりしないよう固定します。

10.8 燃料を給油する



危険

火事の危険 燃料は可燃性です。

フューエルタンク内の燃料は熱により膨張し、溢れ出てしまうことがあります。

- 炎や火のついたタバコの近くで車両に給油しないでください。
- 給油の際にはエンジンを停止してください。
- 特に車両部品に燃料がこぼれることがないように注意してください。
- こぼれた燃料はすぐに拭き取ってください。
- 給油の際には燃料給油に関する注意事項を参照してください。



警告

中毒の危険性 燃料は健康に害を及ぼすものです。

- 燃料が皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- 燃料を飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 気化した燃料を吸い込まないでください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- 燃料が目にはいつてしまった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- 燃料が衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。

情報

部品の損傷 低品質の燃料を使用すると燃料フィルターが早期に詰まってしまいます。

国や地域によっては入手可能な燃料の品質が不十分であったり、また多くの不純物が混入していることがあります。その結果燃料システムで問題を引き起こす事があります。

10 運転上の注意事項

- 指定された規格に適合し不純物の少ない燃料のみを使用してください。(お近くの KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)



情報

環境汚染 燃料の不適切な取り扱いは、環境汚染の原因となります。

- 燃料を地下水、土壌、下水道に流してはいけません。



- エンジンを停止します。
- フィラーキャップを開けます。(📖 頁 16)
- 注入口の下端 **1** を超えないように注意しながらフューエルタンクに燃料を注ぎます。

フューエルタンク総容量(約)	14.5 L	無鉛ハイオクガソリン (ROZ 95) (📖 頁 120)
----------------	--------	----------------------------------

- フィラーキャップを閉めます。(📖 頁 17)



S04133-10

11.1 補足情報

必須項目や推奨項目の作業実施により発生した、これら項目以外の作業については、別途注文・請求となります。現地における使用環境によってはサービス頻度が異なってくる場合もあります。技術改良が行われていく中で、個々のサービス頻度および範囲が変わってくる場合があります。最終的なサービスプランは KTM Dealer.net に表示されています。KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。

11.2 必須作業

	24	カ	月	毎
	12	カ	月	毎
走行ごと	15,000 km			
走行ごと	7,500 km			
走行後	1,000 km			
KTM 診断ツールでエラーメモリーを解読します。🔧	○	●	●	●
電装系部品の機能を点検します。🔧	○	●	●	●
エンジンオイルとオイルフィルターを交換し、オイルスクリーンを清掃します。🔧 (📖 頁 101)	○	●	●	●
ブレーキディスクを点検します。(📖 頁 64)	○	●	●	●
前輪ブレーキのブレーキパッドとパッドピンを点検します。(📖 頁 66)	○	●	●	●
後輪ブレーキのブレーキパッドとパッドピンを点検します。(📖 頁 70)	○	●	●	●
ブレーキホースに損傷や漏れがないかを点検します。🔧	○	●	●	●
前輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検します。(📖 頁 64)	○	●	●	●
後輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検します。(📖 頁 68)	○	●	●	●
タイヤの状態を点検します。(📖 頁 75)	○	●	●	●
タイヤ空気圧を点検します。(📖 頁 76)	○	●	●	●
ショックアブソーバーとフロントフォークに漏れがないか点検します。🔧	○	●	●	●
フォークレグのダストシールを清掃します。(📖 頁 53)		●	●	
チェーン、リアスプロケット、フロントスプロケットを点検します。(📖 頁 58)		●	●	●
チェーンの遊びを点検します。(📖 頁 57)	○	●	●	●
クーラントのレベルを点検します。(📖 頁 94)	○	●	●	●
冷却ファンの機能を点検します。🔧	○	●	●	●
エアフィルターを交換し、エアフィルターケースを清掃します。🔧		●	●	
ワイヤーが損傷していないか、折れがなく配線・調節されているかを点検します。🔧	○	●	●	●
ケーブルに損傷がないか、折れない配線になっているかを点検します。🔧	○	●	●	●
バルブの遊びを点検し、スパークプラグを交換します。🔧			●	
前輪ブレーキのブレーキフルードを交換します。🔧				●
後輪ブレーキのブレーキフルードを交換します。🔧				●
ステアリングヘッドベアリングの遊びを点検します。🔧	○	●	●	●
ヘッドライトの設定を点検します。(📖 頁 89)	○	●	●	
サービス時期の表示を設定します。🔧	○	●	●	●
最終確認: 車両が道路交通で安全に使用できる状態であることを確認し、試験走行を行います。🔧	○	●	●	●
試験走行後に KTM 診断ツールでエラーメモリーを解読します。🔧	○	●	●	●
電子カスタマーサービスブックに入力します。🔧	○	●	●	●

- 一度限りの実施時期
- 定期的な実施時期

11 サービスプラン

11.3 推奨作業

	48 月 毎			
	12 月 毎			
	走行ごと 30,000 km			
	走行ごと 7,500 km			
	走行後 1,000 km			
フレームを点検します。🔧			●	
スイングアームを点検します。🔧			●	
スイングアームのベアリングのガタを点検します。🔧		●	●	
ホイールベアリングのガタを点検します。🔧		●	●	
不凍液を点検します。🔧	○	●	●	●
クーラントを交換します。🔧 (📖 頁 97)				●
排水ホースを空にします。🔧	○	●	●	●
ホース類 (燃料、クーラント、エア抜き、排水などの各ホース)とワイヤーブーツの全てで、ひびや漏れがないか、正しく取り回されているかを点検します。🔧	○	●	●	●
全ての可動部品 (サイドスタンド、ハンドレバー、チェーンなど)をグリースアップし、これら部品がスムーズに動くかを点検します。🔧	○	●	●	●
簡単に確認することができ、安全上重要なスクリューとナットがきちんと締められているかを点検します。🔧	○	●	●	●

- 一度限りの実施時期
- 定期的な実施時期

12.1 ショックアブソーバーのスプリングプリロードを調節する



警告

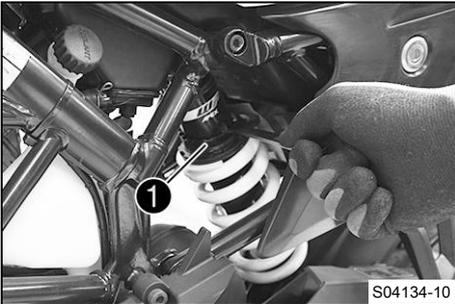
事故の危険性 シャーシ設定を変更すると、走行挙動に大きく影響します。

- 調整後は、まずゆっくりと走行し、走行挙動を確認してください。



参考

スプリングプリロードはショックアブソーバーが伸び縮みする際の基本状態を決定します。スプリングプリロードを最適に調節する事により、運転者の体重 (場合によってさらに荷物と同乗者) に合わせて操作性と安定性のバランスを取る事ができます。



- 調節リング①を回し、スプリングプリロードを調節します。

規定

(EU/JP/AR/CO)

スプリングプリロード	
標準	3 クリック

(PH)

スプリングプリロード	
標準	3 クリック

ショックアブソーバー用フックレンチ (90529077000)

フックレンチの延長部 (90129099025)



参考

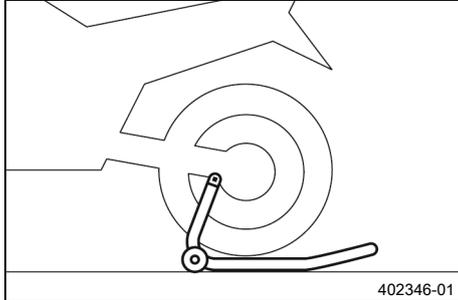
スプリングプリロードは 10 の異なったポジションに調節する事ができます。

13.1 車両をリアスタンドで持ち上げる

情報

損傷の危険性 駐車中の車両が動き出たり倒れる恐れがあります。

- 車両は安定した平らな地面の上に立てます。



- スタンド用のサポートを取り付けます。
- アダプターをリアスタンドに差し込みます。

固定アダプター (61029955244)

後輪のメンテナンススタンド (69329955000)

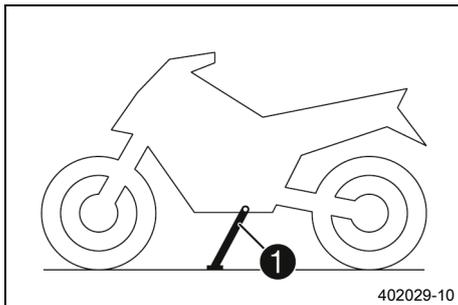
- 車両を垂直に立て、スタンドをスイングアームとアダプターに合わせて車両を持ち上げます。

13.2 リアスタンドから車両を降ろす

情報

損傷の危険性 駐車中の車両が動き出たり倒れる恐れがあります。

- 車両は安定した平らな地面の上に立てます。



- 車両が倒れないように支えをします。
- リアスタンドを外し、車両をサイドスタンド①で立てます。
- ブッシングキットを外します。

13.3 フロントスタンドで車両を持ち上げる

情報

損傷の危険性 駐車中の車両が動き出たり倒れる恐れがあります。

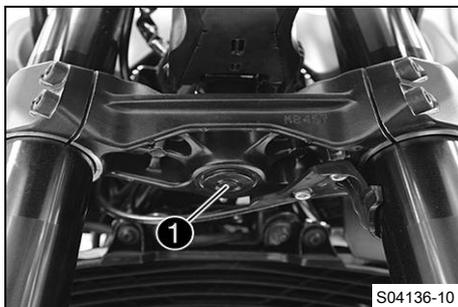
- 車両は安定した平らな地面の上に立てます。

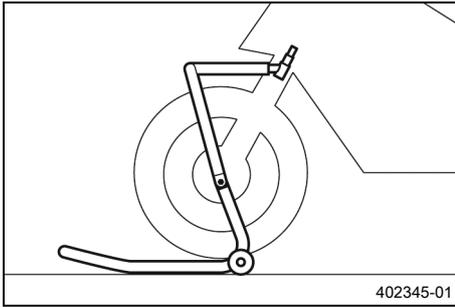
準備作業

- 車両をリアスタンドで持ち上げます。(📖 頁 52)

条件

- 保護キャップ①を外します。





- ハンドルバーを直進の状態にします。スタンドの位置を調整します。

ロケーションボルト (69329965030)

前輪のメンテナンススタンド (大) (69329965100)



参考

車両は必ず後方から先に持ち上げて下さい。

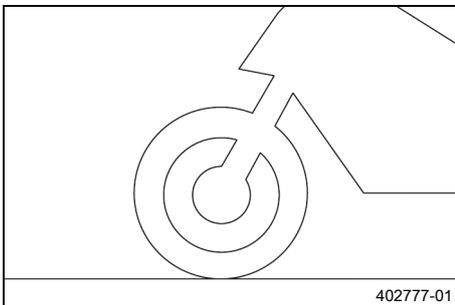
- 車両を持ち上げます。

13.4 フロントスタンドから車両を降ろす

情報

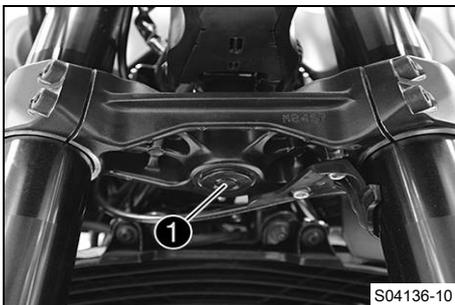
損傷の危険性 駐車中の車両が動き出たり倒れる恐れがあります。

- 車両は安定した平らな地面の上に立てます。



主な作業

- 車両が倒れないように支えます。
- フロントスタンドを取り外します。



- 保護キャップ①を取り付けます。

その後の作業

- リアスタンドから車両を降ろします。(📖 頁 52)

13.5 フォークレグのダストシールを清掃する

準備作業

- 車両をリアスタンドで持ち上げます。(📖 頁 52)
- フロントスタンドで車両を持ち上げます。(📖 頁 52)
- フロントフェンダーを取り外します。(📖 頁 62)



主な作業

- 両側のフォークレグで、ダストシール①を下にずらします。

参考

ダストシールはフォークインナーパイプのほこりや汚れをこすり落とします。時間が経つにつれ、汚れがダストシールの裏に入り込むことがあります。この汚れを取り除かないと、その後ろにあるオイルシールリングに漏れが生じる恐れがあります。

警告

事故の危険性 オイルやグリースがブレーキディスクに付着するとブレーキ性能が低下します。

- ブレーキディスクを常にオイルやグリースから保護してください。
- 必要な場合、ブレーキディスクをブレーキ洗浄剤を使って清掃してください。

- 両側のフォークレグのダストシールとインナーチューブを清掃し、オイルを差します。

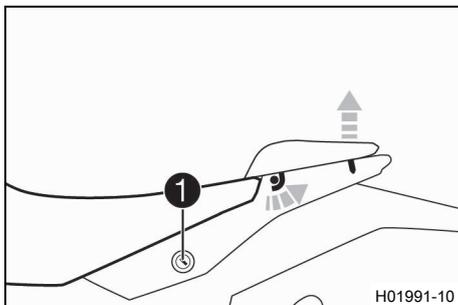
汎用オイルスプレー (📖 頁 121)

- ダストシールを取付け位置に押し戻します。
- 余分なオイルを取り除きます。

その後の作業

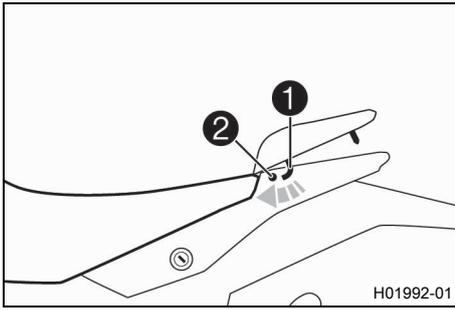
- フロントフェンダーを取り付けます。(📖 頁 62)
- フロントスタンドから車両を降ろします。(📖 頁 53)
- リアスタンドから車両を降ろします。(📖 頁 52)

13.6 リアシートを取り外す



- イグニッションキーをシートロック①に差し込み、時計回りに回します。
- シートの後ろを持ち上げ、後部に向かって押し上げて上方向に取り外します。
- イグニッションキーをシートロックから抜きます。

13.7 リアシートを取り付ける



- リアシートのフック ① をサブフレームのシートホルダー ② に掛け、後方を下げながら前に押しします。
- リアシートがロックするまでシートを下に押しします。

**警告**

事故の危険性 シートが正しく取り付けられていないと、固定部から飛び出す恐れがあります。

- シート取り付け作業後にはシートが正しくロックされており、上に引き上げることができない状態であることを確認してください。

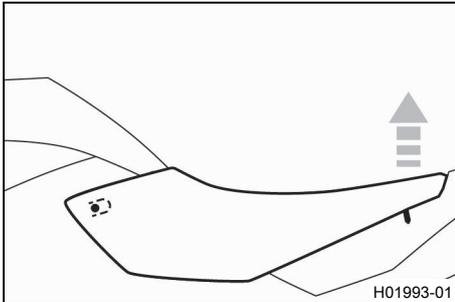
- 最後にリアシートが正しく取り付けられているかどうかを点検します。



13.8 フロントシートを取り外す

準備作業

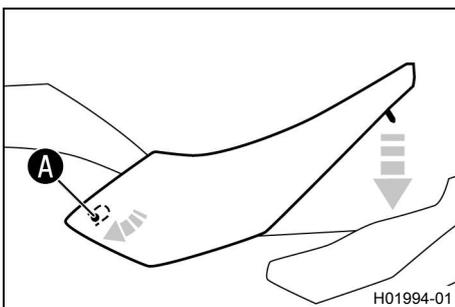
- リアシートを取り外します。(📖 頁 54)

**主な作業**

- シート後部を持ち上げ、リアエンドの方に引っ張り、上向きに取り外します。



13.9 フロントシートを取り付ける

**主な作業**

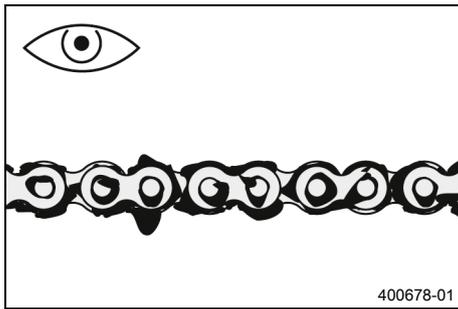
- シートを A の部分に掛け後部を下ろします。
- 最後にフロントシートが正しく取り付けられているかどうかを点検します。

その後の作業

- リアシートを取り付けます。(📖 頁 55)



13.10 チェーンの汚れを点検する



- チェーンに大きな汚れが付着していないか点検します。
 - » チェーンがひどく汚れている:
 - チェーンを清掃します。(📖 頁 56)

13.11 チェーンを清掃する



警告

事故の危険性 潤滑剤がタイヤに付着すると、タイヤの粘着力が低下します。

- 潤滑剤を適切な洗浄剤を利用してタイヤから拭き取ってください。



警告

事故の危険性 オイルやグリースがブレーキディスクに付着するとブレーキ性能が低下します。

- ブレーキディスクを常にオイルやグリースから保護してください。
- 必要な場合、ブレーキディスクをブレーキ洗浄剤を使って清掃してください。



情報

環境汚染 問題物資が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。



参考

チェーンの寿命は手入れの仕方で大きく変わってきます。

準備作業

- 車両をリアスタンドで持ち上げます。(📖 頁 52)

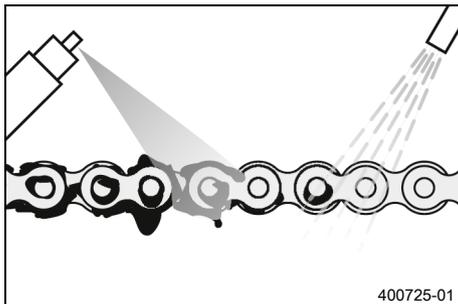
主な作業

- チェーンを定期的に清掃します。
- 大きな汚れは弱い水流で洗い流します。
- グリースの残りはチェーン洗浄剤で落とします。

チェーン洗浄剤 (📖 頁 121)

- 乾かした後、チェーンスプレーを吹き付けます。

チェーンスプレー・Street (📖 頁 121)



その後の作業

- リアスタンドから車両を降ろします。(📖 頁 52)

13.12 チェーンの遊びを点検する

**警告**

事故の危険性 不適切なチェーンの遊びは部品を破損し、事故の原因となります。

チェーンが貼りすぎているとチェーン、フロントスプロケット、リアスプロケット、そしてギアベアリングおよび後輪ベアリングが早期磨耗してしまいます。部品の中には過負荷により切れたり壊れたりするものもあります。

チェーンが緩すぎるとチェーンがフロントスプロケットまたはリアスプロケットから外れてしまいます。その結果、後輪ロック、またはエンジン破損の原因となります。

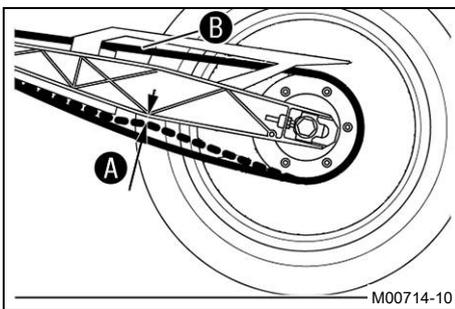
- チェーンの遊びを定期的に点検してください。
- チェーンの遊びを規定値に従って設定してください。

準備作業

- 車両をリアスタンドで持ち上げます。(📖 頁 52)

主な作業

- ギアをニュートラルに入れます。
- チェーンスライダーガードの後ろ辺りでチェーンをスイングアームの方向に押し上げ、チェーンの遊び **A** を確認します。

**参考**

その際、チェーン上部 **B** がピンと張っている事を確認して下さい。

チェーンは均等に擦り切れるとは限らないので、上記確認を何箇所か別の場所で繰り返し行って下さい。

チェーンの遊び	5 ... 7 mm
---------	------------

- » チェーンの遊びが規定通りになっていない:
 - チェーンの遊びを調節します。(📖 頁 57)
- リアスタンドから車両を降ろします。(📖 頁 52)

13.13 チェーンの遊びを調節する

**警告**

事故の危険性 不適切なチェーンの遊びは部品を破損し、事故の原因となります。

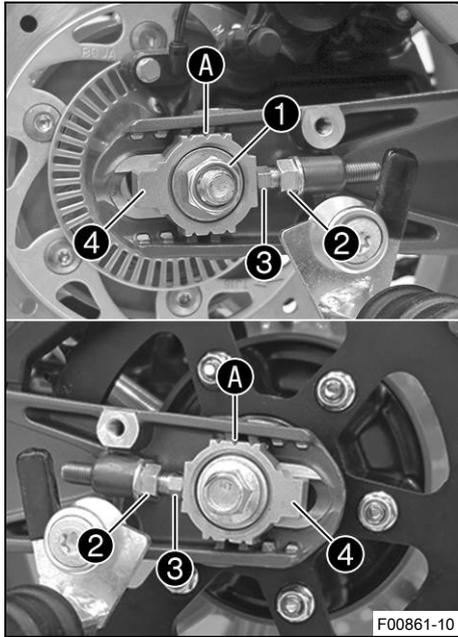
チェーンが貼りすぎているとチェーン、フロントスプロケット、リアスプロケット、そしてギアベアリングおよび後輪ベアリングが早期磨耗してしまいます。部品の中には過負荷により切れたり壊れたりするものもあります。

チェーンが緩すぎるとチェーンがフロントスプロケットまたはリアスプロケットから外れてしまいます。その結果、後輪ロック、またはエンジン破損の原因となります。

- チェーンの遊びを定期的に点検してください。
- チェーンの遊びを規定値に従って設定してください。

準備作業

- 車両をリアスタンドで持ち上げます。(📖 頁 52)
- チェーンの遊びを点検します。(📖 頁 57)



主な作業

- ナット①を緩めます。
- ナット②を緩めます。
- 左右の調節スクリュー③を回し、チェーンの遊びを調節します。

規定

チェーンの遊び	5 ... 7 mm
左右の調節スクリュー③を回し、両側のチェーンアジャスター④のマーキングが目印Aに対して同じ位置にくるように調節します。これにより後輪の位置が正しく調整されます。	

i 参考

その際、チェーン上部がピンと張っている事を確認して下さい。
チェーンは均等に擦り減るとは限らないので、チェーンの異なる箇所での調整を確認してください。

- ナット②をしっかりと締めます。
- チェーンアジャスター④が調節スクリュー③に接触している事を確認します。
- ナット①をしっかりと締めます。

規定

後輪アクスルシャフト用ナット	M14x1.5	100 Nm
----------------	---------	--------

その後の作業

- リアスタンドから車両を降ろします。(📖 頁 52)

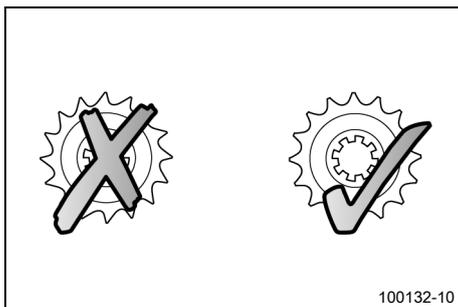
13.14 チェーン、リアsproケット、フロントsproケットを点検する

準備作業

- 車両をリアスタンドで持ち上げます。(📖 頁 52)

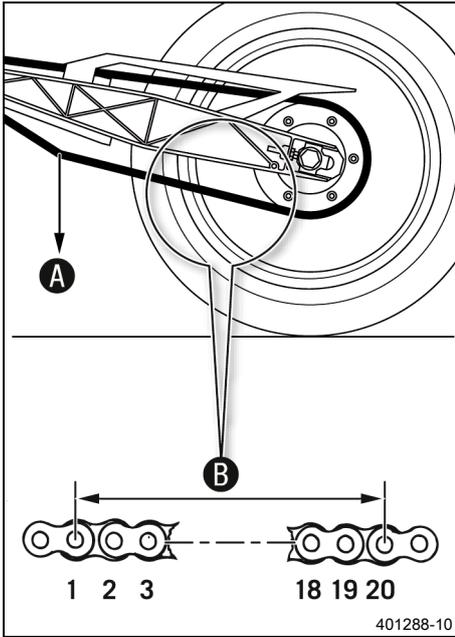
主な作業

- リアsproケットとフロントsproケットの磨耗を点検します。
 - » リアsproケットまたはフロントsproケットが磨耗している:
 - 駆動部品一式を交換します。🔧



i 参考

フロントsproケット、リアsproケット、チェーンは必ず一緒に交換して下さい。



- ギアをニュートラルに入れます。
- チェーン下部を以下に記載した重量 **A** で引っ張ります。

規定

チェーンの磨耗測定における重量	15 kg
-----------------	-------

- チェーン下部でローラー 20 個分の長さ **B** を測定します。

i 参考

チェーンは均等に擦り切れるとは限らないので、上記確認を何箇所か別の場所で繰り返し行って下さい。

チェーンが最も長い部分でのローラー 20 個分の長さ B の最大値	301.6 mm
--	----------

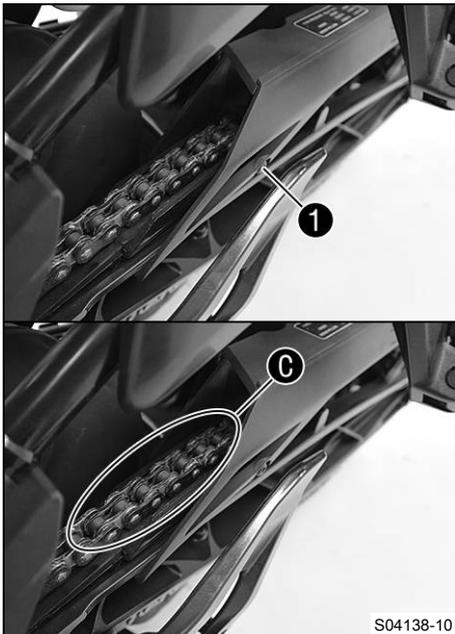
» 長さ **B** が規定値より大きい:

- 駆動部品一式を交換します。🔧

i 参考

新しいチェーンを取り付ける際は、同時にリアスプロケットとフロントスプロケットも交換して下さい。

新しいチェーンを摩耗が進んだ古いリアスプロケットまたはフロントスプロケットと一緒に使用すると、早く摩耗してしまいます。



- チェーンスライダーガードの磨耗を点検します。
 - » 上から見てチェーンスライダーガードの **C** の範囲の穴 **1** が見えている:
 - チェーンスライダーガードを交換します。🔧
- チェーンスライダーガードがきちんと固定されているか確認します。
 - » チェーンスライダーガードがガタついている:
 - チェーンスライダーガードのスクリューをしっかりと締めます。

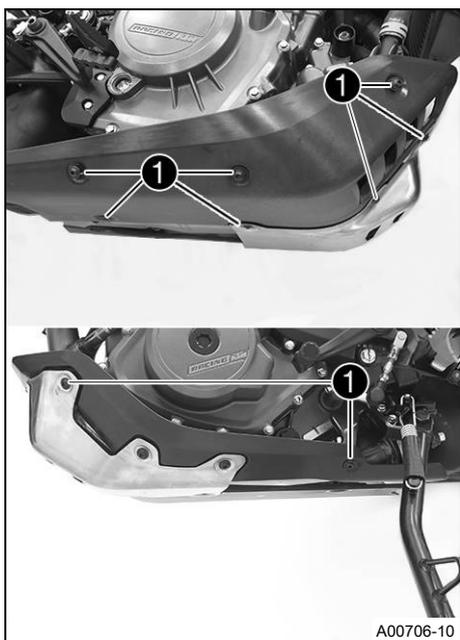
規定

チェーンガード用スクリュー	M5	7 Nm Loctite®243™
---------------	----	----------------------

その後の作業

- リアスタンドから車両を降ろします。(📖 頁 52)

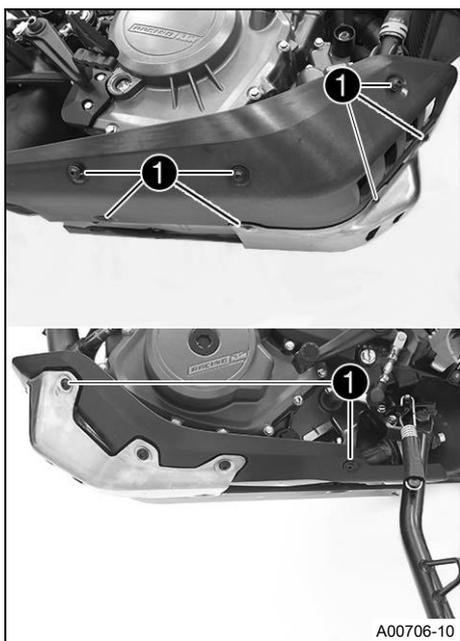
13.15 エンジンガードを取り外す



- スクリュー①を外します。
- エンジンガードを取り外します。

A00706-10

13.16 エンジンガードを取り付ける



- エンジンガードの位置を調整し、スクリュー①を取り付け、しっかりと締めます。

規定

エンジンガード用スクリュー	M6	9 Nm	Loctite®243™
---------------	----	------	--------------

A00706-10

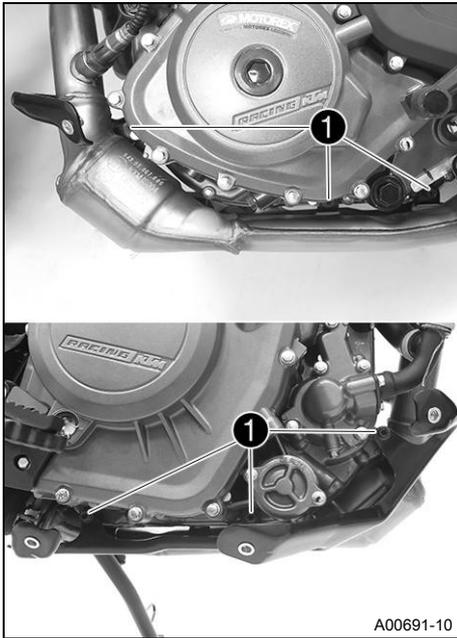
13.17 エンジンガード固定ブラケットを取り外す

準備作業

- エンジンガードを取り外します。(頁 60)

主な作業

- スクリュー①を外します。
- エンジンガード固定ブラケットを取り外します。



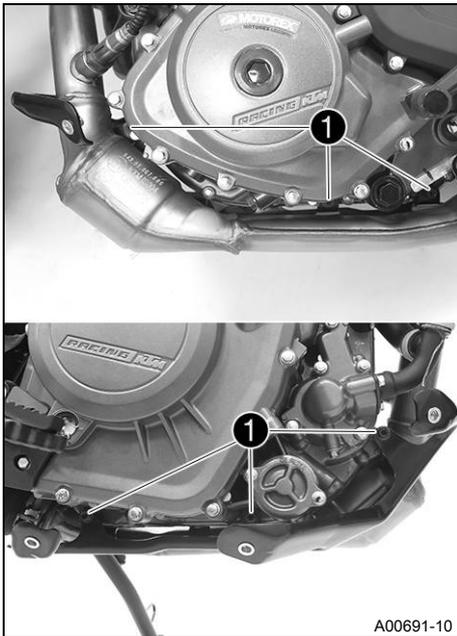
13.18 エンジンガード固定ブラケットを取り付ける

主な作業

- エンジンガード固定ブラケットの位置を調整し、スクリュー①を取り付け、しっかりと締めます。

規定

エンジンガード 固定ブラケット 用スクリュー	M6	9 Nm	Loctite®243™
------------------------------	----	------	--------------



その後の作業

- エンジンガードを取り付けます。(頁 60)

13.19 フロントフェンダーを取り外す



- スクリュー①を外します。フロントフェンダーを取り出します。

13.20 フロントフェンダーを取り付ける

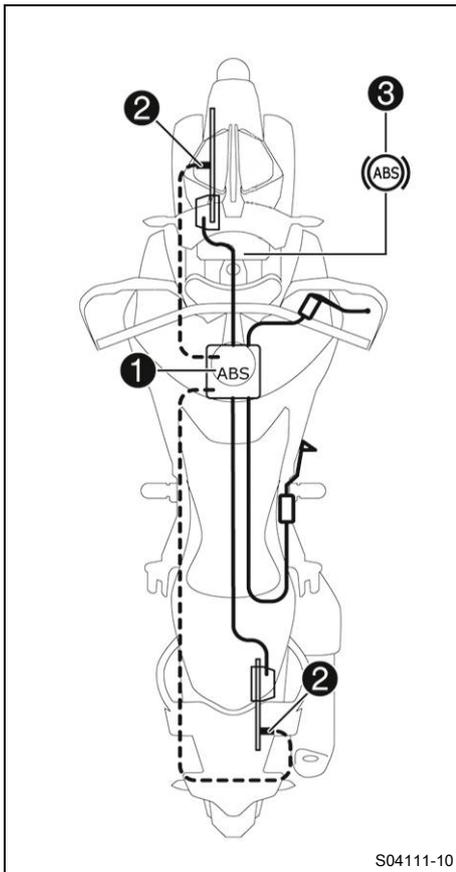


- フロントフェンダーを配置します。スクリュー①を取り付け、しっかりと締めます。

規定

シャーシ用その他の スクリュー	M6	9 Nm
--------------------	----	------

14.1 アンチロック・ブレーキシステム (ABS)



S04111-10

ABSモジュール①は油圧ユニット、ABSコントロールユニット、リターンポンプからなり、フューエルタンクの下に設置されています。前輪と後輪に各1つの車輪速度センサー②が取り付けられています。

**警告**

事故の危険性 車両を改造した場合、アンチロック・ブレーキシステムの機能に影響を及ぼします。

- サスペンションストロークに影響を及ぼすような改造を行わないで下さい。
- ブレーキシステムには KTM 純正製品のスペアパーツのみをご使用下さい。
- KTM により承認および推奨された適切な速度記号のタイヤならびに車輪のみを使用して下さい。
- タイヤの規定空気圧を遵守して下さい。
- メンテナンス作業および修理が正しく行われていることを確認して下さい。(お近くの KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)

ABSは安全システムの一つであり、物理的に可能な範囲で直進走行中やコーナー進入中に車輪のブロックや滑りを防ぎます。

**警告**

事故の危険性 運転支援システムは物理的に可能な範囲内で転倒の確率を抑えるためのものです。

重い荷物の積載、道路舗装の変化、急勾配での発進、クラッチを切らないままのフルブレーキなどの走行状態では運転支援が行えない場合があります。

- 道路の状況、運転能力に応じた走行方法で運転しましょう。

ABSには、ABSモードRoadとABSモードOffroadの2つの作動モードがあります。

ABSモードRoadでは、ABSが前輪・後輪の両方を制御できます。

ABSモードOffroadでは、ABSが前輪だけを制御します。

**参考**

ABSモードOffroadでは後輪がロックし、転倒する恐れがあります。

ABSは2つの独立したブレーキ回路で作動します(前輪ブレーキと後輪ブレーキ)。通常運転ではブレーキシステムはABSが装備されていない従来型ブレーキとして機能します。車輪のいずれかがロックしている傾向をABSコントロールユニットが検出すると、ブレーキ圧の調整によりABSが作動し始めます。調整プロセスによりブレーキペダルまたはブレーキレバーにわずかな振動が感じられます。

通常、イグニッションをオンにするとABS警告ランプ③が点灯し、発進すると消えます。発進後もランプが消えない場合や走行中に点灯した場合は、アンチロック・ブレーキシステムで不具合が発生した事を示します。この場合にはABSは作動せず、ブレーキをかけた際に車輪がロックする恐れがあります。その際、

ABSによる調整は行われませんが、ブレーキシステム自体は通常通り機能します。

ABS警告ランプは、ウィリーや後輪の空転などの極端な走行状態で、前輪と後輪の回転数に大きな差異がある場合にも点灯する事があります。この場合、ABSはオフとなります。

ABSを再度オンにするには、車両を停止してイグニッションをオフにします。車両を再び作動すると、ABSも再びオンになります。ABS警告ランプは発進後に消えます。

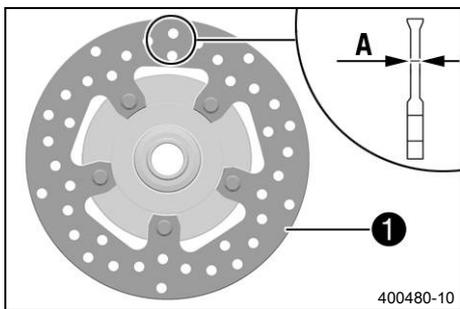
14.2 ブレーキディスクを点検する



警告

事故の危険性 磨耗したブレーキディスクはブレーキ性能を低下させます。

- 磨耗したブレーキディスクは速やかに交換しなければなりません。(お近くの KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)



- 前輪と後輪のブレーキディスクの何箇所かでディスクの厚み **A** を確認します。



参考

ブレーキディスクの厚みは、ブレーキパッドと接触する範囲 **1** が磨耗により減っていきます。

ブレーキディスク磨耗限界	
前方	4.5 mm
後輪	3.6 mm

- » ブレーキディスクの厚みが規定値を下回っている:
 - 前輪ブレーキのブレーキディスクを交換します。↘
 - 後輪ブレーキのブレーキディスクを交換します。↘
- 前輪と後輪のブレーキディスクでひび、損傷、変形がないかを点検します。
 - » ブレーキディスクにひび、損傷、変形が見られる:
 - 前輪ブレーキのブレーキディスクを交換します。↘
 - 後輪ブレーキのブレーキディスクを交換します。↘

14.3 前輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検する



警告

事故の危険性 ブレーキシステムはブレーキフルード・レベルが不十分であると稼動しません。

ブレーキフルードのレベルがMINのマーキングを下回っていたら、ブレーキシステムに漏れがあるか、ブレーキパッドが磨耗しています。

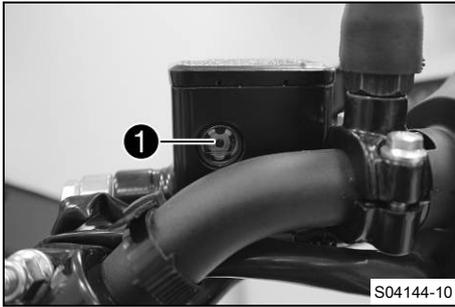
- ブレーキシステムを点検し、問題を解決するまでは車両を走行させないでください。(お近くの KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)



警告

事故の危険性 老化したまたは不適切なブレーキフルードは、ブレーキシステムの機能を損なわせます。

- 前輪および後輪ブレーキのブレーキフルードがサービスプランの規定に従って交換されていることを確認してください。(お近くの KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)
- 密閉された容器に保存された清潔かつ承認されたブレーキフルードのみを必ず使用してください。(お近くの KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)



- ハンドルバーに取り付けられているブレーキフルードリザーバーを水平な状態にします。
- ブレーキフルードのレベルを点検窓①で確認します。
 - » ブレーキフルードのレベルがMINのマーキングを下回っている:
 - 前輪ブレーキのブレーキフルードを補給します。 (📖 頁 65)

14.4 前輪ブレーキのブレーキフルードを補給する



警告

事故の危険性 ブレーキシステムはブレーキフルード・レベルが不十分であると稼動しません。

ブレーキフルードのレベルがMINのマーキングを下回っていたら、ブレーキシステムに漏れがあるか、ブレーキパッドが摩耗しています。

- ブレーキシステムを点検し、問題を解決するまでは車両を走行させないでください。(お近くのKTM正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)



警告

皮膚の炎症 ブレーキフルードは健康に害を及ぼすものです。

- ブレーキフルードは子供の手の届かないところに保管してください。
- 適切な保護服、保護メガネを着用して下さい。
- ブレーキフルードが皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- ブレーキフルードを飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 接触した部分の肌は多量の水で洗ってください。
- ブレーキフルードが目に入ってしまった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- ブレーキフルードが衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。



警告

事故の危険性 老化したまたは不適切なブレーキフルードは、ブレーキシステムの機能を損なわせます。

- 前輪および後輪ブレーキのブレーキフルードがサービスプランの規定に従って交換されていることを確認してください。(お近くのKTM正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)
- 密閉された容器に保存された清潔かつ承認されたブレーキフルードのみを必ず使用してください。(お近くのKTM正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)



情報

環境汚染 問題物資が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。

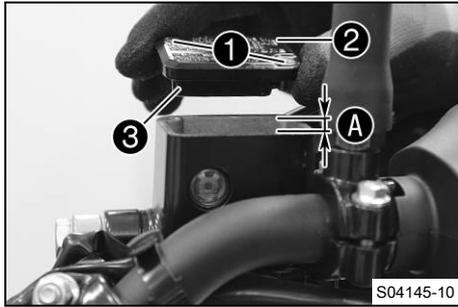


参考

塗装された部品にブレーキフルードがつかないように注意して下さい。塗装がはげます！

準備作業

- 前輪ブレーキのブレーキパッドとパッドピンを点検します。(📖 頁 66)



主な作業

- ハンドルバーに取り付けられているブレーキフルードリザーバーを水平な状態にします。
- スクリュー ①を外します。
- カバー ②をダイヤフラム ③と一緒に外します。
- ブレーキフルードを A の位置まで注ぎます。

規定

寸法 A	5 mm
------	------

ブレーキフルード DOT 4 / DOT 5.1 (📖 頁 119)

- カバーとダイヤフラムの位置を調整します。スクリューを取り付け、しっかりと締めます。

参考

- ブレーキフルードが溢れたりこぼれたりした場合は、すぐに水で洗い流して下さい。

14.5 前輪ブレーキのブレーキパッドとパッドピンを点検する



警告

事故の危険性 磨耗したブレーキパッドはブレーキ性能を低下させます。

- 磨耗したブレーキパッドは速やかに交換しなければなりません。(お近くの KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)

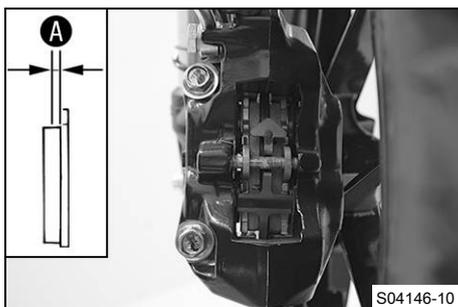


警告

事故の危険性 破損したブレーキディスクはブレーキ性能を低下させます。

ブレーキパッドの交換が遅れると、ブレーキパッドサポートがブレーキディスクをこすります。その結果、ブレーキ性能が大幅に低下し、ブレーキディスクを破損してしまいます。

- ブレーキパッドを定期的に点検してください。



- ブレーキパッドの厚み A の最小値を点検します。

厚み最小値 A	≥ 1 mm
---------	--------

» 厚み最小値を下回っている場合:

- 前輪ブレーキのブレーキパッドを交換します。👉
- ブレーキパッドにひびや損傷がないか点検します。
- » ひびや損傷がある:
 - 前輪ブレーキのブレーキパッドを交換します。👉
- ブレーキパッドのパッドピンを点検します。
- » ブレーキパッドが正しく固定されていない場合:
 - ブレーキパッドを固定するか、新しい部品を使用します。

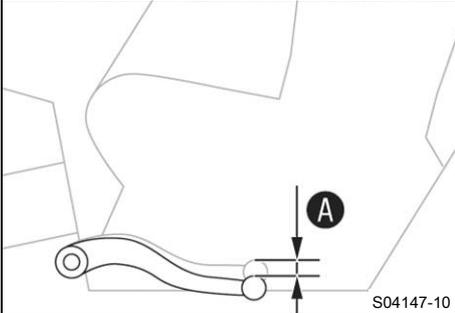
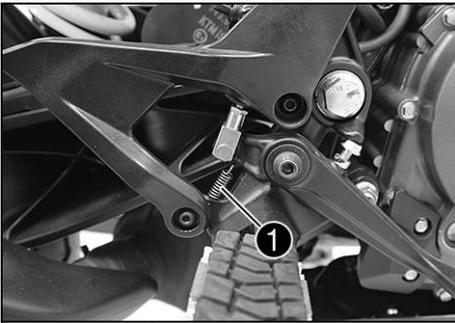
14.6 ブレーキペダルの遊びを点検する



警告

事故の危険性 オーバーヒートしたり、不適切に設定されていると、ブレーキシステムが作動しません。ブレーキペダルに遊びがないと、ブレーキシステム内で後輪ブレーキに圧力がかかります。

- ブレーキペダルの遊びを規定値に従って設定してください。
- 設定作業が正しく行われていることを確認して下さい。(お近くの KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)



- スプリング①を外します。
- ブレーキペダルを、ペダルが上がり切った状態とフットブレーキシリンダーのピストンに触れる間で何度か動かし、遊びAを確認します。

規定

ブレーキペダルの遊び	3 ... 5 mm
------------	------------

» 遊びが規定通りになっていない:

- ブレーキペダルの遊びを調節します。🔧 (📖 頁 67)
- スプリング①を取り付けます。

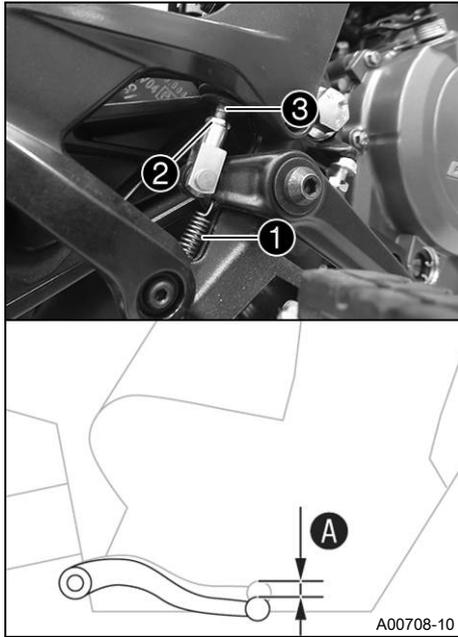
14.7 ブレーキペダルの遊びを調節する 🔧



警告

事故の危険性 オーバーヒートしたり、不適切に設定されていると、ブレーキシステムが作動しません。ブレーキペダルに遊びがないと、ブレーキシステム内で後輪ブレーキに圧力がかかります。

- ブレーキペダルの遊びを規定値に従って設定してください。
- 設定作業が正しく行われていることを確認して下さい。(お近くの KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)



- スプリング①を外します。
- ナット②を緩め、スクリュー③で遊びAを規定通りに調節します。

規定

ブレーキペダルの遊び	3 ... 5 mm
------------	------------



参考

設定範囲には限界があります。

- スクリュー③を動かさないように押さえ、ナット②をしっかり締めます。

規定

シャーシ用その他のスクリュー	M6	9 Nm
----------------	----	------

- スプリング①を取り付けます。

14.8 後輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検する



警告

事故の危険性 ブレーキシステムはブレーキフルード・レベルが不十分であると稼動しません。

ブレーキフルードのレベルがMINのマーキングを下回っていたら、ブレーキシステムに漏れがあるか、ブレーキパッドが摩耗しています。

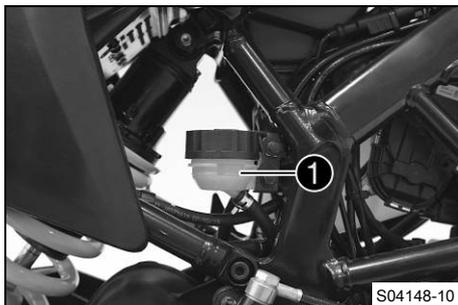
- ブレーキシステムを点検し、問題を解決するまでは車両を走行させないでください。(お近くのKTM正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)



警告

事故の危険性 老化したまたは不適切なブレーキフルードは、ブレーキシステムの機能を損なわせます。

- 前輪および後輪ブレーキのブレーキフルードがサービスプランの規定に従って交換されていることを確認してください。(お近くのKTM正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)
- 密閉された容器に保存された清潔かつ承認されたブレーキフルードのみを必ず使用してください。(お近くのKTM正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)



- 車両を垂直に立てます。
- ブレーキフルードリザーバーでブレーキフルードのレベルを確認します。
 - » フルードのレベルがMINのマーキング①に達している:
 - 後輪ブレーキのブレーキフルードを補給します。 (📖 頁 69)

14.9 後輪ブレーキのブレーキフルードを補給する



警告

事故の危険性 ブレーキシステムはブレーキフルード・レベルが不十分であると稼動しません。

ブレーキフルードのレベルがMINのマーキングを下回っていたら、ブレーキシステムに漏れがあるか、ブレーキパッドが摩耗しています。

- ブレーキシステムを点検し、問題を解決するまでは車両を走行させないでください。(お近くのKTM正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)



警告

皮膚の炎症 ブレーキフルードは健康に害を及ぼすものです。

- ブレーキフルードは子供の手の届かないところに保管してください。
- 適切な保護服、保護メガネを着用して下さい。
- ブレーキフルードが皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- ブレーキフルードを飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 接触した部分の肌は多量の水で洗ってください。
- ブレーキフルードが目に入ってしまった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- ブレーキフルードが衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。



警告

事故の危険性 老化したまたは不適切なブレーキフルードは、ブレーキシステムの機能を損なわせます。

- 前輪および後輪ブレーキのブレーキフルードがサービスプランの規定に従って交換されていることを確認してください。(お近くのKTM正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)
- 密閉された容器に保存された清潔かつ承認されたブレーキフルードのみを必ず使用してください。(お近くのKTM正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)



情報

環境汚染 問題物資が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。



参考

塗装された部品にブレーキフルードがつかないように注意して下さい。塗装がはげます！

準備作業

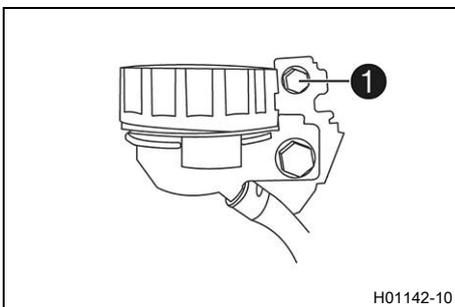
- 後輪ブレーキのブレーキパッドとパッドピンを点検します。(📖 頁 70)

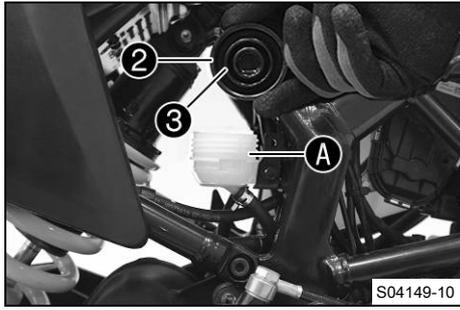
主な作業

条件

スクリューキャップはロックされています。

- スクリュー ① を外し、スクリューキャップのロックを取り外します。





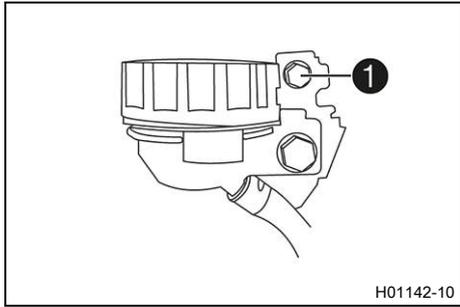
- 車両を垂直に立てます。
- スクリューキャップ②をダイヤフラム③と共に外します。
- ブレーキフルードを A のマーキングの位置まで注ぎます。

ブレーキフルード DOT 4 / DOT 5.1 (頁 119)

- スクリューキャップをダイヤフラムと一緒に取り付けます。

i 参考

ブレーキフルードが溢れたりこぼれたりした場合は、すぐに水で洗い流して下さい。



条件

スクリューキャップはロックされています。

- スクリューキャップロックの位置を調整し、スクリュー①を取り付け、しっかりと締めます。

規定

スクリューキャップ ロック 調節タ ンク 後輪ブレ キ	M5	9 Nm
--------------------------------------	----	------

14.10 後輪ブレーキのブレーキパッドとパッドピンを点検する



警告

事故の危険性 磨耗したブレーキパッドはブレーキ性能を低下させます。

- 磨耗したブレーキパッドは速やかに交換しなければなりません。(お近くの KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)

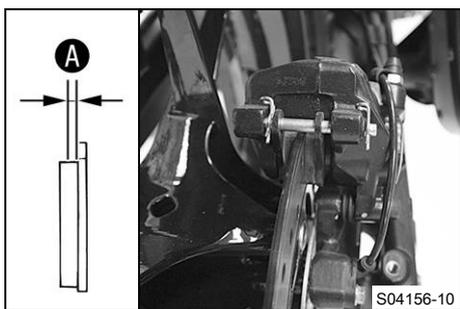


警告

事故の危険性 破損したブレーキディスクはブレーキ性能を低下させます。

ブレーキパッドの交換が遅れると、ブレーキパッドサポートがブレーキディスクをこすります。その結果、ブレーキ性能が大幅に低下し、ブレーキディスクを破損してしまいます。

- ブレーキパッドを定期的に点検してください。



- ブレーキパッドの厚み A の最小値を点検します。

厚み最小値 A	≥ 1 mm
---------	--------

- » 厚み最小値を下回っている場合:
 - 後輪ブレーキのブレーキパッドを交換します。↘
- ブレーキパッドにひびや損傷がないか点検します。
 - » ひびや損傷がある:
 - 後輪ブレーキのブレーキパッドを交換します。↘
- ブレーキパッドのパッドピンを点検します。
 - » ブレーキパッドが正しく固定されていない場合:
 - ブレーキパッドを固定するか、新しい部品を使用します。

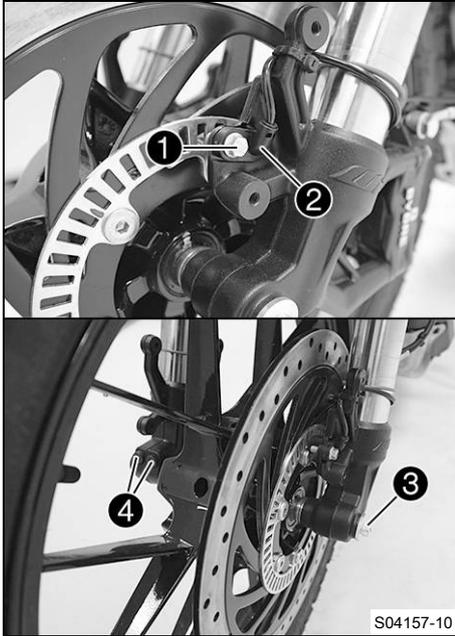
15.1 前輪を取り外す

準備作業

- 車両をリアスタンドで持ち上げます。(頁 52)
- フロントスタンドで車両を持ち上げます。(頁 52)
- フロントフェンダーを取り外します。(頁 62)

主な作業

- スクリュー①を外し、車輪速度センサー②を穴から抜きます。
- スクリュー③を数回転分緩めます。
- スクリュー④を緩めます。
- スクリュー③を押し、アクスルシャフトをフォークレグの穴から押し出します。
- スクリュー③を外します。



警告

事故の危険性 破損したブレーキディスクはブレーキ性能を低下させます。

- ブレーキディスクが損傷する事のないよう、ホイールの取り外しには注意して下さい。

- 前輪を支え、アクスルシャフトを取り外します。前輪をフロントフォークから取り外します。



参考

前輪を取り外した状態でブレーキレバーを作動しないで下さい。

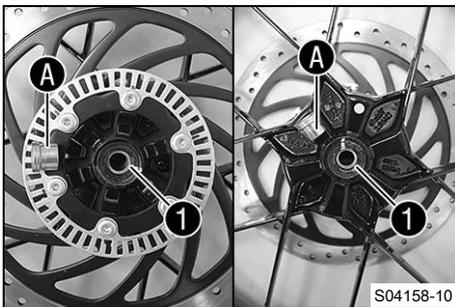
15.2 前輪を取り付ける



警告

事故の危険性 オイルやグリースがブレーキディスクに付着するとブレーキ性能が低下します。

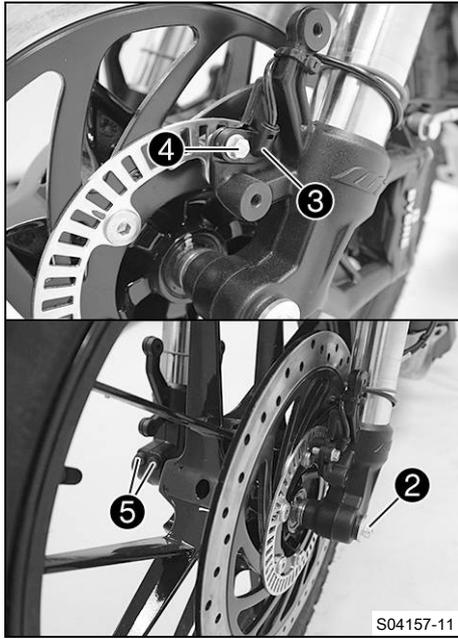
- ブレーキディスクを常にオイルやグリースから保護してください。
- 必要な場合、ブレーキディスクをブレーキ洗浄剤を使って清掃してください。



- ホイールベアリングに磨耗や損傷がないかを点検します。
 - » ホイールベアリングが磨耗または損傷している:
 - 前方ホイールベアリングを交換します。
- スパースーを取り外します。
- シャフトのラジアルシールリング①とスパースーの接触面Aを清掃し、グリースアップします。

耐久性グリース (頁 121)

- スパースーを取り付けます。



- アクスルシャフトとスクリュー②のねじ山を清掃します。
- アクスルシャフトを清掃し、軽くグリースアップします。

耐久性グリース (頁 121)

- 前輪の位置を調整し、アクスルシャフトを取り付けます。
✓ ブレーキパッドの位置が正しく調整されています。
- スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

規定

前方アクスルシャフト用スクリュー	M8	25 Nm
------------------	----	-------

- 車輪速度センサー③を穴に差し込み、位置を調整します。
- スクリュー④を取り付け、しっかりと締めます。

規定

車輪速度センサーホルダー用スクリュー	M6	8 Nm
--------------------	----	------

- ブレーキパッドがブレーキディスクに接触して抵抗が感じられるまで、ブレーキレバーを何度か作動します。
- フロントスタンドから車両を降ろします。(頁 53)
- リアスタンドから車両を降ろします。(頁 52)
- 前輪のブレーキを作動し、フロントフォークのスプリングを何度か強く圧縮します。
✓ フォークレグの位置が調整されます。
- スクリュー⑤をしっかりと締めます。

規定

フォークレグのアクスル通し穴用スクリュー	M8	15 Nm
----------------------	----	-------

15.3 後輪を取り外す

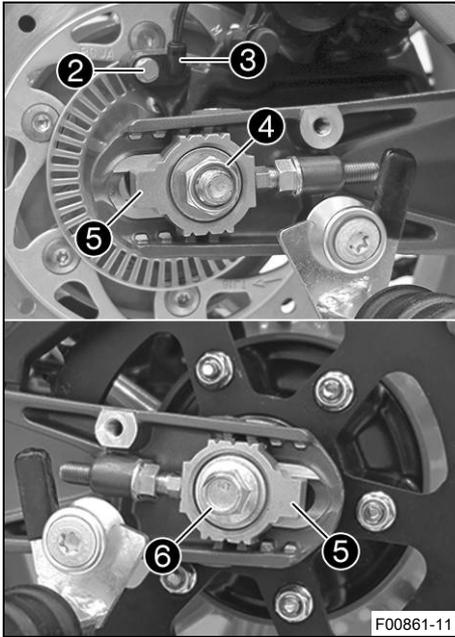
準備作業

- 車両をリアスタンドで持ち上げます。(頁 52)

主な作業

- スクリュー①を外します。





- スクリュー②を外し、車輪速度センサー③を穴から抜きます。
- ナット④とワッシャーを外します。
- チェーンアジャスター⑤を取り外します。
- 後輪を支え、アクスルシャフト⑥をワッシャー、チェーンアジャスター⑤と一緒に抜き出します。
- 後輪をできるだけ前に押し、チェーンをリアsproケットから外します。
- チェーンガードを横によけます。



警告

事故の危険性 破損したブレーキディスクはブレーキ性能を低下させます。

- ブレーキディスクが損傷する事のないよう、ホイールの取り外しには注意して下さい。

- 後輪を後ろに引き、スイングアームから取り外します。



参考

後輪を取り外した状態でブレーキペダルを作動しないで下さい。

15.4 後輪を取り付ける



警告

事故の危険性 オイルやグリースがブレーキディスクに付着するとブレーキ性能が低下します。

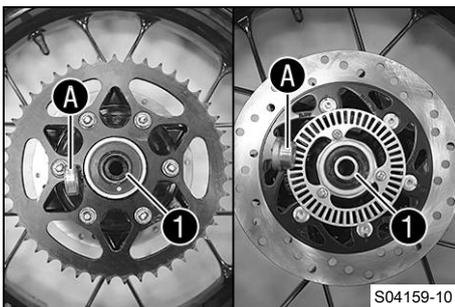
- ブレーキディスクを常にオイルやグリースから保護してください。
- 必要な場合、ブレーキディスクをブレーキ洗浄剤を使って清掃してください。



警告

事故の危険性 後輪取り付け直後には後輪ブレーキにはブレーキ性能がありません。

- 走行を開始する前にしっかりとした圧点を感じることができるようになるまでフットブレーキを何回か作動させてください。



主な作業

- ホイールベアリングに磨耗や損傷がないかを点検します。
 - » ホイールベアリングが磨耗または損傷している:
 - 後輪のホイールベアリングを交換します。
- スパーサーを取り外します。
- シャフトのラジアルシールリング①とスパーサーの接触面Aを清掃し、グリースアップします。

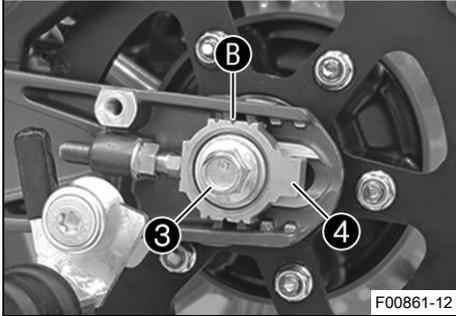
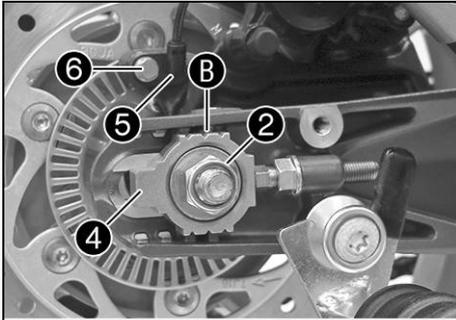
耐久性グリース (頁 121)

- アクスルシャフトのアクスルナットのねじ山を清掃します。
- アクスルシャフトを清掃し、グリースアップします。

耐久性グリース (頁 121)

- ブレーキキャリアとスイングアームのかみ合わせ部を清掃します。

- ハブダンパーとリアスプロケットサポートを後輪に取り付けます。
- スペーサーを取り付けます。
- 後輪の位置を調整します。
- ✓ ブレーキパッドの位置が正しく調整されています。
- 後輪をできるだけ前に押し、チェーンをリアスプロケットにかけます。
- チェーンガードの位置を調整します。



F00861-12

- 後輪を後ろに引き、アクスルシャフト^③をワッシャー、チェーンアジャスター^④と一緒に取り付けます。

規定

左右のチェーンアジャスター^④は同じポジションで取り付けして下さい。

- ナット^②とワッシャーを取り付けます。
- チェーンアジャスターがスクリューに触れるまで後輪を前に押し、ナット^②をしっかりと締めます。

規定

後輪の位置が正しく調整されるよう、左右のチェーンアジャスターに付けられたマーキングが目印^Bに対して同じ位置にくるように取り付けして下さい。

後輪アクスルシャフト用ナット	M14x1.5	100 Nm
----------------	---------	--------

- 車輪速度センサー^⑤を穴に差し込み、位置を調整します。
- スクリュー^⑥を取り付け、しっかりと締めます。

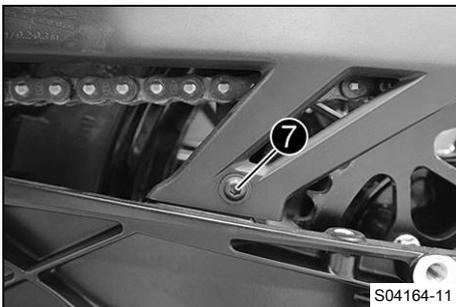
規定

車輪速度センサーホルダー用スクリュー	M6	8 Nm
--------------------	----	------

- スクリュー^⑦を取り付け、しっかりと締めます。

規定

チェーンガード用スクリュー	EJOT PT® K60x30	3 Nm
---------------	--------------------	------



S04164-11

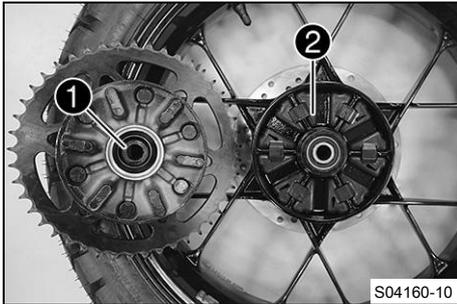
その後の作業

- リアスタンドから車両を降ろします。(📖 頁 52)
- チェーンの遊びを点検します。(📖 頁 57)

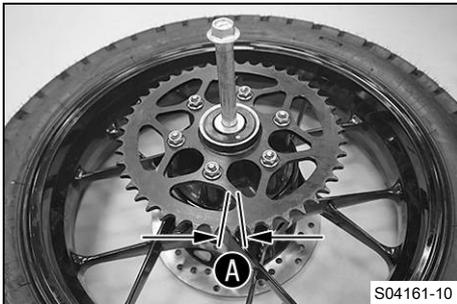
15.5 後輪のハブダンパーを点検する

i 参考

エンジンの力はリアスプロケットから6つのハブダンパーを通して後輪に伝えられます。車両の使用によりハブダンパーは摩耗していきます。ハブダンパーを適時に交換しないと、リアスプロケットサポートと後輪ハブを損傷してしまいます。



S04160-10



S04161-10

準備作業

- 車両をリアスタンドで持ち上げます。(📖 頁 52)
- 後輪を取り外します。🔧(📖 頁 72)

主な作業

- ベアリング①を点検します。
 - » ベアリングが破損または磨耗している:
 - ベアリングを交換します。🔧
- 後輪のハブダンパー②に破損・摩耗が無い点検します。
 - » 後輪のハブダンパーが摩耗または損傷している:
 - 後輪のハブダンパー全てを交換します。

- リアスプロケットを上にして後輪を作業台の上に置き、アクスルシャフトをハブに差し込みます。
- 遊びAを確認するため、後輪を押さえた状態でリアスプロケットを回してみます。

i 参考

遊びはリアスプロケットの外側で測定して下さい。

後輪のハブダンパーの遊び	≤ 5 mm
--------------	--------

- » 遊びAが記載された値より大きい:
 - 後輪のハブダンパー全てを交換します。

その後の作業

- 後輪を取り付けます。🔧(📖 頁 73)
- リアスタンドから車両を降ろします。(📖 頁 52)
- チェーンの遊びを点検します。(📖 頁 57)

15.6 タイヤの状態を点検する

**警告**

事故の危険性 タイヤが走行中にパンクしてしまった場合、車両をコントロールすることができなくなります。

- 破損した、またはすり減ったタイヤが速やかに交換されていることを確認してください。(お近くのKTM正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。)

**警告**

転倒の危険性 前輪と後輪のトレッドが異なると走行性能に影響を及ぼします。

異なるトレッドのタイヤを使用すると車両のコントロールが大幅に難しくなります。

- 前輪と後輪に同様のトレッドのタイヤが装着されていることを確認してください。



警告

事故の危険性 承認または推奨されていないタイヤならびに車輪を装着した場合、走行性能が損なわれます。

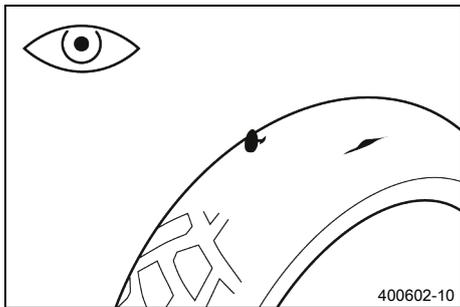
- KTMにより承認および推奨された適切な速度記号のタイヤならびに車輪のみを使用して下さい。



参考

タイヤの種類、状態、空気圧は車両の走行性能に影響を与えます。

タイヤがすり減っていると、路面が濡れている場合などは特に走行性能に悪影響を与えます。



- 前輪・後輪のタイヤに亀裂がないか、異物が刺さっていないか、その他損傷がないかを点検します。

- » タイヤに亀裂や損傷がある、または異物が刺さっている:
 - タイヤを交換します。↘

- 溝の深さを点検します。



参考

各国法律により定められている溝の深さ最小値を守ってください。

溝の深さ最小値	≥ 2 mm
---------	--------

- » 溝の深さが最小値を下回っている:

- タイヤを交換します。↘

- タイヤの製造日を確認します。



参考

通常、タイヤの製造日はタイヤに記載されており、DOTコードの下4桁の数字で表されています。最初の2桁が製造週を、残りの2桁が製造年を示しています。KTMでは、実際の磨耗状態にかかわらず、遅くとも製造日から5年を経過したらタイヤ交換の事をお勧めしています。

- » タイヤの製造日が5年以上前である:

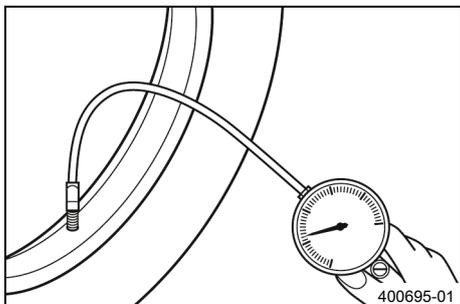
- タイヤを交換します。↘

15.7 タイヤ空気圧を点検する



参考

タイヤの空気圧が低過ぎると異常な磨耗が発生し、タイヤが過熱します。適正な空気圧により快適な走行が可能となり、タイヤの寿命も延びます。



- カバーキャップを外します。
- タイヤが冷えた状態で空気圧を点検します。

同乗者なしでのタイヤの空気圧	
前方	2.0 bar
後輪	2.0 bar

同乗者あり / 最大積載量でのタイヤの空気圧	
前方	2.0 bar

後輪	2.2 bar
----	---------

- » タイヤの空気圧が規定通りになっていない:
 - タイヤの空気圧を調節します。
- カバーキャップを取り付けます。



16.1 12V バッテリーを取り外す



警告

人体への危険 バッテリー液、バッテリーから発生する気体は重大な化学火傷を引き起こす恐れがあります。

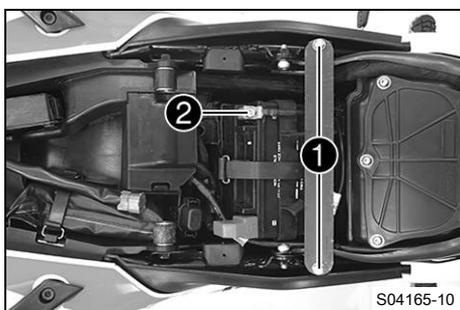
- 12V バッテリーは子供の手の届かないところに保管して下さい。
- 適切な保護服、保護メガネを着用して下さい。
- バッテリー液やバッテリーからの発生ガスとの接触は避けてください。
- 12-V バッテリーを火花や炎に近づけないで下さい。
- 12-V バッテリーの充電は必ず換気の良い場所で行って下さい。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- バッテリー液やバッテリーからの発生ガスが目にはいつてしまった場合、少なくとも 15 分間水で洗い落とし、速やかに受診してください。

準備作業

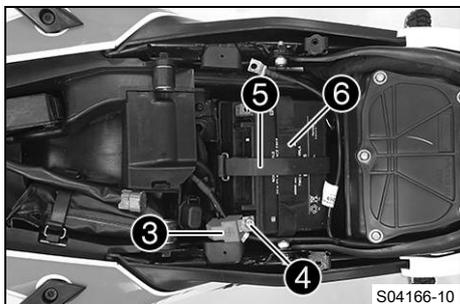
- リアシートを取り外します。(📖 頁 54)
- フロントシートを取り外します。(📖 頁 55)

主な作業

- スクリュー①を外し、固定ブラケットを取り外します。
- 12V バッテリーからマイナスケーブル②を外します。



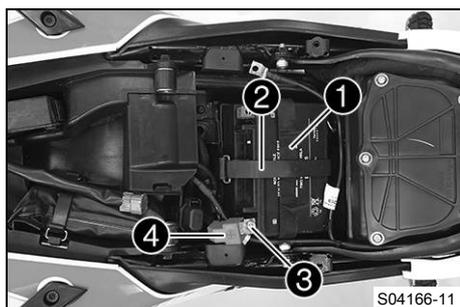
- プラス極のカバー③を後ろへずらします。
- 12V バッテリーからプラスケーブル④を外します。
- ゴムバンド⑤を外し、ゴムバンド⑥を開けます。
- 12V バッテリーを上へ引いてバッテリーコンパートメントから外します。



参考

12V バッテリーがあがった状態あるいは 12V バッテリーを搭載していない車両を運転する事は絶対にやめて下さい。どちらの場合も電気部品や安全関連装置を損傷させる恐れがあります。これにより、車両は道路交通に不適切な状態となります。

16.2 12V バッテリーを取り付ける

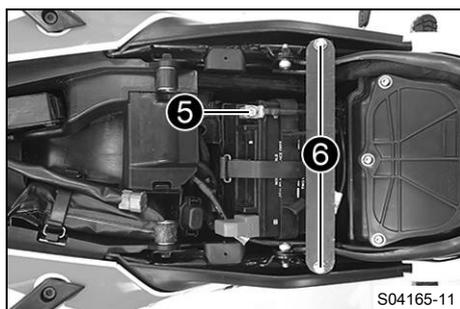


主な作業

- 12V バッテリーをバッテリーコンパートメントに配置します。

12V バッテリー (ETZ-9-BS) (📖 頁 115)

- ゴムバンド①を閉め、ゴムバンド②を掛けます。
- プラスケーブル③の位置を調整し、スクリューを取り付け、しっかりと締めます。
- プラス極のカバー④の位置を調整します。



- マイナスケーブル⑤の位置を調整し、スクリューを取り付け、しっかりと締めます。
- 固定ブラケットの位置を調整し、スクリュー⑥を取り付け、しっかりと締めます。

規定

交差接続用スクリュー	M6	15 Nm
------------	----	-------

その後の作業

- フロントシートを取り付けます。(📖 頁 55)
- リアシートを取り付けます。(📖 頁 55)
- 時刻を設定します。(📖 頁 31)



16.3 12V バッテリーを充電する



警告

人体への危険 バッテリー液、バッテリーから発生する気体は重大な化学火傷を引き起こす恐れがあります。

- 12V バッテリーは子供の手の届かないところに保管して下さい。
- 適切な保護服、保護メガネを着用して下さい。
- バッテリー液やバッテリーからの発生ガスとの接触は避けてください。
- 12-V バッテリーを火花や炎に近づけないで下さい。
- 12-V バッテリーの充電は必ず換気の良い場所で行って下さい。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- バッテリー液やバッテリーからの発生ガスが目にはいつてしまった場合、少なくとも 15 分間水で洗い落とし、速やかに受診してください。



情報

環境汚染 12V バッテリーには環境に悪影響を与える物質が含まれています。

- 12V バッテリーは家庭用ゴミとして廃棄しないで下さい。
- 12V バッテリーを廃棄する場合、使用済みバッテリーの回収場所に持ち込んで下さい。



情報

環境汚染 問題物資が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリス、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。

i

参考

12V バッテリーは使用しなくても毎日放電しています。
 12V バッテリーの寿命は充電量と充電方法に大きく左右されます。
 大きな電流により短時間で充電すると寿命に悪影響を与えます。
 充電電流、充電電圧、充電時間が規定値を超えると、電解液が安全バルブから漏れ出ます。これにより12V バッテリーの容量が減ってしまいます。
 12V バッテリーが空になったら、直ちに充電して下さい。
 放電し切った状態で長く放置すると過放電と硫酸化が起こり、12V バッテリー容量が失われ、バッテリーが破損します。
 この 12V バッテリーはメンテナンスフリーです。電解液レベルの点検を行う必要はありません。

準備作業

- リアシートを取り外します。(📖 頁 54)
- フロントシートを取り外します。(📖 頁 55)
- 車載電子部品を破損しないよう、12V バッテリーのマイナスケーブルを外します。

主な作業

- 充電器と 12V バッテリーを接続します。充電器を電源に接続します。



S06148-01

バッテリー充電器 **TecMATE Optimate PROEU**
(A61029974044)

ケース 1

バッテリー充電器 **TecMATE Optimate PROUSA/CA**
(A61029974144)

ケース 2

バッテリー充電器 **TecMATE Optimate PROUK**
(A61029974244)

この充電器では 12V バッテリーの過充電はできません。

i

参考

充電器は充電プロセスの後、メンテナンス充電サイクルの間、バッテリー電圧を維持するために車両に接続したままにしておくことができます。

- 充電が終了したら充電器の電源を切り、12V バッテリーから外します。

規定

充電電流、充電電圧、充電時間が規定値を超えないよう注意して下さい。

車両を使用しないときは、12V バッテリーを定期的に充電して下さい	3 ヶ月
-----------------------------------	------

- マイナスケーブルの位置を調整し、スクリューを取り付けてしっかりと締めます。
- マイナス極のカバーの位置を調整します。

その後の作業

- フロントシートを取り付けます。(📖 頁 55)
- リアシートを取り付けます。(📖 頁 55)
- 時刻を設定します。(📖 頁 31)

16.4 メインヒューズを交換する

**警告**

火災の危険性 不適切なヒューズは電気装置に過負荷をかけます。

- 指定されたアンペア値のヒューズのみを使用してください。
- 切れたヒューズをつないだり修理しないで下さい。

**参考**

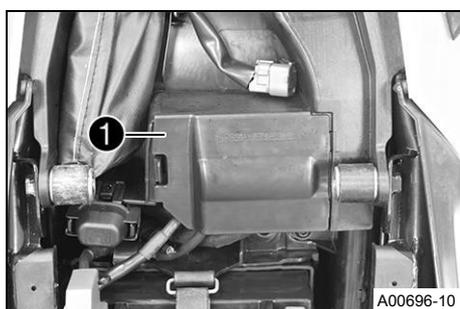
メインヒューズが車両上の全ての電装系部品を保護しています。メインヒューズはシートの下に設置されています。

準備作業

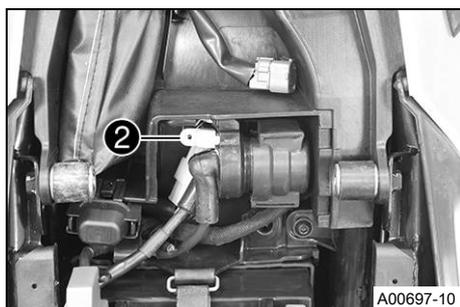
- リアシートを取り外します。(📖 頁 54)
- フロントシートを取り外します。(📖 頁 55)

主な作業

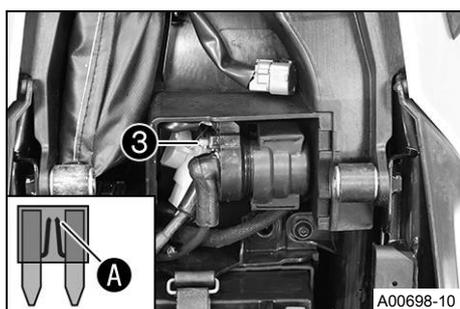
- カバー①を外します。



- 保護キャップ②を外します。



- 損傷したメインヒューズ③を取り外します。

**参考**

ヒューズワイヤが壊れている場合 A はヒューズに欠陥があります。

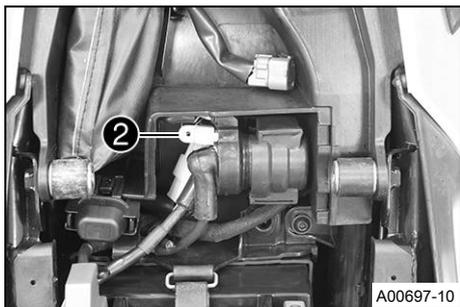
ヒューズボックスにスペアヒューズが差し込んであります。

- 新しいメインヒューズを取り付けます。

ヒューズ (75011088030) (📖 頁 115)

**ヒント**

新しいスペアヒューズをヒューズボックスに取り付け、必要な場合に使用できるようにしておきます。



- 保護キャップ②を取り付けます。

その後の作業

- フロントシートを取り付けます。(📖 頁 55)
- リアシートを取り付けます。(📖 頁 55)
- 時刻を設定します。(📖 頁 31)

16.5 ABS のヒューズを交換する



警告

火災の危険性 不適切なヒューズは電気装置に過負荷をかけます。

- 指定されたアンペア値のヒューズのみを使用してください。
- 切れたヒューズをつないだり修理しないで下さい。



参考

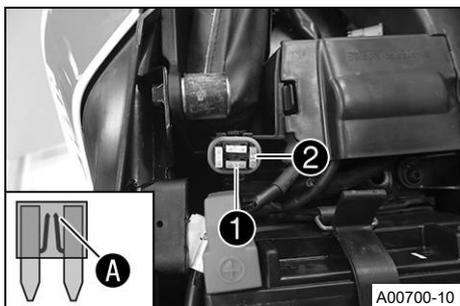
ABS 用の 2 つのヒューズはリアシートの下にあります。この 2 つのヒューズで ABS のリターンポンプと油圧ユニットを保護します。ABS コントロールユニットを保護している 3 つ目のヒューズは、ヒューズボックス内に設置されています。

準備作業

- リアシートを取り外します。(📖 頁 54)

ABS 油圧ユニットのヒューズを交換する:

- カバーキャップを外し、ヒューズ①を取り外します。



参考

ヒューズワイヤが壊れている場合 A はヒューズに欠陥があります。



警告

火災の危険性 不適切なヒューズは電気装置に過負荷をかけます。

- 指定されたアンペア値のヒューズのみを使用してください。
- 切れたヒューズをつないだり修理しないで下さい。

- 対応する容量のスペアヒューズを取り付けます。

ヒューズ (75011088015) (📖 頁 115)

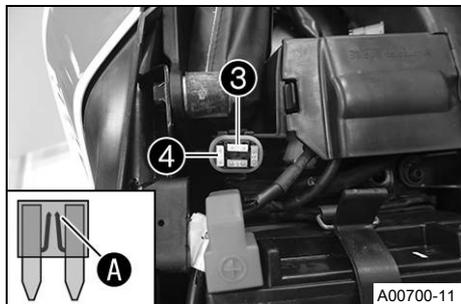
i ヒント

新しいスペアヒューズ②をヒューズボックスに取り付け、必要な場合に使用できるようにしておきます。

- カバーキャップを取り付けます。

ABS リターンポンプのヒューズを交換する:

- カバーキャップを外し、ヒューズ③を取り外します。

**i** 参考

ヒューズワイヤが壊れている場合Aはヒューズに欠陥があります。

! 警告

火災の危険性 不適切なヒューズは電気装置に過負荷をかけます。

- 指定されたアンペア値のヒューズのみを使用してください。
- 切れたヒューズをつないだり修理しないで下さい。

- 対応する容量のスペアヒューズを取り付けます。

ヒューズ (90111088025) (📖 頁 115)

i ヒント

新しいスペアヒューズ④をヒューズボックスに取り付け、必要な場合に使用できるようにしておきます。

- カバーキャップを取り付けます。

その後の作業

- リアシートを取り付けます。(📖 頁 55)

**16.6 各電装系部品のヒューズを交換する****i** 参考

各電装系部品のヒューズが設置されたヒューズボックスはリアシートの下に設置されています。

準備作業

- リアシートを取り外します。(📖 頁 54)



主な作業

- ヒューズボックスのカバー ①を開きます。
- 損傷したヒューズを取り外します。

規定

ヒューズ1 - 未使用
ヒューズ2 - 10 A - コンビネーションインスツルメント、燃料ポンプ
ヒューズ3 - 10 A - メインリレー
ヒューズ4 - 15 A - イグニッションコイル、ホーン、スターターリレー
ヒューズ5 - 20 A - 冷却ファン
ヒューズ6 - 15 A - ブレーキライト、ターンシグナル、ヘッドライトのハイビームとロービーム、ポジションライト、テールライト、ナンバープレートライト
ヒューズ7 - 10 A - ABSコントロールユニット、コンビネーションインスツルメント、診断プラグ
ヒューズ8 - 10 A - エマージェンシーOFFスイッチ
ヒューズ9 - 10 A - アクセサリー用の継続プラス極 (ACC1、前方)
ヒューズ10 - 15 A - アクセサリー用のイグニッション電源プラス極 (ACC2、前方)
ヒューズSPARE - 10 A/15 A/20 A/25 A - スペアヒューズ

参考

ヒューズワイヤが壊れている場合 ①はヒューズに欠陥があります。

警告

火災の危険性 不適切なヒューズは電気装置に過負荷をかけます。

- 指定されたアンペア値のヒューズのみを使用してください。
- 切れたヒューズをつないだり修理しないで下さい。

- 対応する容量のスペアヒューズを取り付けます。

ヒューズ (75011088010) (📖 頁 115)
ヒューズ (75011088015) (📖 頁 115)
ヒューズ (75011088020) (📖 頁 115)

ヒント

新しいスペアヒューズをヒューズボックスに取り付け、必要な場合に使用できるようにしておきます。

- 電装系部品の機能を点検します。
- ヒューズボックスのカバー ①を閉じます。

その後の作業

- リアシートを取り付けます。(📖 頁 55)

16.7 ヘッドライトバルブを交換する

情報

反射板とバルブへの影響 反射板に油脂類が付着すると発光効果が低下します。

ランプのバルブに油脂類が付着していると熱により気化し、反射板に付着します。

ランプのバルブに油脂類が付着していると熱放射が低下し、ランプが高温化し、老化が早くなります。

- 取り付け前にバルブを清掃し、油脂類を取り除きます。
- 素手でバルブに触れないで下さい。

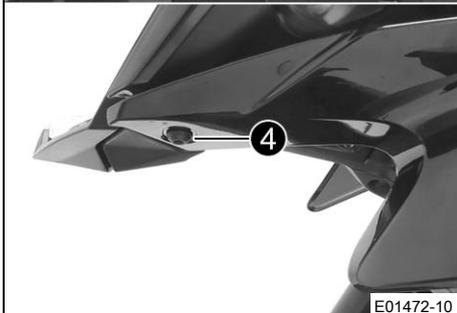
主な作業

- スクリュー①とスクリュー②を取り外します。
- フロントマスクスポイラーを上に向かって取り出します。

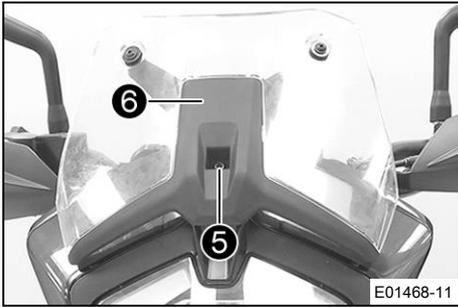


E01471-10

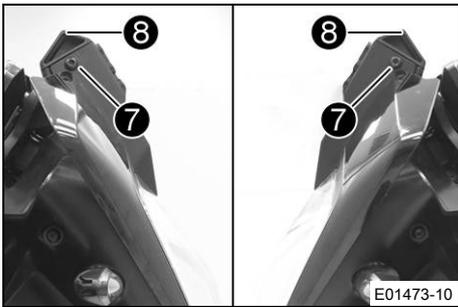
- スクリュー③とスクリュー④を取り外します。
- フロントマスクスポイラーを上に向かって取り出します。



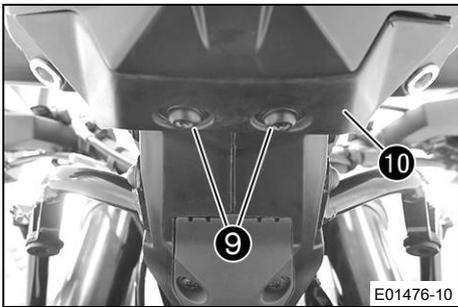
E01472-10



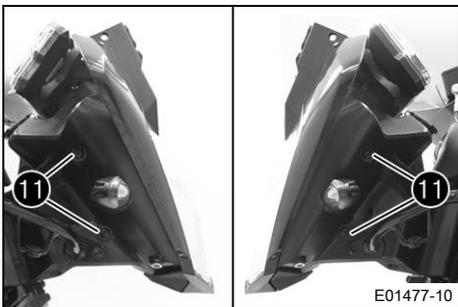
- スクリュー⑤を外します。
- ウインドシールド⑥を取り出します。



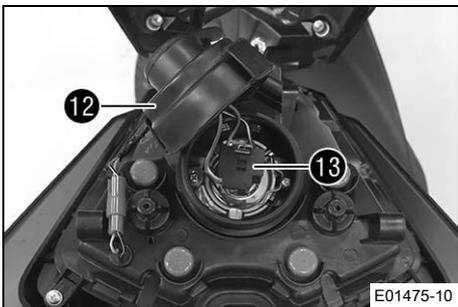
- スクリュー⑦を外します。
- カバー⑧を上に向かって取り出します。



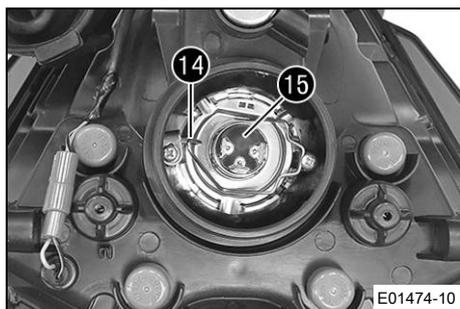
- スクリュー⑨を外します。
- カバー⑩を取り外します。



- スクリュー⑪を外します。
- ヘッドライトを下向きに倒します。



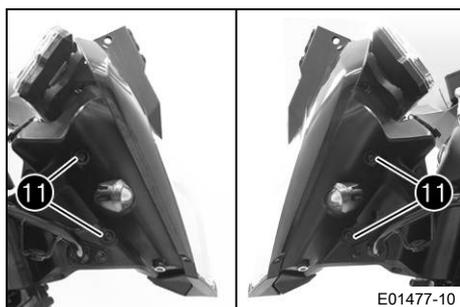
- 保護キャップ⑫を外します。
- プラグ⑬を抜きます。



- 固定フレーム**14**を外します。
- ヘッドライトバルブ**15**を取り外します。
- ヘッドライトケースに新しいヘッドライトバルブを取り付けます。

規定

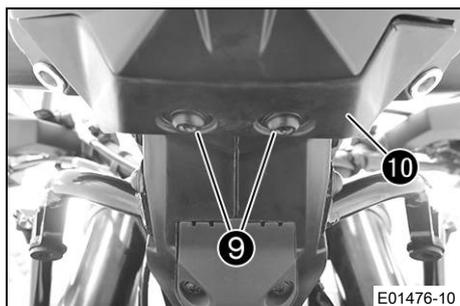
ヘッドライトバルブを差し込む際は、突起部をくぼみにはめて下さい。		
ヘッドライト (H4 / ソケット P43t) (📖 頁 115)		



- 固定フレーム**14**をはめます。
- プラグ**13**を差し込みます。
- 保護キャップ**12**を取り付けます。
- ヘッドライトマスクを上に戻します。
- スクリュー**11**を取り付け、しっかりと締めます。

規定

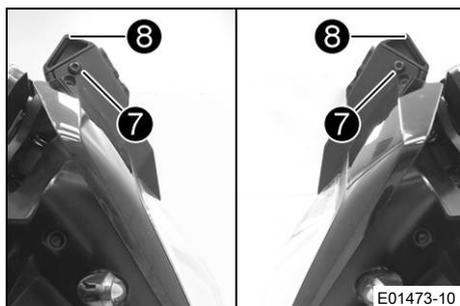
ヘッドライト用スクリュー	M6	8 Nm
--------------	----	------



- カバー**10**の位置を調整します。
- スクリュー**9**を取り付け、しっかりと締めます。

規定

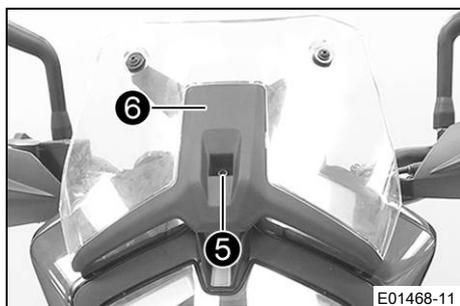
シャーシ用その他のスクリュー	M5	5 Nm
----------------	----	------



- カバー**8**の位置を調整します。
- スクリュー**7**を取り付け、しっかりと締めます。

規定

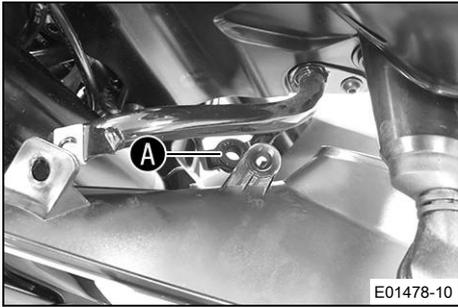
シャーシ用その他のスクリュー	M5	5 Nm
----------------	----	------



- ウィンドシールド**6**の位置を調整します。
- スクリュー**5**を取り付け、しっかりと締めます。

規定

シャーシ用その他のスクリュー	M5	5 Nm
----------------	----	------



E01478-10

- 右のフロントマスクスポイラーの位置を調整します。
規定

突起部が **A** の部分に掛かっていることを確認します。



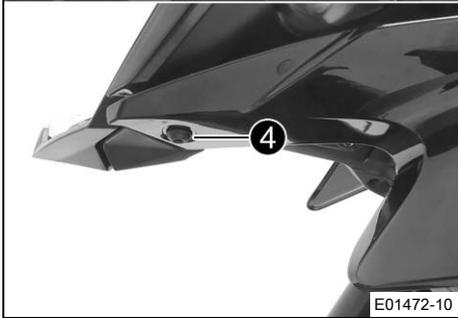
E01472-10

- スクリュー **4** を取り付け、しっかりと締めます。
規定

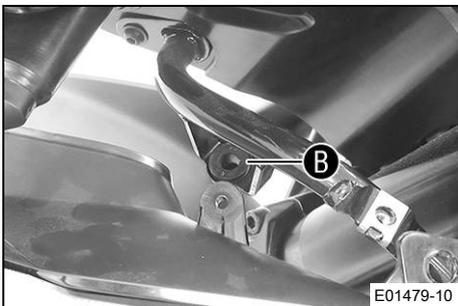
シャーシ用その他の スクリュー	M6	9 Nm
--------------------	----	------

- スクリュー **3** を取り付け、しっかりと締めます。
規定

シャーシ用その他の スクリュー	M5	5 Nm
--------------------	----	------



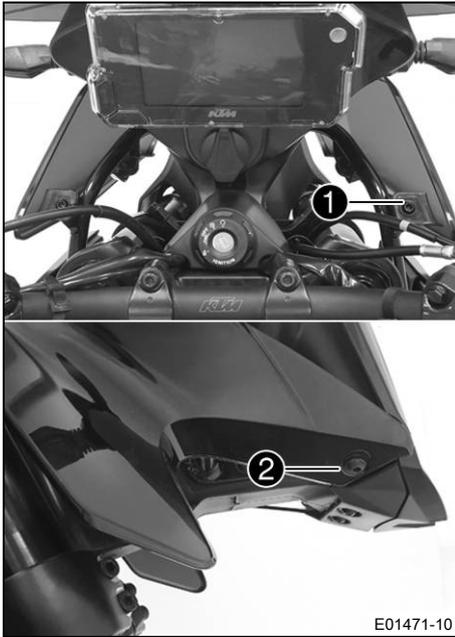
E01472-10



E01479-10

- 右のフロントマスクスポイラーの位置を調整します。
規定

突起部が **B** の部分に掛かっていることを確認します。



- スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

規定

シャーシ用その他の スクリュー	M6	9 Nm
--------------------	----	------

- スクリュー①を取り付け、しっかりと締めます。

規定

シャーシ用その他の スクリュー	M5	5 Nm
--------------------	----	------

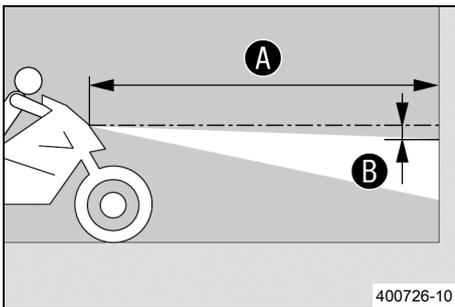
- 照明の機能を点検します。

その後の作業

- ヘッドライトの設定を点検します。(📖 頁 89)



16.8 ヘッドライトの設定を点検する



- 明るい壁が前にある水平な地面の上に車両を立て、ヘッドライトの中心の高さで壁に印を付けます。

- その印の下、**B**の距離にもう1つ印を付けます。

規定

距離 B	5 cm
-------------	------

- 壁から **A**の距離に車両を垂直に立て、ロービームを点灯します。

規定

距離 A	5 m
-------------	-----

- ここでライダーが(必要に応じて荷物および同乗者と一緒に)車両に乗ります。

- ヘッドライトの設定を点検します。

走行準備の整った車両に運転者が(必要に応じて荷物および同乗者と一緒に)乗った状態で、明暗の境界が下側のマーキングとぴったり一致する事を確認して下さい。

» 明暗の境界が規定通りになっていない:

- ヘッドライトの照明距離を調節します。(📖 頁 90)



16.9 ヘッドライトの照明距離を調節する

準備作業

- ヘッドライトの設定を点検します。(📖 頁 89)

主な作業

- 調節スクリーウ①でヘッドライトの照明距離を調節します。

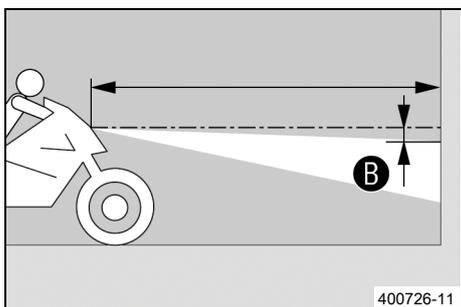


参考

時計回りに回すと照明距離が長くなり、逆方向に回すと短くなります。

積載物があると、ヘッドライト照明距離の再調節が必要となる事があります。

スクリーウ①はヘッドライトも固定します。スクリーウが常にしっかりとねじ込まれていることを確認します。

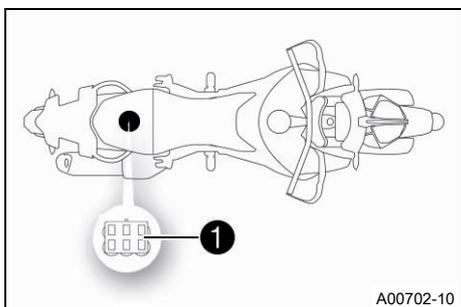


- ②のマーキングに合わせてヘッドライトを調整します。

規定

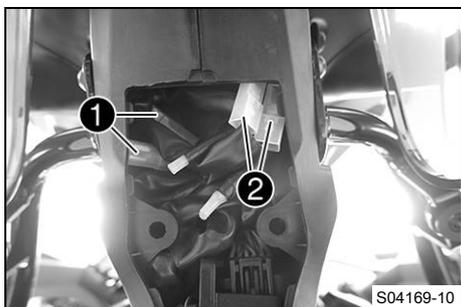
走行準備の整った車両に運転者が(必要に応じて荷物および同乗者と一緒に乗った状態で、明暗の境界が下側の印②とぴったり一致する事を確認して下さい。

16.10 診断プラグ



診断プラグ①はリアシートの下にあります。

16.11 ACC1 および ACC2 前方



取り付け位置

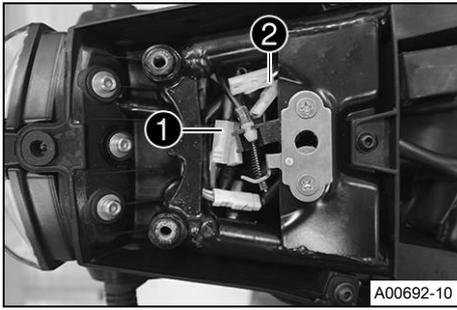
- 前方の電源 ACC1①と ACC2②はヘッドライトの裏にあります。



参考

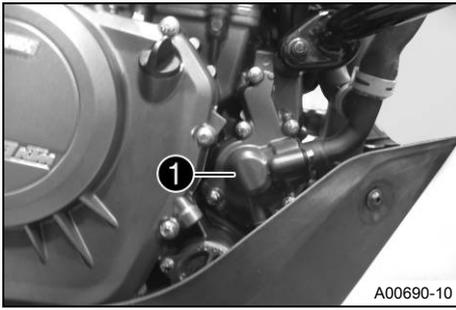
前方の電源 ACC1 と ACC2 にはヘッドライトマスクのケーブルカバーの下から届きます。

16.12 ACC1 と ACC2 後方

**取り付け位置**

- 後方の電源 ACC1①と ACC2②はリアエンドカバーの下、シートロック後方にあります。

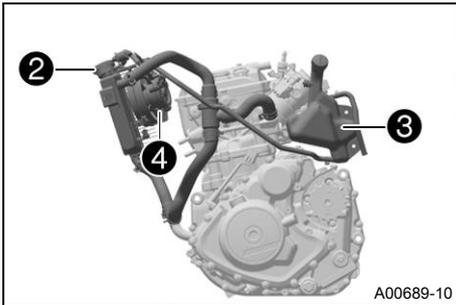
17.1 冷却システム



エンジン内のウォーターポンプ①により、クーラントが強制循環します。

熱により発生した冷却システム内の圧力は、ラジエーターキャップ②にあるバルブにより調整されます。熱膨張により余分となったクーラントが調節タンク③に流れ込みます。流れ込んだクーラントは、温度が下がるとまた冷却システムに吸い込まれます。これにより、クーラントが記載された温度まで上昇しても不具合を起こす事はありません。

110 °C



冷却は走行風と、高温になるとオンになる2基の冷却ファン④によって行われます。

速度が遅いほど冷却効果は低くなります。同様に、ラジエーターのフィンが汚れていると冷却効果が低くなります。



参考

冷却システムが過熱すると、エンジンの最高回転数が制限されます。

17.2 不凍液とクーラントのレベルを点検する



警告

火傷の危険性 クーラントは運転中、熱く、圧力がかかっています。

- エンジンまたは冷却システムが作動温度状態にある場合、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けないでください。
- 冷却システムとエンジンを冷ましてから、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けてください。
- 火傷した場合、速やかにその部位をぬるま湯に浸して下さい。



警告

中毒の危険性 クーラントは健康に害を及ぼすものです。

- クーラントは子供の手の届かないところに保管してください。
- クーラントが皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- クーラントを飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- クーラントが目にはいつてしまった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- クーラントが衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。

条件

エンジンが冷えている。



S04170-10

- 車両を水平な地面の上で垂直に立てます。
- 調節タンクのキャップ①を外します。
- クーラントの不凍効果を点検します。

-25 ... -45 °C

- » クーラントの不凍効果が規定通りになっていない:
 - クーラントの不凍効果を調整します。

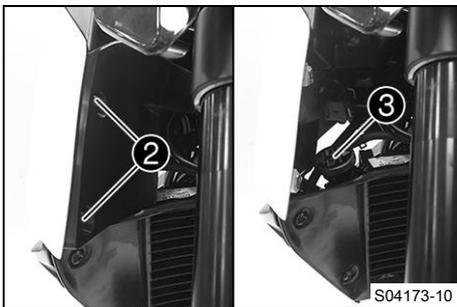
- 調節タンクのクーラントのレベルを点検します。

クーラントのレベルが両マーキングの間にあることを確認して下さい。

- » クーラントのレベルが規定通りになっていない:
 - クーラントのレベルを調整します。

クーラント (📖 頁 119)

- 調節タンクのキャップを取り付けます。



S04173-10

- スクリュー②を外し、カバーを取り外します。
- ラジエーターキャップ③を外します。
- クーラントの不凍効果を点検します。

-25 ... -45 °C

- » クーラントの不凍効果が規定通りになっていない:
 - クーラントの不凍効果を調整します。

- ラジエーター内のクーラントのレベルを確認します。

ラジエーターがクーラントで満たされている事を確認して下さい。

- » クーラントのレベルが規定通りになっていない:
 - クーラントのレベルを調節し、クーラントが減少した原因を突き止めます。

クーラント (📖 頁 119)

- » 以下に示した規定値以上のクーラントを追加する必要があった:
 - > 0.20 L
 - 冷却システムにクーラントを注入してエア抜きをします。👉 (📖 頁 96)

- ラジエーターキャップを取り付けます。

- カバーの位置を調整し、スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

規定

シャーシ用その他のスクリュー	M5	5 Nm
----------------	----	------

17.3 クーラントのレベルを点検する



警告

火傷の危険性 クーラントは運転中、熱く、圧力がかかっています。

- エンジンまたは冷却システムが作動温度状態にある場合、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けないでください。
- 冷却システムとエンジンを冷ましてから、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けてください。
- 火傷した場合、速やかにその部位をぬるま湯に浸して下さい。



警告

中毒の危険性 クーラントは健康に害を及ぼすものです。

- クーラントは子供の手の届かないところに保管してください。
- クーラントが皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- クーラントを飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- クーラントが目にはいつてしまった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- クーラントが衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。

条件

エンジンが冷えている。

- 車両を水平な地面の上で垂直に立てます。
- 調節タンク①に入っているクーラントのレベルを確認します。



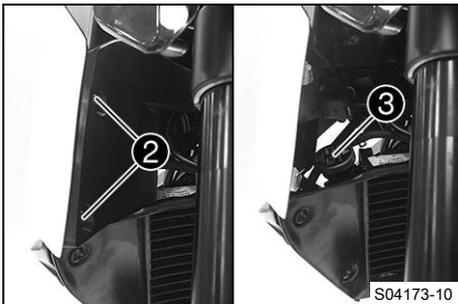
S04170-10

クーラントのレベルが両マーキングの間にあることを確認して下さい。

- » クーラントのレベルが規定通りになっていない:
 - クーラントのレベルを調整します。

クーラント (📖 頁 119)

- スクリュー②を外し、カバーを取り外します。
- ラジエーターキャップ③を取り外し、ラジエーター内のクーラントのレベルを点検します。



S04173-10

ラジエーターがクーラントで満たされている事を確認して下さい。

- » クーラントのレベルが規定通りになっていない:
 - クーラントのレベルを調節し、クーラントが減少した原因を突き止めます。
- » 以下に示した規定値以上のクーラントを追加する必要があった:
 - > 0.20 L
 - 冷却システムにクーラントを注入してエア抜きをします。👉 (📖 頁 96)

- ラジエーターキャップを取り付けます。
- カバーの位置を調整し、スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

規定

シャーシ用その他の スクリュー	M5	5 Nm
--------------------	----	------

17.4 クーラントを排出する



警告

火傷の危険性 クーラントは運転中、熱く、圧力がかかっています。

- エンジンまたは冷却システムが作動温度状態にある場合、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けないでください。
- 冷却システムとエンジンを冷ましてから、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けてください。
- 火傷した場合、速やかにその部位をぬるま湯に浸して下さい。



警告

中毒の危険性 クーラントは健康に害を及ぼすものです。

- クーラントは子供の手の届かないところに保管してください。
- クーラントが皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- クーラントを飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- クーラントが目にはいつてしまった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- クーラントが衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。

条件

エンジンが冷えている。

準備作業

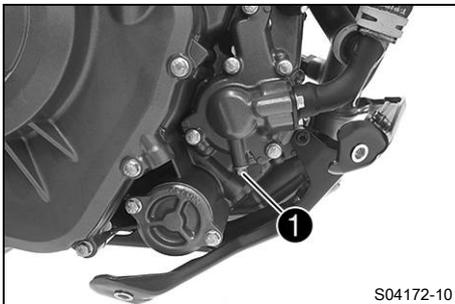
- エンジンガードを取り外します。(📖 頁 60)

主な作業

- 車両を垂直に立てます。
- 適切な容器をエンジンの下に置きます。
- スクリュー①をシールリングと一緒に外します。
- ラジエーターキャップを外します。
- クーラントが完全に流れ出るまで待ちます。
- スクリュー①を新しいシールリングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

規定

ウォーターポンプ排 水口用スクリュー ラグ	M6	10 Nm
-----------------------------	----	-------



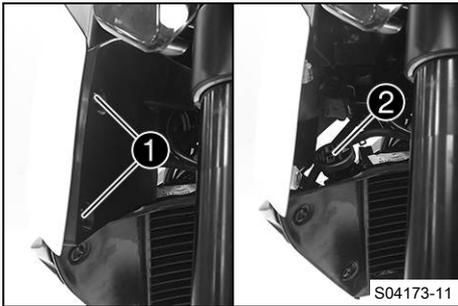
17.5 冷却システムにクーラントを注入してエア抜きをする



警告

中毒の危険性 クーラントは健康に害を及ぼすものです。

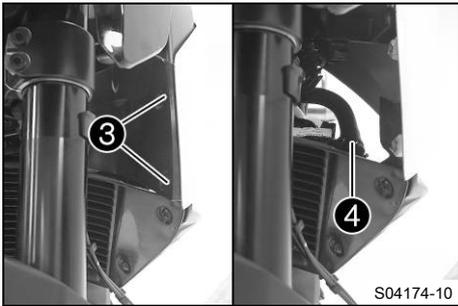
- クーラントは子供の手の届かないところに保管してください。
- クーラントが皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- クーラントを飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- クーラントが目にはいつてしまった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- クーラントが衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。



S04173-11

主な作業

- スクリュー①を外し、カバーを取り外します。
- ラジエーターキャップ②を外します。



S04174-10

- スクリュー③を外し、カバーを取り外します。
- エアブリーダー④を緩めます。

規定

3回転

- 車両を少し右に傾けます。
- クーラントがエアブリーダーから気泡のない状態まで出てくるまでクーラントを注入し、その後すぐにエアブリーダーを取り付け、しっかりと締めます。

クーラント (頁 119)

- ラジエーターをクーラントで満たします。ラジエーターキャップを取り付けます。
- 車両をサイドスタンドで立てます。



危険

中毒の危険性 排気ガスは毒性があり、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンを稼動する際は十分に換気が行えるように常に確認してください。
- 閉め切った室内でエンジンを始動したり、稼動状態にする場合は、適切な排気ガス抽出装置を使用してください。

- エンジンをかけ、暖気運転します。



- エンジンを停止して冷めるのを待ちます。
- エンジンが冷めたらラジエーター内のクーラントのレベルを再度点検し、必要に応じてクーラントを補給します。
- 調節タンクのキャップ⑤を外し、クーラントをマーキング上の位置まで注入します。
- 調節タンクのキャップを取り付けます。
- カバーの位置を調整し、スクリュー①および③を取り付け、しっかりと締めます。

規定

シャーシ用その他のスクリュー	M5	5 Nm
----------------	----	------

その後の作業

- エンジンガードを取り付けます。(📖 頁 60)

17.6 クーラントを交換する



警告

火傷の危険性 クーラントは運転中、熱く、圧力がかかっています。

- エンジンまたは冷却システムが作動温度状態にある場合、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けないでください。
- 冷却システムとエンジンを冷ましてから、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けてください。
- 火傷した場合、速やかにその部位をぬるま湯に浸して下さい。



警告

中毒の危険性 クーラントは健康に害を及ぼすものです。

- クーラントは子供の手の届かないところに保管してください。
- クーラントが皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- クーラントを飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- クーラントが目にはいつてしまった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- クーラントが衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。

条件

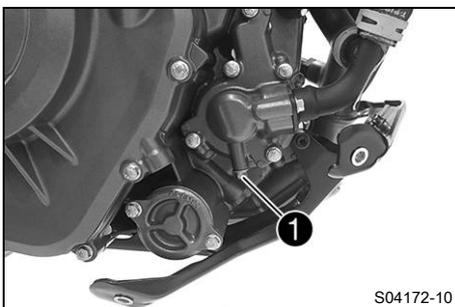
エンジンが冷えている。

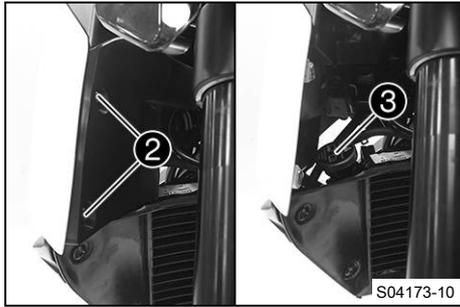
準備作業

- エンジンガードを取り外します。(📖 頁 60)

主な作業

- 車両を垂直に立てます。
- 適切な容器をエンジンの下に置きます。
- スクリュー①をシールリングと一緒に外します。

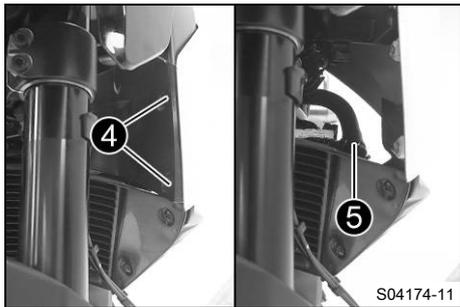




- スクリュー②を外し、カバーを取り外します。
- ラジエーターキャップ③を外します。
- クーラントが完全に流れ出るまで待ちます。
- スクリュー①を新しいシールリングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

規定

ウォーターポンプ排水口用スクリーブラグ	M6	10 Nm
---------------------	----	-------



- スクリュー④を外し、カバーを取り外します。
- エアブリーダー⑤を緩めます。

規定

3回転

- 車両を少し右に傾けます。
- クーラントがエアブリーダーから気泡のない状態で出てくるまでクーラントを注入し、その後すぐにエアブリーダーを取り付け、しっかりと締めます。

クーラント (頁 119)

- ラジエーターをクーラントで満たします。ラジエーターキャップを取り付けます。
- 車両をサイドスタンドで立てます。



危険

中毒の危険性 排気ガスは毒性があり、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンを稼動する際は十分に換気が行えるように常に確認してください。
- 閉め切った室内でエンジンを始動したり、稼動状態にする場合は、適切な排気ガス抽出装置を使用してください。



- エンジンをかけ、暖気運転します。
- エンジンを停止して冷めるのを待ちます。
- エンジンが冷めたらラジエーター内のクーラントのレベルを再度点検し、必要に応じてクーラントを補給します。
- 調節タンク⑥のキャップを外し、クーラントをMAXのマーキングまで注入します。
- 調節タンクのキャップを取り付けます。
- カバーの位置を調整し、スクリュー②および④を取り付け、しっかりと締めます。

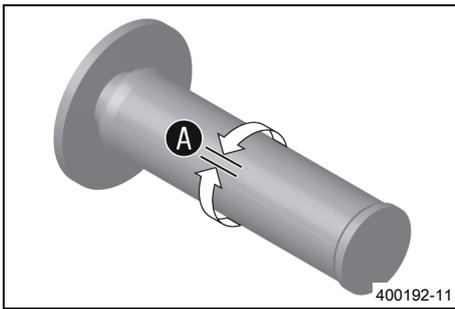
規定

シャーン用その他のスクリュー	M5	5 Nm
----------------	----	------

その後の作業

- エンジンガードを取り付けます。(頁 60)

18.1 アクセルワイヤーの遊びを点検する



- スロットルグリップがスムーズに動くか確認します。
- ハンドルバーを直進の状態にします。スロットルグリップを軽く両方向に回し、アクセルワイヤーの遊び **A** を確認します。

アクセルワイヤーの遊び A	3 ... 5 mm
----------------------	------------

- » アクセルワイヤーの遊びが規定通りになっていない:
 - アクセルワイヤーの遊びを調節します。🔧 (📖 頁 99)



危険

中毒の危険性 排気ガスは毒性があり、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンを稼動する際は十分に換気が行えるように常に確認してください。
- 閉め切った室内でエンジンを始動したり、稼動状態にする場合は、適切な排気ガス抽出装置を使用してください。

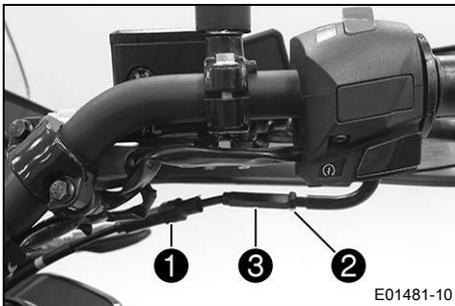
- エンジンをかけ、アイドリングさせます。ハンドルバーをハンドル限界全体にわたり左右に動かします。

アイドリング回転数は一定でなければなりません。

- » アイドリング回転数が一定でない:
 - アクセルワイヤーの取り回しを点検します。



18.2 アクセルワイヤーの遊びを調節する 🔧



- ハンドルバーを直進の状態にします。
- ワイヤブーツ **1** を後ろへずらします。
- カウンターナット **2** を緩めます。
- 調節スクリュー **3** でアクセルワイヤーの遊びを調節します。

規定 アクセルワイヤーの遊び	3 ... 5 mm
-------------------	------------

- カウンターナット **2** をしっかりと締めます。
- ワイヤブーツ **1** をかぶせます。



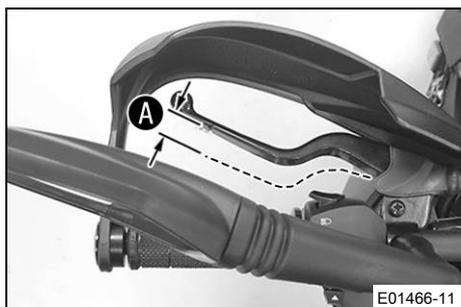
18.3 クラッチレバーの遊びを点検する

注意

クラッチの損傷 クラッチレバーに遊びがないとクラッチが滑り出します。

- 車両運転前に必ずクラッチレバーの遊びを点検してください。
- 必要に応じクラッチレバーの遊びを規定に従って調整してください。

18 エンジンを調整する



- クラッチレバーがスムーズに動くか確認します。
- ハンドルバーを直進の状態にします。
- クラッチレバーを抵抗が感じられるまで引き、クラッチレバーの遊び **A** を確認します。

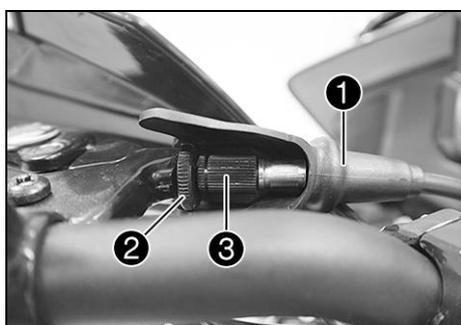
クラッチレバーの遊び A	1 ... 3 mm
---------------------	------------

- » クラッチレバーの遊びが規定通りになっていない:
 - クラッチレバーの遊びを調節します。🔧 (📖 頁 100)
- ハンドルバーをハンドル限界全体にわたり左右に動かします。

クラッチレバーの遊びは一定でなければなりません。

- » クラッチレバーの遊びが一定でない:
 - クラッチワイヤー取り回しを点検します。

18.4 クラッチレバーの遊びを調節する 🛠

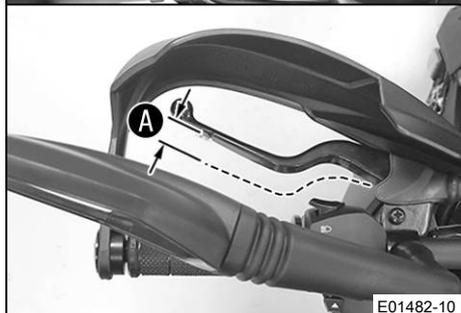


- ハンドルバーを直進の状態にします。
- ワイヤーブーツ **1** を後ろへずらします。
- カウンターナット **2** を緩めます。
- クラッチワイヤーの遊び **A** を調節スクリュー **3** で調節します。

規定

クラッチレバーの遊び A	1 ... 3 mm
---------------------	------------

- カウンターナット **2** をしっかりと締めます。
- ワイヤーブーツ **1** の位置を調整します。



19.1 エンジンオイルのレベルを点検する

条件

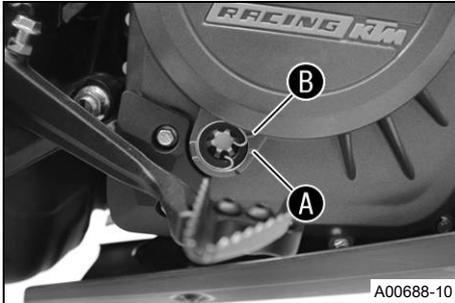
エンジンが作動温度に達している。

準備作業

- 車両を水平な地面の上で垂直に立てます。

主な作業

- エンジンオイルのレベルを点検します。



参考

エンジンを停止した後、1分待ってから点検します。

エンジンオイルのレベルが **A** と **B** の間にあるように調整します。

- » エンジンオイルのレベルが **A** のマーキングを下回っている:
 - エンジンオイルを補給します。(📖 頁 103)
- » エンジンオイルのレベルが **B** のマーキングを上回っている:
 - エンジンオイルのレベルを調整します。



19.2 エンジンオイルとオイルフィルターを交換し、オイルスクリーンを清掃する



警告

火傷の危険性 エンジンオイル並びにミッションオイルは運転中に熱くなっています。

- 適切な保護服、保護手袋を着用して下さい。
- 火傷した場合、速やかにその部位をぬるま湯に浸して下さい。



情報

環境汚染 問題物資が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。



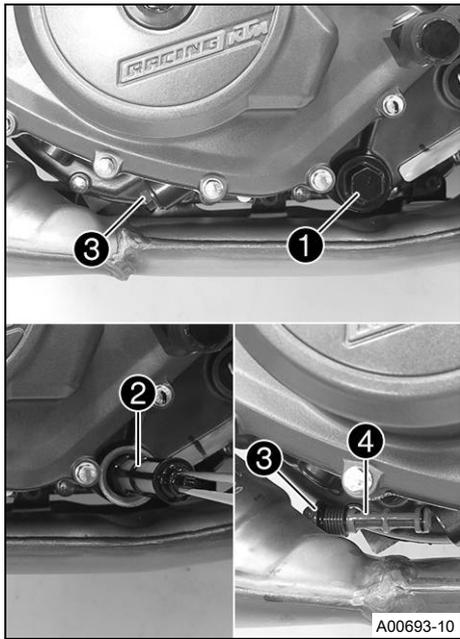
参考

エンジンオイルをエンジン暖機状態で排出します。

準備作業

- エンジンガードを取り外します。(📖 頁 60)
- エンジンガード固定ブラケットを取り外します。(📖 頁 61)
- 車両をサイドスタンドで水平な地面の上に立てます。

19 エンジンで行うサービス作業



主な作業

- エンジンの下に適切な容器を用意しておきます。
- オイルドレインボルト①をOリングと一緒に外します。
- オイルスクリーン②をOリングと一緒に外します。
- スクリュープラグ③をオイルスクリーン④と一緒に外します。
- エンジンオイルが完全に流れ出るまで待ちます。
- オイルドレインボルトとオイルスクリーンを念入りに清掃します。
- オイルスクリーン②の位置を調整し、オールドレインボルト①をOリングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

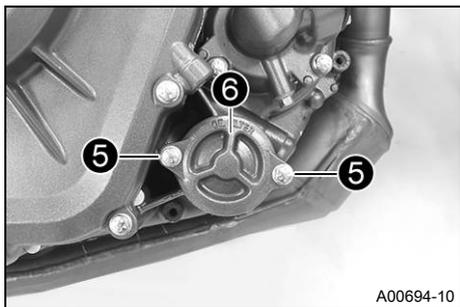
規定

オールドレインボルト	M24x1.5	15 Nm
------------	---------	-------

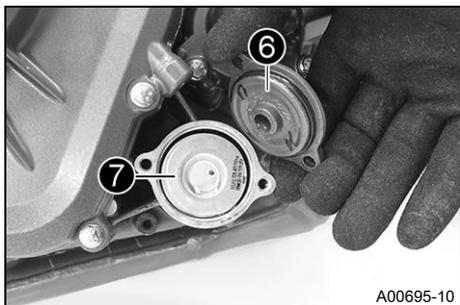
- スクリュープラグ③をオイルスクリーン④とOリングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

規定

オイルスクリーン(小)用スクリュープラグ	M17x1.5	12 Nm
----------------------	---------	-------



- スクリュー⑤を外します。オイルフィルターカバー⑥をOリングと一緒に取り外します。
- オイルフィルター⑦をフィルターケースから取り出します。
- エンジンオイルが完全に流れ出るまで待ちます。
- 部品とシール面を念入りに清掃します。



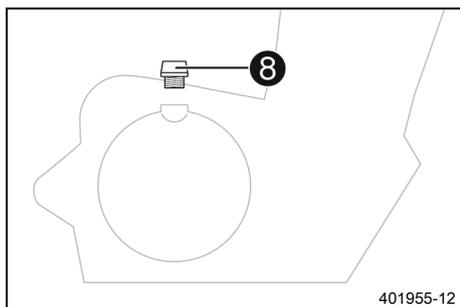
- 新しいオイルフィルター⑦を取り付けます。
- オイルフィルターカバーのOリングにオイルを差します。オイルフィルターカバー⑥を取り付けます。
- スクリューを取り付け、しっかりと締めます。

規定

オイルフィルターカバー用スクリュー	M6	12 Nm
-------------------	----	-------

参考

エンジンオイルが少な過ぎる場合やエンジンオイルの質が悪いと、エンジンの摩耗を早める事になります。



- オイルフィルースクリュー⑧を O リングと一緒に取り外し、エンジンオイルを注入します。

エンジンオイル	1.7 L	エンジンオイル (SAE 15W/50) (📖 頁 119)
---------	-------	--------------------------------

- オイルフィルースクリューを O リングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。



危険

中毒の危険性 排気ガスは毒性があり、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンを稼動する際は十分に換気が行えるように常に確認してください。
- 閉め切った室内でエンジンを始動したり、稼動状態にする場合は、適切な排気ガス抽出装置を使用してください。

- エンジンをかけ、漏れがないか確認します。

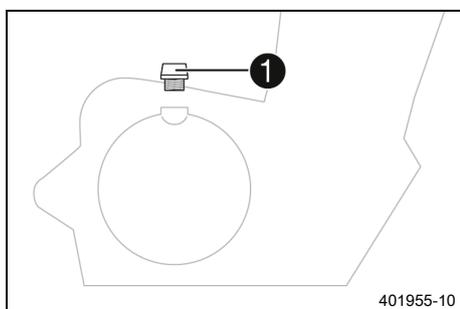
その後の作業

- エンジンガード固定ブラケットを取り付けます。(📖 頁 61)
- エンジンガードを取り付けます。(📖 頁 60)
- エンジンオイルのレベルを点検します。(📖 頁 101)

19.3 エンジンオイルを補給する

参考

エンジンオイルが少な過ぎる場合やエンジンオイルの質が悪いと、エンジンの摩耗を早める事になります。



主な作業

- オイルフィルースクリュー①を O リングと一緒に取り外し、エンジンオイルを注入します。

エンジンオイル (SAE 15W/50) (📖 頁 119)



参考

エンジンオイルの性能を最大限に引き出す上で、異なったエンジンオイルを混ぜて使用する事は望ましくありません。

KTM では、必要に応じてエンジンオイルを交換する事をお勧めしています。

- オイルフィルースクリューを O リングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。



危険

中毒の危険性 排気ガスは毒性があり、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンを稼働する際は十分に換気が行えるように常に確認してください。
- 閉め切った室内でエンジンを始動したり、稼働状態にする場合は、適切な排気ガス抽出装置を使用してください。

- エンジンをかけ、漏れがないか確認します。

その後の作業

- エンジンオイルのレベルを点検します。(🔧 頁 101)

20.1 洗車をする

情報

部品の損傷 高圧洗浄機の誤った使用により部品が破損することがあります。

高圧により水分が電気部品、プラグ、ケーブル、ベアリングに侵入します。

圧力が高すぎるとエラーや部品破損の原因となります。

- 水流が直接電気部品、プラグ、ケーブル、ベアリングにあたらないように注意してください。
- 高圧洗浄機のジェットと部品間の最低間隔を維持してください。
最低間隔 60 cm



情報

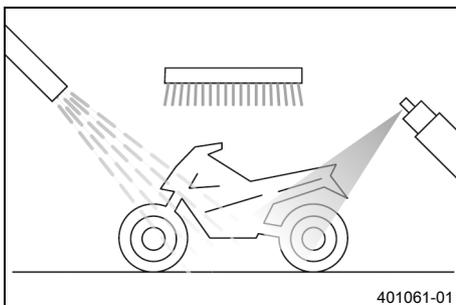
環境汚染 問題物資が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。



参考

バイクはその価値、そして外観を長い間維持できるように定期的に清掃して下さい。
洗車中は車両に直射日光が当たらないよう注意して下さい。



- 水が入らないように排気装置をふさぎます。
- 大きな汚れはあらかじめ弱い水流で落としておきます。
- 汚れがひどい箇所には市販のモーターサイクル洗浄剤を吹きつけ、ブラシで汚れを落とします。

モーターサイクル用洗浄剤 (📖 頁 121)



参考

洗車には市販のモーターサイクル洗浄剤を入れた温水と柔らかいスポンジを使用して下さい。

乾燥した車両に直接バイク洗浄剤を付けることは絶対にせず、必ず事前に車両を水ですすいで下さい。

バイクを凍結防止用の塩が撒かれた道路で走行した場合、冷水で清掃して下さい。温水の使用は塩の作用を促進します。

- 弱い水流で念入りにすすいだ後、車両をよく乾燥させます。
- 排気装置をふさいでいる栓を外します。



警告

事故の危険性 水分や汚れはブレーキシステムに影響を及ぼします。

- ブレーキパッドとブレーキディスクを乾燥させ汚れを落とすために何度か慎重にブレーキをかけてください。

- 洗車後、エンジンが作動温度に達するまで短い距離を走行します。



参考

熱によりエンジンやブレーキシステムの手の届かない場所にある水分も蒸発します。

- ハンドルまわりのワイヤーブーツをずらし、ここに入り込んだ水分も蒸発させます。
- 車両の温度が下がったら全てのスライド部とベアリング部をグリースアップします。
- チェーンを清掃します。(📖 頁 56)
- 塗装されていない金属製部品 (ブレーキディスクと排気装置を除く)には、腐食防止剤を塗布します。

ラッカー塗装、金属、ゴム用手入れ剤 (📖 頁 121)

- ラッカー塗装されている全部品に刺激の少ないラッカー専用の手入れ剤を塗布します。

ラッカー塗装、プラスチック、クローム用シャインスプレー (📖 頁 121)

参考

部品の品質が著しく損なわれるため、納車状態で光沢のないプラスチック部品は磨かないで下さい。

- プラスチック部品およびパウダーコーティングされている部品は全て刺激の少ない洗浄・手入れ剤で手入れをします。

ラッカー塗装 (光沢、非光沢)、金属、プラスチック専用洗浄剤 (📖 頁 121)

- イグニッション/ハンドルロックに潤滑油を差します。

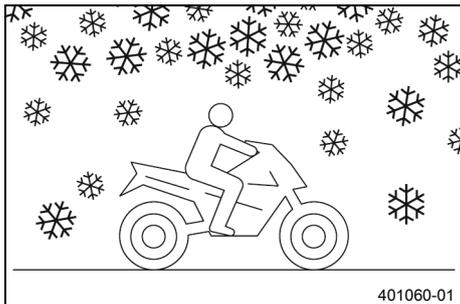
汎用オイルスプレー (📖 頁 121)

20.2 冬季運転における点検・メンテナンス作業

参考

冬季にも車両を使用する場合は、凍結防止のため路上に散布された塩の存在を考慮に入れなければなりません。刺激が強い塩に対する予防対策を講じておく必要があります。

バイクを凍結防止用の塩が撒かれた道路で走行した場合、冷水で清掃して下さい。温水の使用は塩の作用を促進します。



- 洗車をします。(📖 頁 105)
- ブレーキを清掃します。

参考

凍結防止用の塩が撒かれた道路を走行する毎に、バイク、そして特にブレーキキャリパーとブレーキパッド (冷えており、取り付けられている状態) を冷たい水で入念に洗浄し、よく乾かしてください。

- エンジンやスイングアームをはじめ、塗装されていない部品や亜鉛メッキ加工された部品 (ブレーキディスクを除く)には全てワックス系腐食防止剤を塗布します。

参考

ブレーキディスクには腐食防止剤が付かないよう注意して下さい。ブレーキ性能が大幅に低下します。

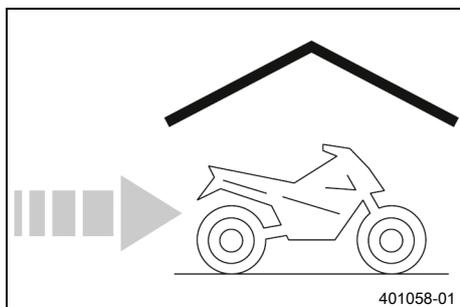
- チェーンを清掃します。(📖 頁 56)

21.1 保管

i 参考

車両を長期にわたって使用しない場合は、以下に挙げた処置をご自身または正規ディーラーで行って下さい。

車両の保管前に全ての部品が機能するか、摩耗していないかを点検します。サービス作業、修理、改造が必要な場合は、ディーラーのサービスセンターが空いている保管時期に行う事をお勧めします。シーズン開始の混雑時を避ける事ができます。



- シーズンオフで使用を停止する前の最後の給油時に、燃料添加剤を加えます。

燃料添加剤 (📖 頁 121)

- 燃料を給油します。(📖 頁 47)

i ヒント

フューエルタンクを規定に従って完全に充填し、その際、できる限り低いエタノール含有量の燃料を使用します。

- 洗車をします。(📖 頁 105)
- エンジンオイルとオイルフィルターを交換し、オイルスクリーンを清掃します。👉(📖 頁 101)
- 不凍液とクーラントのレベルを点検します。(📖 頁 92)
- タイヤ空気圧を点検します。(📖 頁 76)
- 12V バッテリーを取り外します。👉(📖 頁 78)
- 12V バッテリーを充電します。👉(📖 頁 79)

規定

12V バッテリーの保管温度 (直射日光を避ける)	0 ... 35 °C
------------------------------	-------------

- 車両は乾燥した、急激な温度変化のない場所で保管して下さい。

i 参考

KTM では車両をジャッキアップして保管する事をお勧めしています。

- 車両をリアスタンドで持ち上げます。(📖 頁 52)
- フロントスタンドで車両を持ち上げます。(📖 頁 52)
- 通気性の良い防水シートかカバーで車両を覆います。

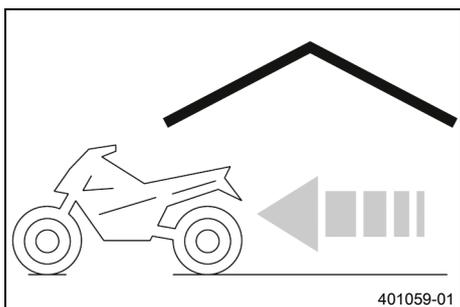
i 参考

空気を通さないカバーは湿気が逃げず、腐食の原因となりますので絶対に使用しないで下さい。

保管中にエンジンを短時間のみ作動すると、車両に非常に悪い影響を与えます。エンジンが十分に暖まらないため、燃焼の際に生じた水蒸気が結露し、バルブや排気装置のさびの原因となります。



21.2 保管後、運転操作の前に



- フロントスタンドから車両を降ろします。(📖 頁 53)
- リアスタンドから車両を降ろします。(📖 頁 52)
- 12V バッテリーを取り付けます。🔌 (📖 頁 79)
- 時刻を設定します。(📖 頁 31)
- 運転操作の前に必ず行う点検・メンテナンス作業を実施します。(📖 頁 41)
- 試験走行を行います。

不具合	考えられる原因	対応
スタートキーを作動してもエンジンが回転しない	操作ミス	- エンジン始動の作業ステップに従って下さい。(📖 頁 41)
	12V バッテリーが放電される	- 12V バッテリーを充電します。🔌 (📖 頁 79)
	メインヒューズ、あるいはヒューズ3、4または7が飛んでいる	- 各電装系部品のヒューズを交換します。(📖 頁 83) - メインヒューズを交換します。(📖 頁 81)
	セルフスターターモーターがアース接続されていない	- アース接続を点検します。
クラッチレバーを握らないとエンジンが回転しない	ギアが入っている	- ギアをニュートラルに入れます。
	ギアが入っており、サイドスタンドが出ている	- ギアをニュートラルに入れます。
エンジンが回転しているのかからない	操作ミス	- エンジン始動の作業ステップに従って下さい。(📖 頁 41)
	クイックカップリングが差し込まれていない	- クイックカップリングを差し込みます。
	電子フューエルインジェクションの不具合	- KTM 診断ツールでエラーメモリーを解読します。🔌
エンジンの出力が低過ぎる	エアフィルターがひどく汚れている	- エアフィルターを交換します。
	燃料フィルターがひどく汚れている	- 燃圧を点検します。🔌
	電子フューエルインジェクションの不具合	- KTM 診断ツールでエラーメモリーを解読します。🔌
エンジンが異常に熱くなる	冷却システムのクーラントが少な過ぎる	- 冷却システムに漏れがないか点検します。 - クーラントのレベルを点検します。(📖 頁 94)
	ラジエーターのフィンがひどく汚れている	- ラジエーターのフィンを清掃します。
	冷却システム内に気泡が発生している	- クーラントを排出します。🔌 (📖 頁 95) - 冷却システムにクーラントを注入してエア抜きをします。🔌(📖 頁 96)
	サーモスタットが故障している	- サーモスタットを点検します。🔌
	ヒューズ5が飛んでいる	- 各電装系部品のヒューズを交換します。(📖 頁 83)
	冷却ファン装置が故障している	- 冷却ファン装置を点検します。🔌
	電子フューエルインジェクションの不具合	- KTM 診断ツールでエラーメモリーを解読します。🔌
走行中にエンジンが停止する	燃料不足	- 燃料を給油します。(📖 頁 47)
	メインヒューズ、あるいはヒューズ3、4または7が飛んでいる	- 各電装系部品のヒューズを交換します。(📖 頁 83) - メインヒューズを交換します。(📖 頁 81)
ABS 警告ランプが点灯している	ヒューズが飛んでいる	- ABS のヒューズを交換します。(📖 頁 82)

不具合	考えられる原因	対応
ABS 警告ランプが点灯している	前輪と後輪の回転数に大きな差がある	- 停車してイグニッションを停止し、再スタートします。
	ABS の不具合	- KTM 診断ツールでエラーメモリーを解読します。🔧
オイルの消費が多い	エンジンのエア抜きホースが折れ曲がっている	- エア抜きホースを折れのないように配置し、必要に応じて交換します。
	エンジンオイルのレベルが高過ぎる	- エンジンオイルのレベルを点検します。(📖 頁 101)
	エンジンオイルの濃度 (粘度) が低過ぎる	- エンジンオイルとオイルフィルターを交換し、オイルスクリーンを清掃します。🔧(📖 頁 101)
ヘッドライトとポジションライトが機能しない	ヒューズ6が飛んでいる	- 各電装系部品のヒューズを交換します。(📖 頁 83)
ターンシグナル、ブレーキライト、ホーンが機能しない	ヒューズ4、6のいずれかが飛んでいる	- 各電装系部品のヒューズを交換します。(📖 頁 83)
時計が表示されない、または正しく表示されない	ヒューズ2が飛んでいる	- 各電装系部品のヒューズを交換します。(📖 頁 83)
12V バッテリーが放電される	車両を停止した際、イグニッションをオフにしなかった	- 12V バッテリーを充電します。🔧(📖 頁 79)
	12V バッテリーがジェネレーターで充電されない	- 充電電圧を点検します。🔧 - スタンバイ電流を点検します。🔧
コンビネーションインストルメントの画面に何も表示されない	ヒューズ2、7のいずれかが飛んでいる	- 各電装系部品のヒューズを交換します。(📖 頁 83)
コンビネーションインストルメントの速度表示が機能しない	速度表示のワイヤーハーネスが損傷している、またはコネクタが酸化している	- ワイヤーハーネスとコネクタを点検します。

23.1 エンジン

構造	単気筒、4ストローク、水冷エンジン
排気量	249 cm ³
ストローク	61.1 mm
ボア	72 mm
圧縮比	12.5:1
駆動方式	4バルブ DOHC、カムレバーによる制御、チェーンによる駆動
吸気バルブの直径	29 mm
排気バルブの直径	24 mm
吸気バルブ遊び (冷えた状態)	0.10 ... 0.15 mm
排気バルブ遊び (冷えた状態)	0.15 ... 0.20 mm
クランクシャフトベアリング	スライドベアリング x 2
コンロッドベアリング	スライドベアリング
ピストン	軽合金、鋳造
ピストンリング	コンプレッションリング x 1、テーパフェースリング x 1、オイルリング x 1
エンジン潤滑方式	トロコイドポンプ 2 台による圧送式潤滑
一次減速比	30:80
クラッチ	湿式クラッチ、機械式作動
ギア	6 速ギア常時噛合式
変速比	
1 速	12:32
2 速	14:26
3 速	19:27
4 速	21:24
5 速	23:22
6 速	25:21
フューエルマネージメント	電子フューエルインジェクション
イグニッション	非接触制御電子イグニッション、デジタルイグニッションコントローラー
ジェネレーター	12 V, 230 W
スパークプラグ	BOSCHVR6NEU
スパークプラグ電極間のクリアランス	1 mm
冷却システム	水冷式、ウォーターポンプによるクーラントの常時循環
アイドリング回転数	1,500 ± 50 rpm
エンジンスタート装置	セルフスターターモーター

23.2 締付けトルク、エンジン

オイルジェット	M5	6 Nm	Loctite®243™
ギアセンサー用スクリュー	M5	6 Nm	Loctite®243™
クランクシャフト回転数センサー用スクリュー	M5	6 Nm	Loctite®243™
固定ブラケット用スクリュー	M5	6 Nm	Loctite®243™
固定子ケーブル固定ブラケット用スクリュー	M5	8 Nm	Loctite®243™
固定子用スクリュー	M5	8 Nm	Loctite®243™
ウォーターポンプカバー用スクリュー	M6	12 Nm	
ウォーターポンプホイール用ナット	M6	10 Nm	Loctite®243™
ウォーターポンプ排水口用スクリュープラグ	M6	10 Nm	
エンジンエア抜きプレート用スクリュー	M6	10 Nm	Loctite®243™
エンジンケース用スクリュー	M6x35	12 Nm	
エンジンケース用スクリュー	M6x75	12 Nm	Loctite®243™
オイルジェット	M6	6 Nm	Loctite®243™
オイルフィルターカバー用スクリュー	M6	12 Nm	
オイルポンプ用スクリュー	M6	12 Nm	Loctite®243™
カムシャフトデコンプシャフト用スクリュー	M6	10 Nm	Loctite®243™
カムシャフトベアリングブラケット用スクリュー	M6	10 Nm	
クラッチカバーのラジアルシールリング固定ブラケット用スクリュー	M6	12 Nm	Loctite®243™
クラッチカバー用スクリュー	M6	12 Nm	
クラッチスプリング用スクリュー	M6	10 Nm	
クラッチワイヤー固定ブラケット用スクリュー	M6	6 Nm	Loctite®243™
ジェネレーターカバー用スクリュー	M6	12 Nm	
シフトロック用スクリュー	M6	12 Nm	Loctite®243™
シリンダーヘッド用スクリュー	M6	12 Nm	
セルフスターターモーター用スクリュー	M6	12 Nm	

タイミングチェーンテンショナー リリース用スクリュー	M6	6 Nm	
タイミングチェーンテンショナー レール用スクリュー	M6	12 Nm	Loctite®243™
タイミングチェーンテンショナー 用スクリュー	M6	12 Nm	
チェーン脱落防止用スクリュー	M6	10 Nm	Loctite®243™
バルブカバー用スクリュー	M6	12 Nm	
フリーホイールギア固定ブラケット 用スクリュー	M6	12 Nm	Loctite®243™
フロントスプロケット保護プレート 用スクリュー	M6	12 Nm	Loctite®243™
ベアリングロック用スクリュー	M6	12 Nm	Loctite®243™
ロックレバー用スクリュー	M6	12 Nm	Loctite®243™
固定ブラケット用スクリュー	M6	12 Nm	Loctite®243™
シフトシャフトスプリングガイド 用スクリュー	M8	20 Nm	Loctite®243™
スクリュープラグ	M8	12 Nm	Loctite®243™
balanserシャフト - ギア用スクリュー	M8	40 Nm	Loctite®243™
排気管フランジ用スタッドボルト	M8	22 Nm	
排気管フランジ用ナット	M8	8 Nm	
コンロッドベアリング用スクリュー	M8x1	34 Nm	
カムシャフトのギア用スクリュー	M10	36 Nm	Loctite®243™
クーラント - 温度センサー	M10	14 Nm	
シリンダーヘッド用スクリュー	M10	1レベル 30 Nm 2レベル 60 Nm ねじ山にはオイルを差し、ヘッド接 触面はグリースアップ	
ローター用スクリュー	M10	105 Nm	Loctite®243™
油圧スイッチ	M10	14 Nm	
カムレバー用スクリュープラグ	M10x1	10 Nm	
スパークプラグ	M12	15 Nm	
インナークラッチハブ用ナット	M16LHx1.5	120 Nm	Loctite®243™
第一ギア / タイミングチェーンギア 用ナット	M16x1.5	120 Nm	Loctite®243™
オイルスクリーン (小) 用スクリュー プラグ	M17x1.5	12 Nm	

ジェネレーターカバー用スク リュープラグ	M18x1.5	10 Nm
オイルドレインボルト	M24x1.5	15 Nm
ジェネレーターカバー用スク リュープラグ	M24x1.5	10 Nm
バルンサーシャフトドライブギア 用ナット	M28	60 Nm

23.3 容量

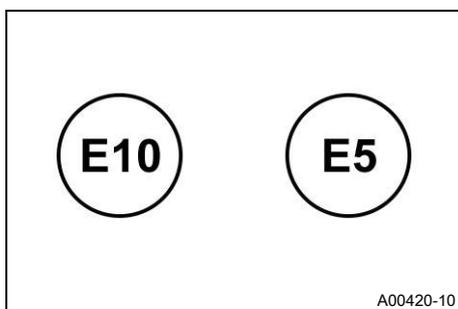
23.3.1 エンジンオイル

エンジンオイル	1.7 L	エンジンオイル (SAE 15W/50) ( 頁 119)
---------	-------	--

23.3.2 クーラント

クーラント	1.2 L	クーラント ( 頁 119)
-------	-------	--

23.3.3 燃料



EU ガソリンスタンドのマーキングに注意して下さい。

フューエルタンク総容量 (約)	14.5 L	無鉛ハイオクガソリン (ROZ 95) ( 頁 120)
-----------------	--------	---

予備燃料 (約)	3.5 L
----------	-------

23.4 シャーシ

フレーム	鋼管スペースフレーム、パウダーコーティング
フロントフォーク	WP APEX 3043
ショックアブソーバー	WP APEX 3146
ブレーキシステム	
前方	4ピストンブレーキキャリパー付きディスクブレーキ
後輪	ディスクブレーキ、シングルピストンブレーキキャリパー、フローティングマウント
サスペンションストローク (EU/JP/AR/CO)	
前輪	170 mm
後輪	177 mm
サスペンションストローク (PH)	
前輪	147 mm
後輪	152 mm
ブレーキディスク直径	

前方	320 mm
後輪	230 mm
ブレーキディスク磨耗限界	
前方	4.5 mm
後輪	3.6 mm
同乗者なしでのタイヤの空気圧	
前方	2.0 bar
後輪	2.0 bar
同乗者あり / 最大積載量でのタイヤの空気圧	
前方	2.0 bar
後輪	2.2 bar
二次減速比	14:46
チェーン	5/8 x 1/4" (520) X リング
ステアリングヘッド角度	63.5°
ホイールベース	1,430 ± 15.5 mm
シート高 (負荷がない状態) (EU/JP/AR/CO)	855 mm
シート高 (負荷がない状態) (PH)	829 mm
最低地上高 (負荷がない状態) (EU/JP/AR/CO)	200 mm
最低地上高 (負荷がない状態) (PH)	175 mm
燃料を除いた重量 (約)	159 kg
前方許容最大軸重	135 kg
最大許容軸重 (後輪)	275 kg
最大許容総重量	375 kg

23.5 電装系

12V バッテリー	ETZ-9-BS	バッテリー電圧: 12 V 定格容量: 8 Ah メンテナンスフリー
ヒューズ	75011088010	10 A
ヒューズ	75011088015	15 A
ヒューズ	75011088020	20 A
ヒューズ	90111088025	25 A
ヒューズ	75011088030	30 A
ヘッドライト	H4 / ソケット P43t	12 V 60/55 W
ポジションライト	LED	
コンビネーションインスツルメントの照明及びインジケータランプ	LED	
ブレーキライト / テールライト	LED	
ナンバープレートライト	LED	

23.6 タイヤ

フロントタイヤ	リアタイヤ
100/90 - 19 M/C 57S TL MRF Mogrip Meteor-FM2	130/80 - 17 M/C 65S TL MRF Mogrip Meteor-FM2
ここに示されるタイヤは標準装備が予定されているタイヤの一例です。正規代理メーカーまたは認定タイヤ販売店にお問い合わせください。それぞれのケースに適用される地域の認可規定および技術仕様は遵守する必要があります。下記アドレスのサービスで詳細をご確認下さい: KTM.COM	

23.7 フロントフォーク

23.7.1 EU/JP/AR/CO

フロントフォークタイプナンバー	95701000144	
フロントフォーク	WP APEX 3043	
フロントフォーク長	798.5 mm	
スプリング長 (プリロードスパーサーを含む)	384 mm	
ばね定数		
ミドル (標準)	5.7 N/mm	
フロントフォークオイル	450 ... 460 ml	フロントフォークオイル (SAE 4) (48601166S1) (📖 頁 120)

23.7.2 PH

フロントフォークタイプナンバー	95801000344	
フロントフォーク	WP APEX 3043	
フロントフォーク長	798.5 mm	
スプリング長 (プリロードスパーサーを含む)	384 mm	
ばね定数		
ミドル (標準)	5.7 N/mm	
フロントフォークオイル	450 ... 460 ml	フロントフォークオイル (SAE 4) (48601166S1) (📖 頁 120)

23.8 ショックアブソーバー

23.8.1 EU/JP/AR/CO

ショックアブソーバータイプナンバー	95704010100	
ショックアブソーバー	WP APEX 3146	
スプリングプリロード		
標準	3 クリック	
空車サグ	12 mm	
ライディングサグ	34 mm	
ばね定数		
ミドル (標準)	150 N/mm	
スプリング長	186 mm	
取り付け時の全長	307 mm	
ガス圧	16 bar	

ダンパーオイル	ダンパーオイル (SAE 2.5) (50180751S1) (📖 頁 119)
---------	---

23.8.2 PH

ショックアブソーバータイプナンバー	95804010300
ショックアブソーバー	WP APEX 3146
スプリングプリロード	
標準	3 クリック
空車サグ	12 mm
ライディングサグ	34 mm
ばね定数	
ミドル (標準)	150 N/mm
スプリング長	186 mm
取り付け時の全長	307 mm
ガス圧	16 bar
ダンパーオイル	ダンパーオイル (SAE 2.5) (50180751S1) (📖 頁 119)

23.9 締付けトルク、シャーシ

チェーンガード用スクリュー	EJOT PT® K60x30	3 Nm	
テールライト用スクリュー	M4	2 Nm	
シャーシ用その他のスクリュー	M5	5 Nm	
スクリューキャップロック 調節 タンク 後輪ブレーキ	M5	9 Nm	
チェーンガード用スクリュー	M5	7 Nm	Loctite®243™
ブレーキペダルステップ用スク リュー	M5	5 Nm	Loctite®243™
エンジンガード固定ブラケット用 スクリュー	M6	9 Nm	Loctite®243™
エンジンガード用スクリュー	M6	9 Nm	Loctite®243™
シフトレバーリンケージ用スク リュー	M6	11 Nm	Loctite®243™
シフトロッド用ナット	M6	6 Nm	
シャーシ用その他のスクリュー	M6	9 Nm	
シャーシ用その他のナット	M6	15 Nm	
ブレーキペダル調節用ナット	M6	10 Nm	
交差接続用スクリュー	M6	15 Nm	
車輪速度センサーホルダー用スク リュー	M6	8 Nm	
シャーシ用その他のナット	M8	30 Nm	
ハンドルパークランプ用スク リュー	M8	20 Nm	
フォークレグのアクスル通し穴 用スクリュー	M8	15 Nm	

リアスプロケット用ナット	M8	38 Nm	
後輪ブレーキディスク用スク リュー	M8	29 Nm	Loctite®243™
前方アクスルシャフト用スク リュー	M8	25 Nm	
前方ブレーキディスク用スク リュー	M8	29 Nm	Loctite®243™
同乗者向けフットレストサポ ート用スクリュー	M8	20 Nm	Loctite®243™
前方ブレーキキャリパー用スク リュー	M8x1	30 Nm	Loctite®243™
エンジンマウント用ナット	M10	48 Nm	Loctite®243™
シャーシ用その他のナット	M10	50 Nm	
ハンドルアダプター用スクリ ュー	M10	40 Nm	
ショックアブソーバー用下部ス クリュー	M10x1.25	50 Nm	Loctite®243™
ショックアブソーバー用上部ス クリュー	M10x1.25	50 Nm	Loctite®243™
スイングアームピボット用ナ ット	M14x1.5	100 Nm	
後輪アクスルシャフト用ナ ット	M14x1.5	100 Nm	
ステアリングヘッド用上部ス クリュー	M16x1.5	53 Nm	

エンジンオイル (SAE 15W/50)

規格 / 分類

- JASO T903 MA2 (📖 頁 122)
- SAE (📖 頁 122) (SAE 15W/50)

規定

- 指定された規格 (タンク記載を参照) を満たし、使用環境に応じた品質のエンジンオイルのみを使用して下さい。

一部化学合成エンジンオイル

推奨製品

- MOTOREX®
- Formula 4T

クーラント

規定

- アルミニウム製エンジン用腐食防止剤が混合され珪酸を含有しない高品質のクーラントのみを使用して下さい。低品質で不適切な不凍液は腐食、沈着、発泡の原因となります。
- 腐食防止や潤滑特性などはクーラントによってのみ可能なものですので、純水は使用しないで下さい。
- 指定された規格 (タンク記載を参照) に適合し、これに応じた特性を有するクーラントのみを使用して下さい。

耐凍結効果有効期間	-25 °C
-----------	--------

必要となる耐凍結効果得るために配合割合を調整しなければなりません。クーラントを薄める必要がある場合は蒸留水を使用して下さい。

事前調査されているクーラントの使用が推奨されています。

耐凍結効果、薄め方、他のクーラントとの混和性 (互換性) に関してはクーラントメーカーの指示に従って下さい。

推奨製品

- MOTOREX®
- COOLANT M3.0

ダンパーオイル (SAE 2.5) (50180751S1)

規格 / 分類

- SAE (📖 頁 122) (SAE 2.5)

規定

- 指定された規格 (タンク記載を参照) に適合し、これに応じた特性を有するオイルのみを使用して下さい。

ブレーキフルード DOT 4 / DOT 5.1

規格 / 分類

- DOT

規定

- 指定された規格 (タンク記載を参照) に適合し、これに応じた特性を有するブレーキフルードのみを使用して下さい。

推奨製品

- Castrol
- REACT PERFORMANCE DOT 4
- MOTOREX®
- Brake Fluid DOT 5.1

フロントフォークオイル (SAE 4) (48601166S1)

規格 / 分類

- SAE (📖 頁 122) (SAE 4)

規定

- 指定された規格 (タンク記載を参照)を満たし、使用環境に応じた品質のオイルのみを使用して下さい。

無鉛ハイオクガソリン (ROZ 95)

規格 / 分類

- DIN EN 228 (ROZ 95)

規定

- 指定内容に該当するまたは同等の無鉛プレミアムガソリンのみを使用して下さい。
- 最大 10%のエタノールを含む混合ガソリン (E10)を使用しても問題ありません。



参考

メタノール燃料 (M15、M85、M100 など)および 10%以上のエタノールを混合した燃料 (E15、E25、E85、E100 など)は**使用しない**で下さい。

チェーンスプレー・ Street

規定

推奨製品

MOTOREX®

- Chainlube Road Strong

チェーン洗浄剤

推奨製品

MOTOREX®

- Chain Clean

モーターサイクル用洗浄剤

推奨製品

MOTOREX®

- Moto Clean

ラッカー塗装 (光沢、非光沢)、金属、プラスチック専用洗浄剤

推奨製品

MOTOREX®

- Quick Cleaner

ラッカー塗装、プラスチック、クローム用シャインスプレー

推奨製品

MOTOREX®

- Moto Shine

ラッカー塗装、金属、ゴム用手入れ剤

推奨製品

MOTOREX®

- Moto Protect

耐久性グリース

推奨製品

MOTOREX®

- Bike Grease 2000

燃料添加剤

推奨製品

MOTOREX®

- Fuel Stabilizer

汎用オイルスプレー

推奨製品

MOTOREX®

- Joker 440 Synthetic

JASO T903 MA2

多岐にわたる技術開発を受け、モーターサイクル専用の規格、**JASO T903 MA2**が生まれました。以前はモーターサイクル専用の仕様がなく、モーターサイクルには乗用車のエンジンオイルが使われていました。

乗用車ではエンジンのサービス頻度を下げる事が重要である一方、モーターサイクルエンジンでは何よりも高回転数で高い出力を引き出す事が要求されます。

モーターサイクルでは、ギアやクラッチにエンジンと同じオイルが使用される事が珍しくありません。

JASO T903 MA2規格はこれら特殊な事象を考慮に入れた内容となっています。

SAE

SAE 粘度は米国の自動車技術者協会 (Society of Automotive Engineers)によって定められたもので、オイルをその粘度によってクラス分けするものです。粘度はオイルの一特性に過ぎず、その品質を表すものではありません。

ABS	アンチロック・ブレーキシステム	直進走行中に車輪がロックしてハンドルが効かなくなってしまうのを防ぐ安全システム
OBD(オン ボード・ダイ アグノーシス)	オンボード診断	車両の電気系統の数値を監視する車両システム

28.1 赤のマーク

赤のマークは直ちに対処すべきエラー状態を示します。

	オイル圧力警告ランプが赤く点灯- 油圧が低過ぎます。交通規制に従った方法で速やかに停車し、エンジンを止めます。
---	---

28.2 黄色とオレンジ色のマーク

黄色とオレンジ色のマークはできるだけ早く対処すべきエラー状態を示します。運転支援システムが作動している場合も同様に黄色またはオレンジ色のマークが表示されます。

	不具合インジケータランプが黄色に点灯- OBDが車両の電気系統で不具合を検出しました。
	一般警告ランプが黄色に点灯- 使用上の安全性に関する注意 / 警告事項が検出されました。これはディスプレイにも表示されます。
	ABS 警告ランプが黄色に点灯- ABSの状態メッセージまたはエラーメッセージ。

28.3 緑と青のマーク

緑と青のマークは情報を表示しています。

	ターンシグナルインジケータランプがターンシグナルのリズムで緑に点滅- ターンシグナルが作動しています。
	ニュートラルインジケータランプが緑に点灯- ギアがニュートラルに入っています。
	ハイビームインジケータランプが青く点灯- ハイビームが点灯しています。

1	
12V バッテリー	
充電する	79
取り付ける	79
取り外す	78
A	
ABS	63
モードを調節する	30
ABS のヒューズ	
交換する	82
ABS モード	
調整する	30
ACC1	
後方	91
前方	90
ACC2	
後方	91
前方	90
あ	
アクセルワイヤーの遊び	
調節する	99
点検する	99
アンチロック・ブレーキシステム	63
い	
イグニッション	15
インジケータランプ	22
う	
ウインドシールド	
調整する	35
運転操作の前に	
運転操作の前に必ず行う点検・メンテナンス作業	41
初めて運転操作を行う際の注意	39
保管後	108
え	
エマージェンシーOFFスイッチ	15
エンジン	
慣らし運転をする	40
エンジンオイル	
交換する	101
補給する	103
エンジンオイルのレベル	
点検する	101
エンジンガード	
取り付ける	60
取り外す	60
エンジンガード固定ブラケット	
取り付ける	61
取り外す	61
エンジン始動	41
エンジンナンバー	12
お	
オイルスクリーン	
清掃する	101
オイルフィルター	
交換する	101
オーナーズマニュアル	8
か	
各部の名称	
左前方	10
右後方	11
カスタマーサービス	9
環境	8
き	
キーナンバー	12
技術アクセサリ	9
給油する	
燃料	47
く	
クーラント	
交換する	97
排出する	95
クーラントのレベル	
点検する	92, 94
クラッチレバー	13
クラッチレバーの遊び	
調節する	100
点検する	99
け	
ケミカル類	9
こ	
交換部品	9
後輪	
取り付ける	73
取り外す	72
後輪のハブダンパー	
点検する	75
誤使用	6
コンビネーションインスツルメント	
Average Speed Trip1	27
Average Speed Trip2	29
Avg Fuel Cons 1	28

Avg Fuel Cons 2	29	タイヤ	116
Fuel Range	28, 30	電装系	115
Time Trip 1	27	フロントフォーク	116
Time Trip 2	29	容量	114
TRIP 2表示	28	使用環境	6
インジケータランプ	22	使用時の安全性	7
各部の名称	20	ショックアブソーバー	
起動とテスト	20	スプリングプリロードを調節する	51
機能ボタン	26	診断プラグ	90
クーラント温度の表示	25	す	
警告	20	スイッチ	
シフト表示	23	左ハンドルバー	13
シフトランプ	23	右ハンドルバー	15
ディスプレイ	24	スタートキー	15
燃料レベル表示	25	スロットルグリップ	13
ODO表示	26	せ	
コンビネーションスイッチ	13	前輪	
各部の名称	13	取り付ける	71
さ		取り外す	71
サービス	9	そ	
サービスプラン	49-50	走行	43
サイドグリップ	18	発進	42
サイドスタンド	19	た	
作業上の決まり	8	ターンシグナルスイッチ	14
し		タイプラベル	12
シートロック	18	タイヤ空気圧	
時刻		点検する	76
設定する	31	タイヤの状態	
シフト操作	43	点検する	75
シフトランプ		単位	
調節する	32	設定する	31
シフトレバー	19	ち	
調整する	37	チェーン	
車載工具	18	清掃する	56
写真	9	点検する	58
車両		汚れを点検する	56
清掃する	105	チェーンの遊び	
フロントスタンドから降ろす	53	設定する	57
フロントスタンドで持ち上げる	52	点検する	57
リアスタンドから降ろす	52	駐車	46
リアスタンドで持ち上げる	52	て	
車両識別番号	12	停止	46
車両に荷物を積む	40	電装系アクセサリ用コンセント	16
仕様一覧		と	
エンジン	111	冬季運転	
締付けトルク、シャーシ	117	点検・メンテナンス作業	106
締付けトルク、エンジン	112		
シャーシ	114		
ショックアブソーバー	116		

同乗者用フットレスト	18	フロントシート	
トラブルシューティング	109-110	取り外す	55
に		を取り付ける	55
荷物	40	フロントスプロケット	
は		点検する	58
パッシングライトスイッチ	14	フロントフェンダー	
パッドピン		取り付ける	62
(後輪ブレーキ)点検する	70	取り外す	62
(前輪ブレーキ)点検する	66	へ	
ハンドル操作		ヘッドライト	
ロックする	15	照明距離を調節する	90
ロックを解除する	16	ヘッドライトの設定	
ハンドルバーの位置		点検する	89
調整する	34	ヘッドライトバルブ	
ハンドルロック	15	交換する	85
ひ		ほ	
ヒューズ		法定保証	9
各電装系部品を交換する	83	ホーンスイッチ	14
ふ		保管	107
フィルターキャップ		保護服	7
閉じる	17	め	
外す	16	メインヒューズ	
フォークレッグ		交換する	81
ダストシールを清掃する	53	メーカー保証	9
不凍液		ゆ	
点検する	92	油脂類	9
ブレーキ	45	輸送	47
ブレーキディスク		よ	
点検する	64	容量	
ブレーキパッド		エンジンオイル	114
(後輪ブレーキ)点検する	70	クーラント	114
(前輪ブレーキ)点検する	66	燃料	48, 114
ブレーキフルード		ら	
(後輪ブレーキ)補給する	69	ライトスイッチ	14
(前輪ブレーキ)補給する	65	り	
ブレーキフルードのレベル		リアシート	
(後輪ブレーキ)点検する	68	取り付ける	55
(前輪ブレーキ)点検する	64	取り外す	54
ブレーキペダル	19	リアスプロケット	
遊びを調節する	67	点検する	58
遊びを点検する	67	れ	
基本位置を調整する	36	冷却システム	
ブレーキペダルのステップ		クーラントを注入してエア抜きをする	96
調節する	36		
ブレーキレバー	13		
ブレーキをかける	45		



3214575ja

2024 年 04 月

